

三宅島火山活動災害 第2回 避難生活実態調査

集計結果報告書

平成13年12月

東京都三宅村

目次

1. 調査の目的と方法	1
2. 集計結果の概要	2
(1) 自宅の被害の概要	2
1) 自宅の被害の概要	2
2) 住宅の種類別再建意向	3
3) 今後心配される被害	4
(2) 生計の実態	5
1) 職業と職業形態の変化	5
2) 就労の実態	6
3) 生活費の実態	8
4) 収入の実態	10
5) 現在の暮らしむき	12
6) 今後の生計の見通し	15
7) 生活保護制度	20
8) 生計に対する要望	21
(3) 借入金の実態	22
(4) 住宅の実態	25
1) 住宅に対する意識	25
2) 移転に対する希望	26
3) 住宅に対する意識	25
(5) 砂防施設・防災対策について	28
1) 砂防施設・防災施設	28
2) 砂防事業に対する意向	31
(6) 復興についての意向	38
1) 帰島に関する意向	38
2) 復興に関する意向	40
(7) 行政への要望	48
3. 資料編	
1. 調査結果	資- 1
2. 自由記入	資-46
3. 調査票	資-74

1. 調査の目的と方法

(1) 目的

本調査は、三宅島火山活動災害により避難生活を強いられている被災者に対する今後の施策に反映させるために、被災者の生活実態や意向を把握することを目的とする。

(2) 対象

平成13年10月1日現在の住民基本台帳に基づく世帯主 1,982世帯
(避難後の再移転先不明世帯21世帯および平成12年9月4日以降の転入者を除く)

(3) 実施期間など

- 1) 調査方法 郵送調査法(記名式)
- 2) 調査期間 平成13年10月18日～11月2日

(4) 回収率

回収数：1,603票 回収率：80.9%

(5) 調査機関

(株)社会安全研究所

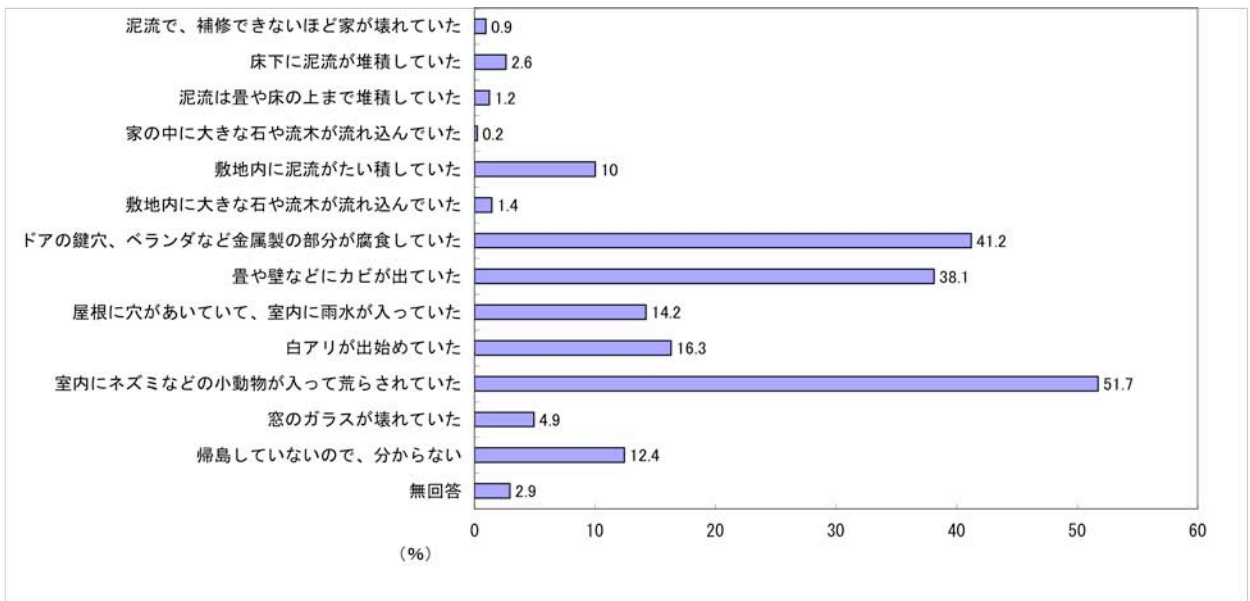
2. 集計結果の概要

(1) 一時帰宅に基づく被害の実態

(調査票の「B 一時帰宅について、お伺いします」の質問)

1) 自宅の被害の概要

自宅の被害状況(問1)で最も多かった回答が、「小動物による被害」で51.7%、これに「金属製の部分の腐食」の41.2%、「カビ」の38.1%と続いている。「白アリ」についても16.3%の世帯で確認されており、「室内への雨の流入」も14.2%となっている。泥流による被害は10%の世帯から「敷地内に泥流が堆積していた」という回答があった。【B一図1】

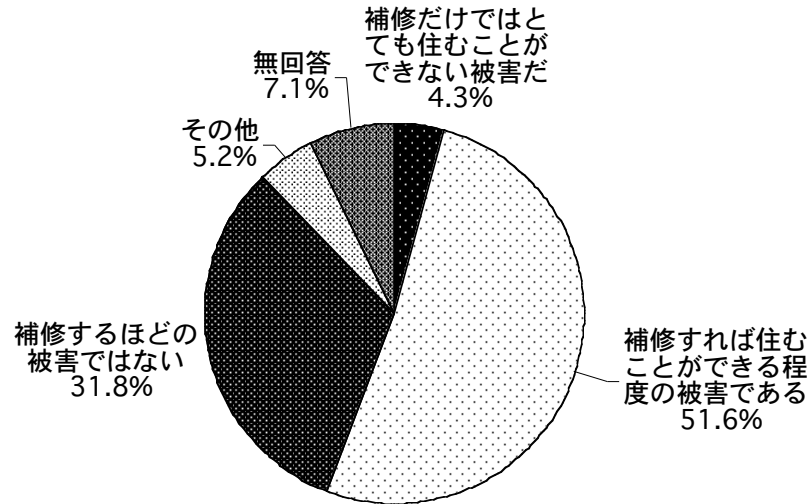


B一図1 自宅の被害概要
(回答世帯数 1,603 世帯・複数回答)

各地区とも、「小動物による被害」と「金属製の部分の腐食」が多いが、中でも泥流被害が最も大きいのは神着地区で「敷地内に泥流が流入している」と回答した世帯は80世帯で全体の28.6%に及ぶ。また、「白アリ」や「室内への雨水の流入」は坪田地区で顕著に表れており、「白アリ」が22.4%、「室内への雨水の流入」が19.9%である。一方、今のところ各種被害が比較的少ないのは、伊豆地区である。(※資料編(B)2)参照)

自宅の被害程度(問2)は、今のところ「補修程度が」一番多く約半分の51.6%となっている。しかし、すでに「補修だけでは住むことが難しい」と59世帯(4.3%)が回答している。【B一図2】

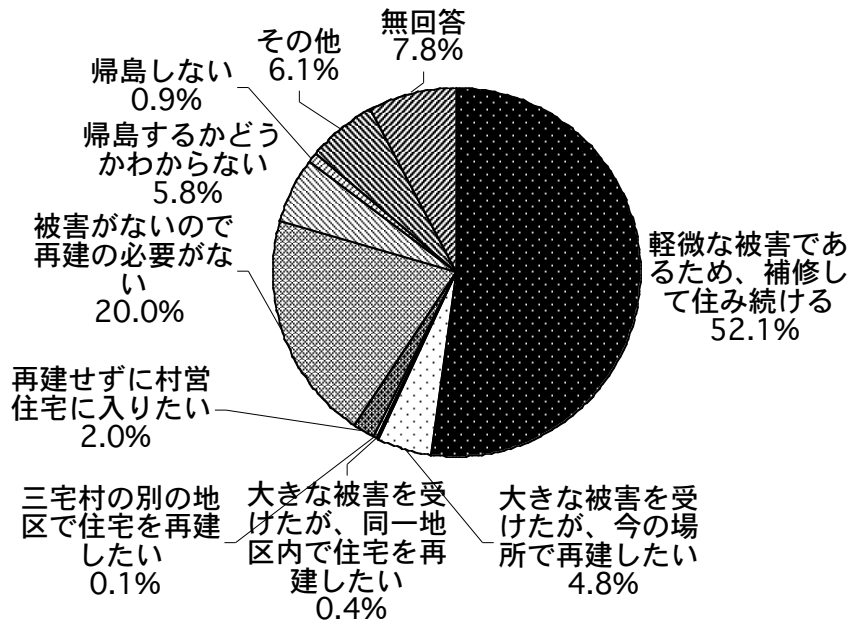
地区別では、「補修だけでは住むことが難しい」という回答が最も多かったのが伊ヶ谷地区(10%)であるが、回答のあった59世帯の地区別では、坪田が最も多く16世帯、これに神着(15世帯)と阿古(14世帯)が続いている。(※資料編(B)4)参照)



B一図2 自宅の被害程度
(回答世帯数 1,357 世帯)

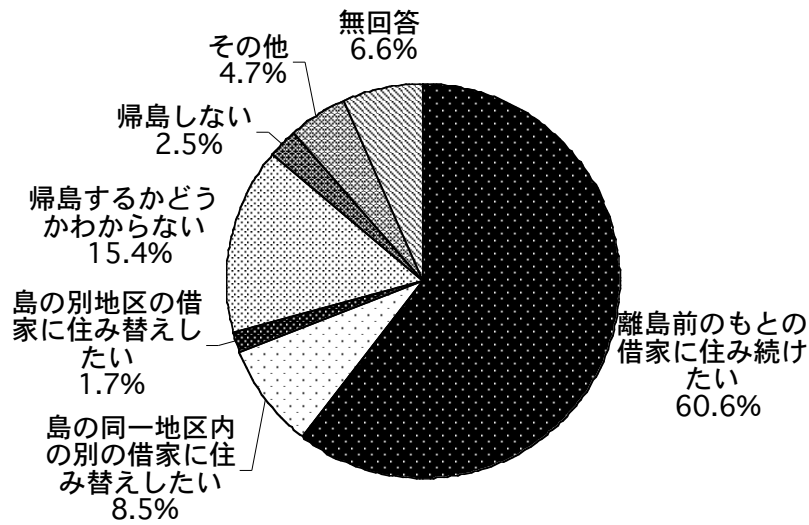
2) 住宅の種類別再建意向

自己所有の住宅（問3）で、「軽微な被害で補修して住み続ける」が半数以上の52.1%、次いで「被害がなく、再建の必要がない」が20.0%と続いている。一方、「大きな被害を受けた世帯」の再建意向は、「従前の場所」（4.8%）が「同一地区内」（0.4%）を上回っている。【B一図3】



B一図3 （自己所有）自宅の再建
(回答世帯数 1,179 世帯)

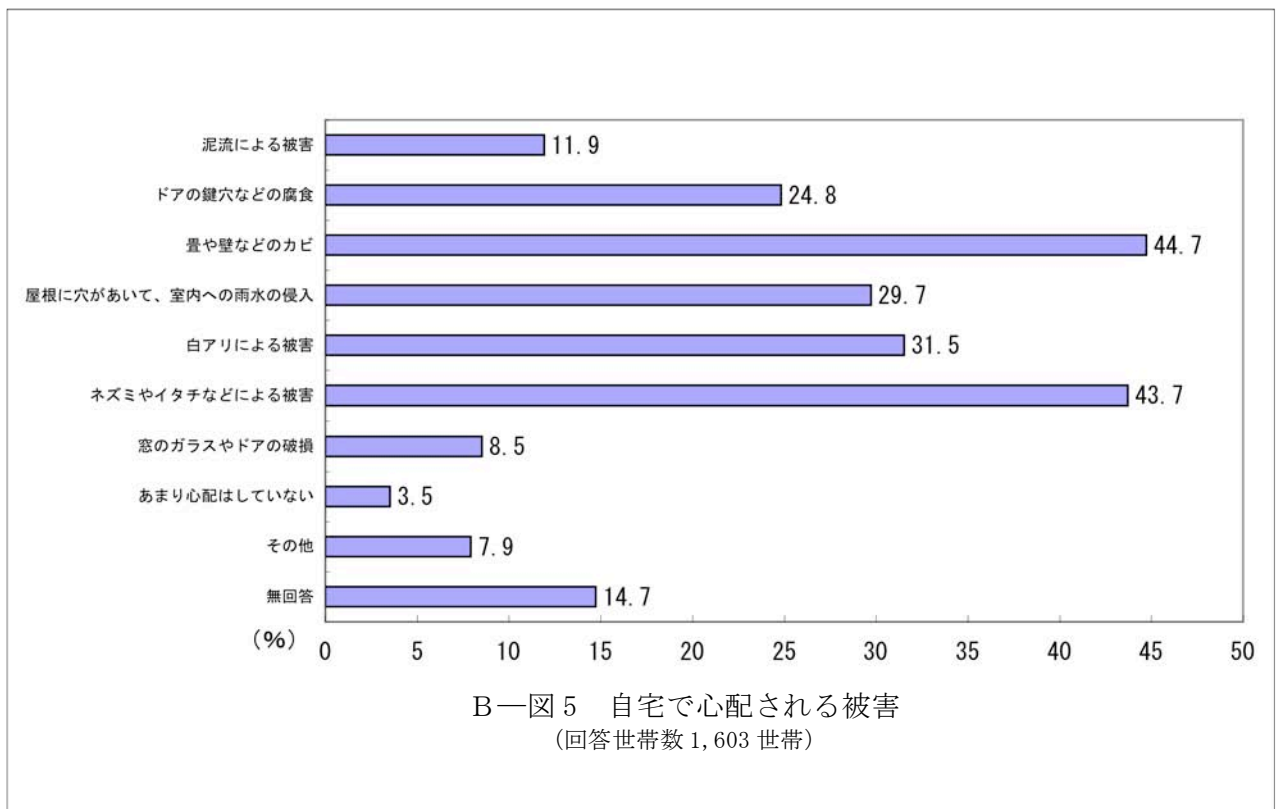
借家の方の回答（問4）からは、「もとの借家」あるいは「同一地区内の別の借家」への居住希望が約7割であった。【B一図4】



B一図4 (借家) 帰島後の住まい
(回答世帯数 363 世帯)

3) 今後心配される被害

今後心配される被害について（問5）は、あまり心配していないという回答は3.5%しかなく、多くの住民が不安を抱いている。なかでも多いのが「カビ」、「ネズミなどによる被害」で、いずれも約44%である。また自宅の被害状況で14~16%の被害の回答があった「白アリ」や「雨水の浸入」に対する不安も多く、両者とも約30%になっている。【B一図5】



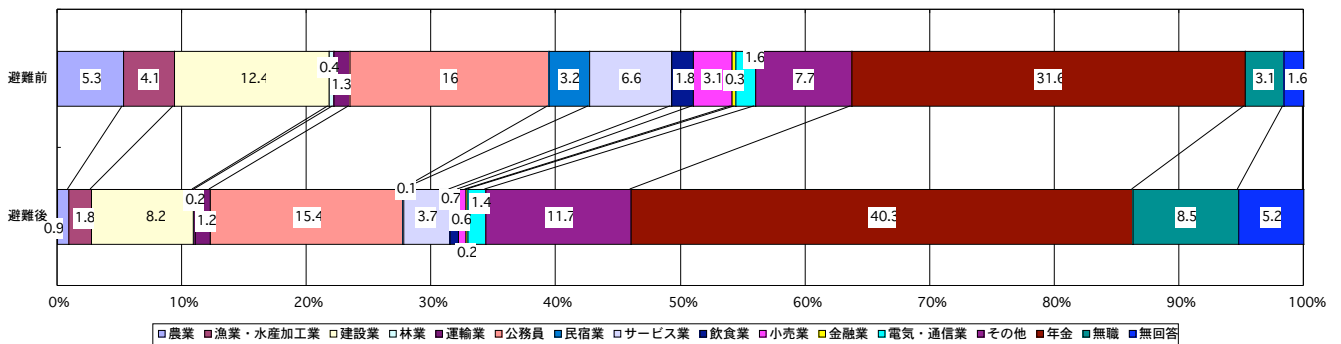
B一図5 自宅で心配される被害
(回答世帯数 1,603 世帯)

(2) 生計の実態

(調査票の「C あなたの世帯の生計について、お伺いします」の質問)

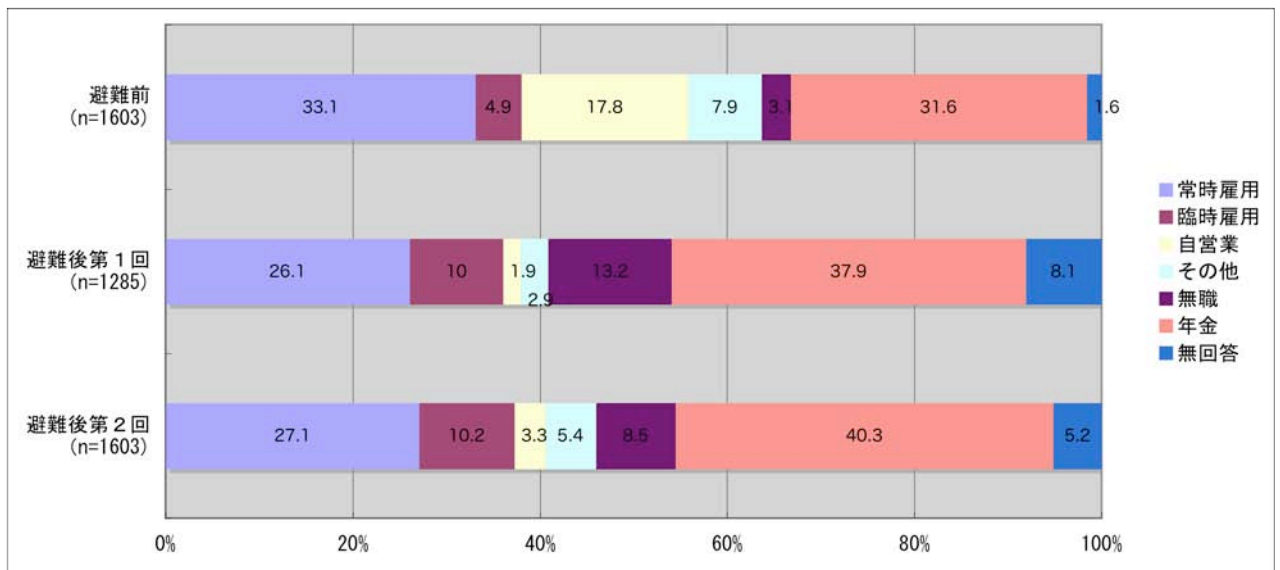
1) 職業と就業形態の変化

避難前の主な収入源となっている職業（A問6）で、最も多かった回答は「年金」で31.6%、これに「公務員」16.0%、「建設業」12.4%と続いている。避難後（問8）では、「年金」が40.3%、これに「公務員」15.4%、「その他」11.7%、「無職」8.5%と続いている。避難前と避難後の比較では、「年金」「その他」「無職」が避難後に増加しており、それ以外の業種は減少している。いずれにおいても、最も多い「年金」は、第一回目の調査と比較しても、前回の避難後37.9%からさらに増加している。一方、「無職」は、前回の避難後13.2%から8.5%と減少しており、避難生活が長期化するなかで、就労世帯の増加がみられる。【C一図1】



C一図1 職業の変化
(回答世帯数 1,603 世帯)

就業形態では、避難前に17.8%を占めていた「自営業」は3.3%と大幅に減少している。また、「常時雇用」も同様に33.1%から27.1%に現象した。一方、「臨時雇用」は4.9%から10.2%に増加している。第一回目の調査と比較すると、「自営業」を含む全ての就業形態で増加傾向がみられ、島民が様々な形態で就業に努めているといえる。【C一図2】



C一図2 就業形態の変化

2) 就労の実態

(調査票の「C あなたの世帯の生計について、お伺いします」の質問)

就労者のいる世帯(問1)は51.2%で、第1回調査での求職活動の質問で「仕事をしている」と回答した36.4%と比較すると、大幅に15ポイント増加している。【E一表1】

E一表1 現在の就労状況

調査数	いない	1人	2人	3人	4人以上	無回答
1603	484	543	234	34	9	299
100.0	30.2	33.9	14.6	2.1	0.6	18.7

現在の就労状況を年代別に見ると、就労している人がいない世帯では、60歳代以上の校正が高くなっており、特に、80歳以上では60%となっている。

E一表1-2 現在の就労状況(年代別)

	0人	1人	2人	3人	4人	5人	無回答	総計
全体	484	543	234	34	7	2	299	1603
	30.2	33.9	14.6	2.1	0.4	0.1	18.7	100.0
20歳代	1	61	7	1	1	0	6	77
	1.3	79.2	9.1	1.3	1.3	0.0	7.8	100.0
30歳代	5	95	19	1	0	0	12	132
	3.8	72.0	14.4	0.8	0.0	0.0	9.1	100.0
40歳代	17	105	57	2	2	1	14	198
	8.6	53.0	28.8	1.0	1.0	0.5	7.1	100.0
50歳代	30	127	81	22	3	1	34	298
	10.1	42.6	27.2	7.4	1.0	0.3	11.4	100.0
60歳代	131	100	40	3	1	0	83	358
	36.6	27.9	11.2	0.8	0.3	0.0	23.2	100.0
70歳代	193	42	25	4	0	0	88	352
	54.8	11.9	7.1	1.1	0.0	0.0	25.0	100.0
80歳以上	105	11	4	1	0	0	54	175
	60.0	6.3	2.3	0.6	0.0	0.0	30.9	100.0
無回答	2	2	1	0	0	0	8	13
	15.4	15.4	7.7	0.0	0.0	0.0	61.5	100.0

現在仕事を探している世帯は（問2）は22.1%で、人数は429にのぼる。【E-表2】

E-表2 求職希望人数

調査数	いない	1人	2人	3人	4人以上	無回答
1603	784	287	63	4	1	464
100.0	48.9	17.9	3.9	0.2	0.1	28.9

現在の求職希望を年代別に見ると、50歳代で34.2%が職を求めており、中高年の世帯で求職希望が高くなっている。

E-表1-2 求職希望人数（年代別）

	0人	1人	2人	3人	4人	無回答	総計
全体	784	287	63	4	1	464	1603
	48.9	17.9	3.9	0.2	0.1	28.9	100.0
20歳代	60	7	1	0	0	9	77
	77.9	9.1	1.3	0.0	0.0	11.7	100.0
30歳代	89	31	2	0	1	9	132
	67.4	23.5	1.5	0.0	0.8	6.8	100.0
40歳代	113	47	10	0	0	28	198
	57.1	23.7	5.1	0.0	0.0	14.1	100.0
50歳代	135	84	15	3	0	61	298
	45.3	28.2	5.0	1.0	0.0	20.5	100.0
60歳代	151	64	21	1	0	121	358
	42.2	17.9	5.9	0.3	0.0	33.8	100.0
70歳代	157	40	11	0	0	144	352
	44.6	11.4	3.1	0.0	0.0	40.9	100.0
80歳以上	76	13	3	0	0	83	175
	43.4	7.4	1.7	0.0	0.0	47.4	100.0
無回答	3	1	0	0	0	9	13
	23.1	7.7	0.0	0.0	0.0	69.2	100.0

3) 生活費の実態

現在の1ヶ月あたりの生活費（問1）について、回答者の平均は、20.0万円であった。

年齢別（世帯主）でみると20歳代、30歳代では15～20万円が多く、30歳代から64歳までは30万以上が多いことがわかる。65歳から70歳代は10～15万円で、80歳以上は5～10万円という回答が多かった。また、70歳代では約25%の世帯が10万円未満で生活しており、それが80歳代になると約半数の世帯に及んでいる。【C一表1】

C一表1 1ヶ月の生活費（年代別）

	調 査 数	3 万 円 未 満	3 万 円 □ 5 万 円 未 満	5 万 円 □ 1 0 万 円 未 満	1 0 万 円 □ 1 5 万 円 未 満	1 5 万 円 □ 2 0 万 円 未 満	2 0 万 円 □ 2 5 万 円 未 満	2 5 万 円 □ 3 0 万 円 未 満	3 0 万 円 以 上	無 回 答
全 体	1603	13	41	218	243	256	201	126	254	251
	100.0	0.8	2.6	13.6	15.2	16.0	12.5	7.9	15.8	15.7
20歳代	77	-	-	9	17	23	9	6	-	13
	100.0	-	-	11.7	22.1	29.9	11.7	7.8	-	16.9
30歳代	132	-	2	6	15	28	27	11	25	18
	100.0	-	1.5	4.5	11.4	21.2	20.5	8.3	18.9	13.6
40歳代	198	-	-	10	13	23	32	21	69	30
	100.0	-	-	5.1	6.6	11.6	16.2	10.6	34.8	15.2
50歳代	298	2	3	16	28	37	38	30	100	44
	100.0	0.7	1.0	5.4	9.4	12.4	12.8	10.1	33.6	14.8
60～64歳	137	-	-	18	16	21	18	16	23	25
	100.0	-	-	13.1	11.7	15.3	13.1	11.7	16.8	18.2
65～69歳	221	-	4	29	48	45	26	12	18	39
	100.0	-	1.8	13.1	21.7	20.4	11.8	5.4	8.1	17.6
70歳代	352	7	8	72	81	60	42	27	15	40
	100.0	2.0	2.3	20.5	23.0	17.0	11.9	7.7	4.3	11.4
80歳以上	175	4	24	57	23	19	9	3	4	32
	100.0	2.3	13.7	32.6	13.1	10.9	5.1	1.7	2.3	18.3

次に家族数との関係では、1人世帯の生活費は5～10万円が30.4%で最も多く、2人世帯では15～20万円が24.5%で最も多い。3人以上の世帯ではいずれも30万円以上との回答が多く、それだけ生活費を必要としていることがわかる。6人以上の世帯では30万円以上との回答は約34%で、一方で20万円未満と回答した世帯も約30%になっている。【C一表2】

C-表2 1ヶ月あたりの生活費（家族数との関係）

	調 査 数	3 万 円 未 満	3 万 円 □ 5 万 円 未 満	5 万 円 □ 1 0 万 円 未 満	1 0 万 円 □ 1 5 万 円 未 満	1 5 万 円 □ 2 0 万 円 未 満	2 0 万 円 □ 2 5 万 円 未 満	2 5 万 円 □ 3 0 万 円 未 満	3 0 万 円 以 上	無 回 答
全 体	1603	13	41	218	243	256	201	126	254	251
	100.0	0.8	2.6	13.6	15.2	16.0	12.5	7.9	15.8	15.7
1 人	434	4	22	132	96	65	28	14	9	64
	100.0	0.9	5.1	30.4	22.1	15.0	6.5	3.2	2.1	14.7
2 人	510	3	6	39	99	125	80	41	51	66
	100.0	0.6	1.2	7.6	19.4	24.5	15.7	8.0	10.0	12.9
3 人	247	4	9	19	18	33	39	30	58	37
	100.0	1.6	3.6	7.7	7.3	13.4	15.8	12.1	23.5	15.0
4 人	202	1	-	8	12	17	34	24	68	38
	100.0	0.5	-	4.0	5.9	8.4	16.8	11.9	33.7	18.8
5 人	115	-	-	11	7	7	11	11	48	20
	100.0	-	-	9.6	6.1	6.1	9.6	9.6	41.7	17.4
6人以上	59	-	2	4	6	6	7	5	20	9
	100.0	-	3.4	6.8	10.2	10.2	11.9	8.5	33.9	15.3

支出の内訳（問2）については、回答のあった世帯のみで各項目の平均の支出額でみると最も大きいのが「事業のための借入金の返済」で約124,000円である。その次に多いのは「食費」で約75,000円、「自動車や住宅ローンなどの返済」が約61,000円、「民間生命保険・損害保険」が約35,000円となっている。

【C-表3】

C-表3 1ヶ月の生活費の支出内訳
(0回答除く)

(単位：円)

回答者世帯数	平 均
①家賃（管理費含む）（362世帯）	25,389
②電気代（1188世帯）	5,903
③ガス代（1177世帯）	4,343
④水道代（942世帯）	3,785
⑤電話代（1221世帯）	10,686
⑥自動車や住宅ローンなどの返済（294世帯）	61,002
⑦事業のための借入金の返済（94世帯）	124,161
⑧公的年金（国民年金・厚生年金など）（384世帯）	30,348
⑨健康保険（617世帯）	13,848
⑩その他の民間生命保険・損害保険（840世帯）	34,775
⑪医療費（交通費含む）（910世帯）	19,901
⑫食 費（1254世帯）	75,264
⑬その他（1081世帯）	38,503

4) 収入の実態

生活費をどのような方法で得ているのか（問3）については、「給料として」が31%、「アルバイト」が15%、「年金」が41%であった。また、「預貯金の取り崩し等」19%、「義援金などから」14%のほか、「子どもからの支援」3%、「新規の借り入れ」3%などで正解を維持している過程もある。【C一表4】

C一表4 生活費を得る方法（平均額）
（0回答除く）

（単位：円）

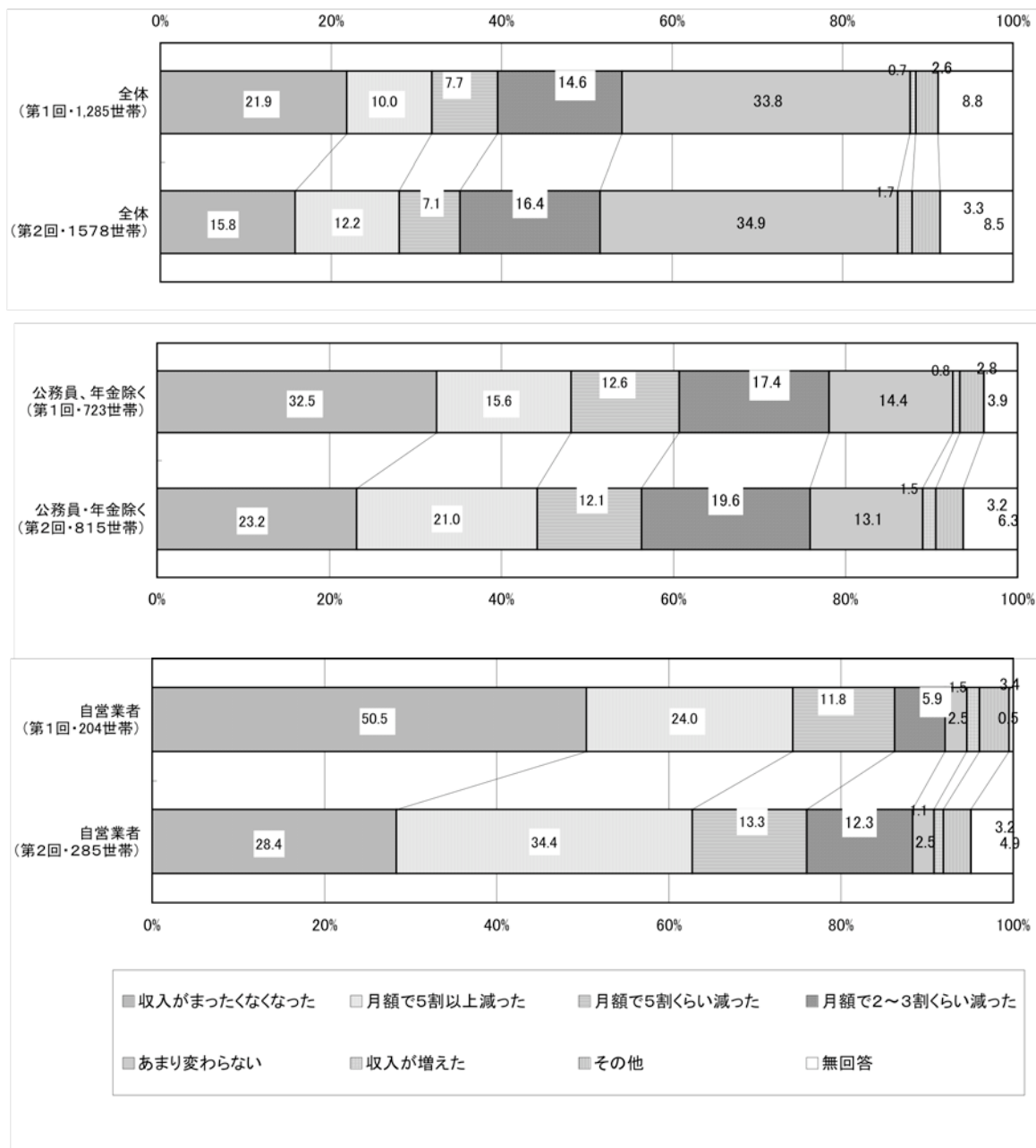
回答者世帯数	平均
①給料として（501世帯）	265,871
②アルバイト代として（236世帯）	94,869
③年金（649世帯）	120,885
④子供からの支援（54世帯）	46,949
⑤義援金・生活再建支援金から（219世帯）	80,858
⑥保険の解約や預貯金の取り崩し（303世帯）	78,054
⑦避難後の新規借入金（47世帯）	223,648
⑧その他（81世帯）	113,965

各項目ごとの収入金額では、「給料」では30万円以上が最も多く（平均26万6千円）、「アルバイト代として」では5万～7万円未満とは10万～15万円未満にピークが分かれている（平均9万5千円）。

「年金」は10万～15万円未満が最も多く（平均12万1千円）、「義援金・生活再建支援金」「子どもからの支援」はともに3万円未満が最も多い。【C一図3】

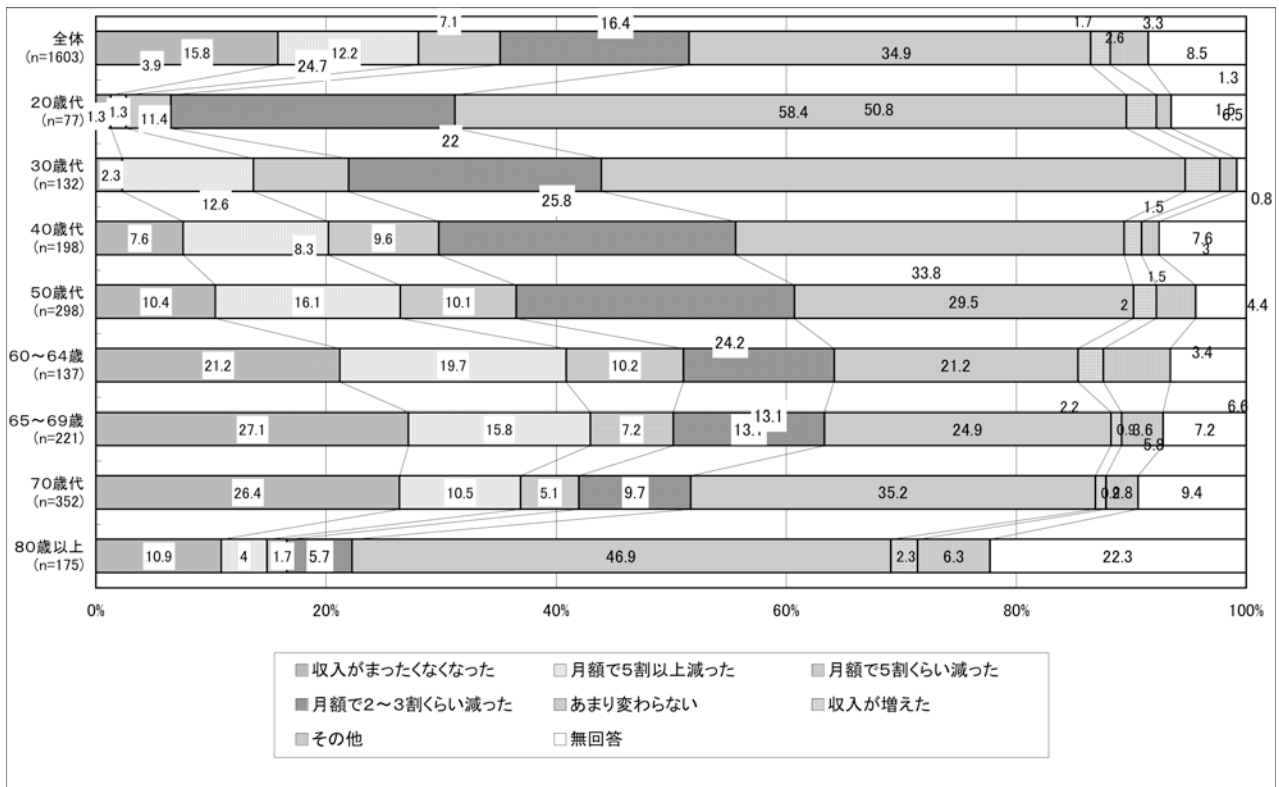
収入の実態として、まず避難前との比較（問4）では、収入が「なくなった」世帯が16%、「減った」世帯が36%、「変わらない」あるいは「増えた」世帯が37%となっており、避難後には多くの世帯で収入が減少している。3月の第1回調査では、それぞれ22%、32%、35%であったのに比べると、収入面での改善傾向が示されている。特に収入が「全くなかった」世帯は22%から16%に減少し、新たに仕事に就く人が増えている。避難前に自営業であった世帯でも、収入が「全くなかった」世帯がほぼ半減するなど状況は改善されつつあるが、なお8割近い世帯で収入が大きく減少している状態が続いている。

【C一図4】



C一図4 収入の変化（職業）

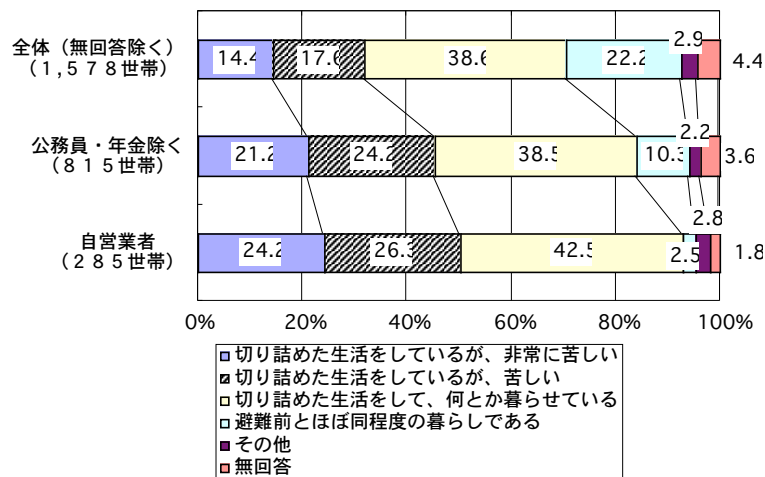
年代別にみると、20歳代、30歳代では「あまり変わらない」が半数を超えている。一方で、「収入がまったくなくなった」「月額5割くらいの減」もしくは「月額5割以上の減」の回答の合計は、60歳代で5割、70歳代と50歳代ではほぼ4割と多くなっている。【C一図5】



C一図5 収入の変化 (年代別)

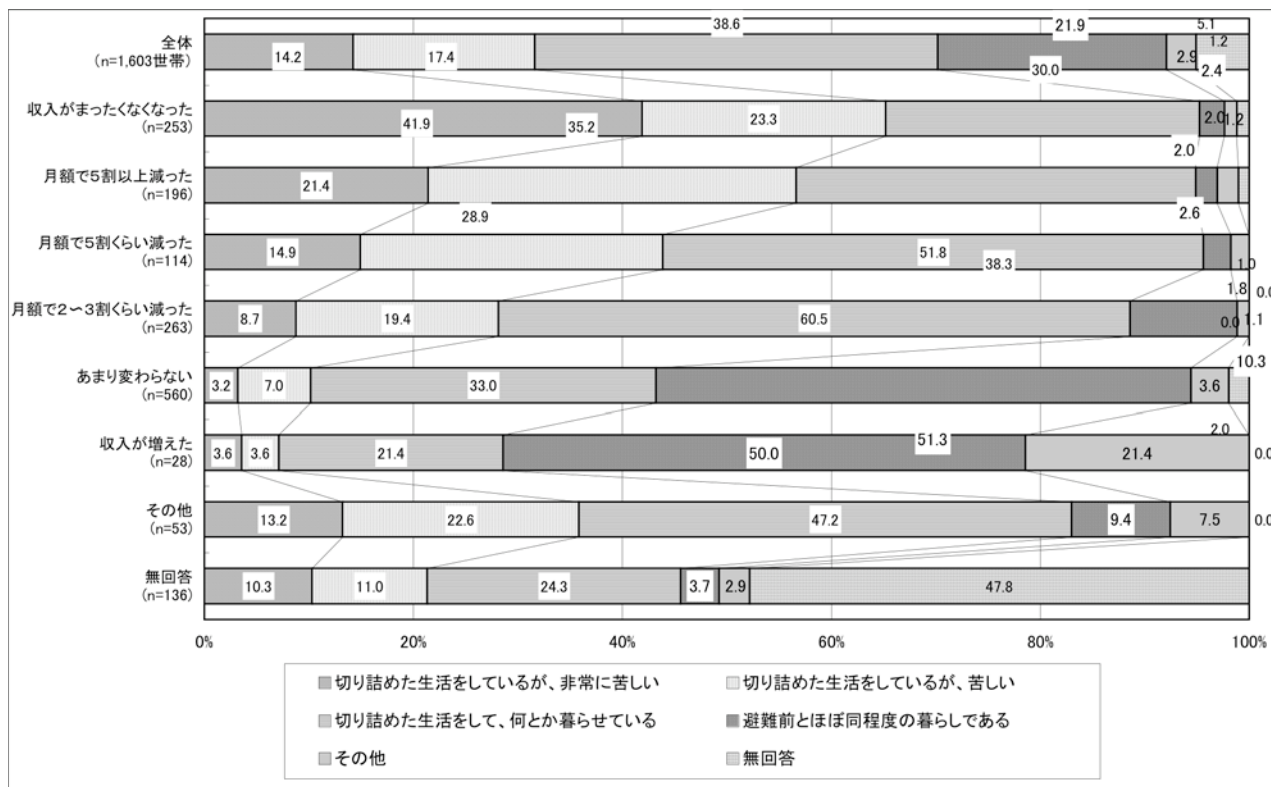
5) 現在の暮らしむき

現在の暮らしむき (問5) については、「非常に苦しい」が14.4%、「苦しい」が17.6%で、合計32.0%の世帯が現在も生活が苦しいと回答している。これを公務員・年金生活者を除いてみた場合、「非常に苦しい」と「苦しい」の合計は45.4%に増え、同様に自営業者のみでは、50.5%と約半数の世帯で生活が苦しいと回答している。また、第1回目の調査では、全体の「非常に苦しい」と「苦しい」の合計は29.2%で、今回はそれよりさらに約3ポイント回答が増えている。【C一図6】



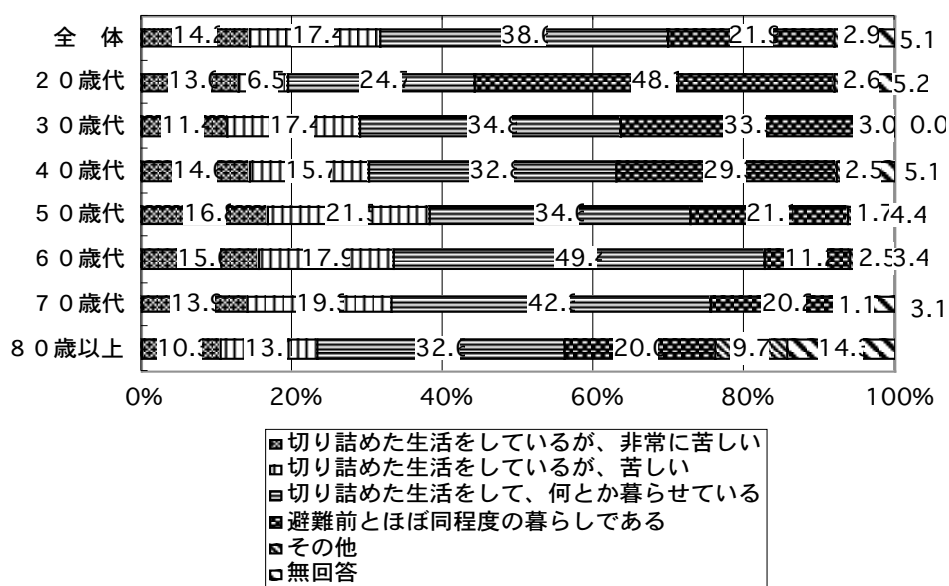
C一図6 現在の暮らしむき (職業)

現在の収入と暮らしむきとの関係では、「収入がまったくなくなった」と回答した世帯のうち41.9%が「非常に苦しい」答えており、これに「苦しい」の23.3%が続き、合計すると65.2%が苦しいと答えている。【C—図7】



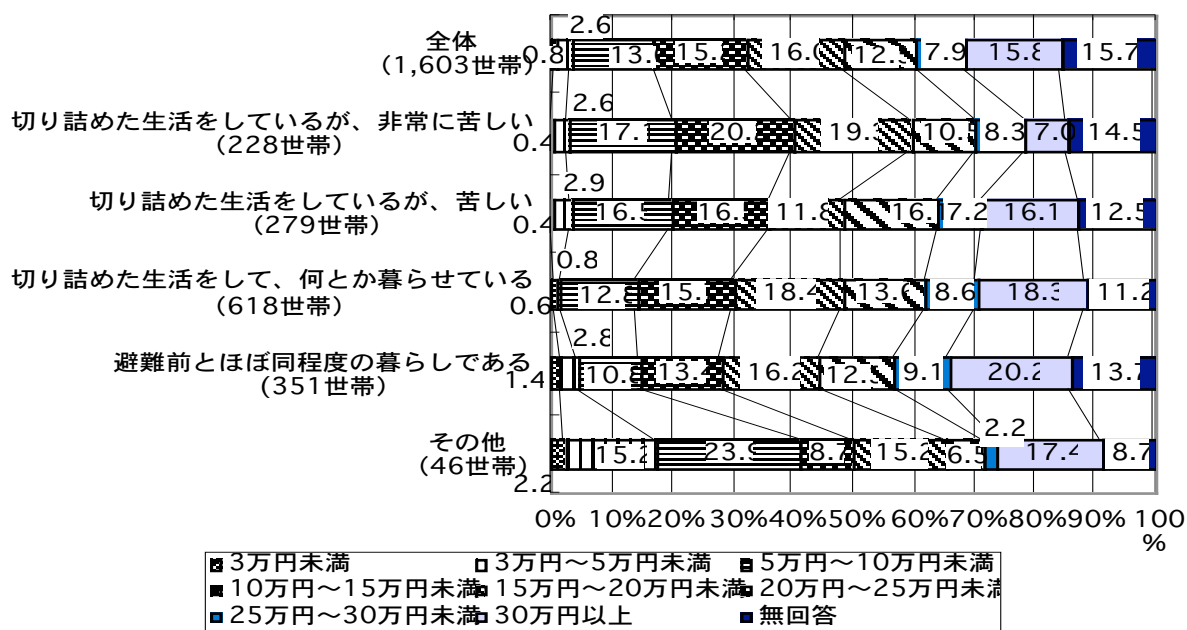
C—図7 現在の収入と暮らし向き

年代別に暮らしむきをみると、いずれの年代においても「何とか暮らせている」もしくは「避難前とほぼ同程度の暮らし」と答えた世帯が半数以上になっている。その一方で、「非常に苦しい」もしくは「苦しい」と回答した世帯の割合が高い年代は、50歳代（38.3%）、60歳代（33.5%）、70歳代（33.2%）である。【C—図8】



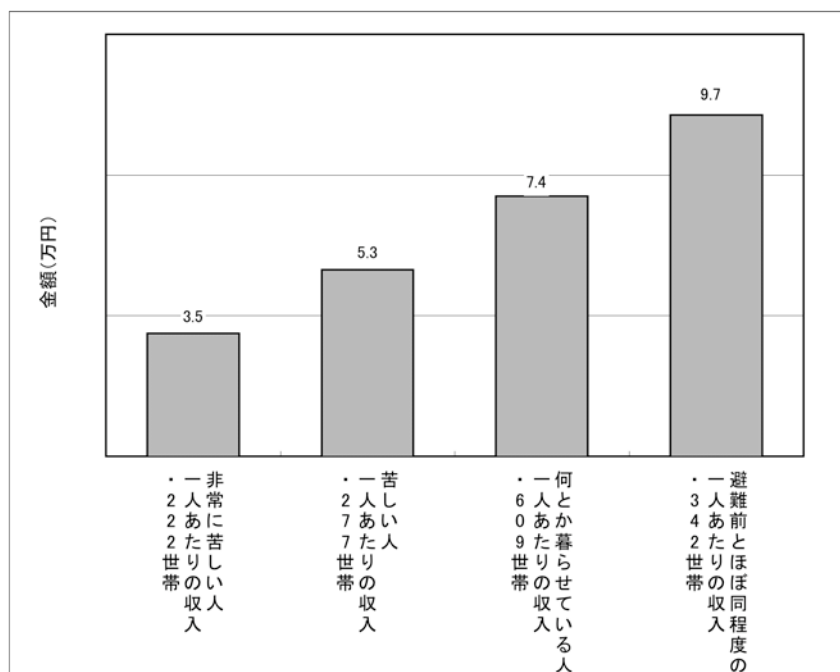
C—図8 年代と暮らし

1ヶ月あたりの生活費と暮らしむきとの関係では、「非常に苦しい」と回答した世帯では、収入が15万円未満の世帯で約4割を占めている。【C一図9】



C一図9 生活費と暮らしむき

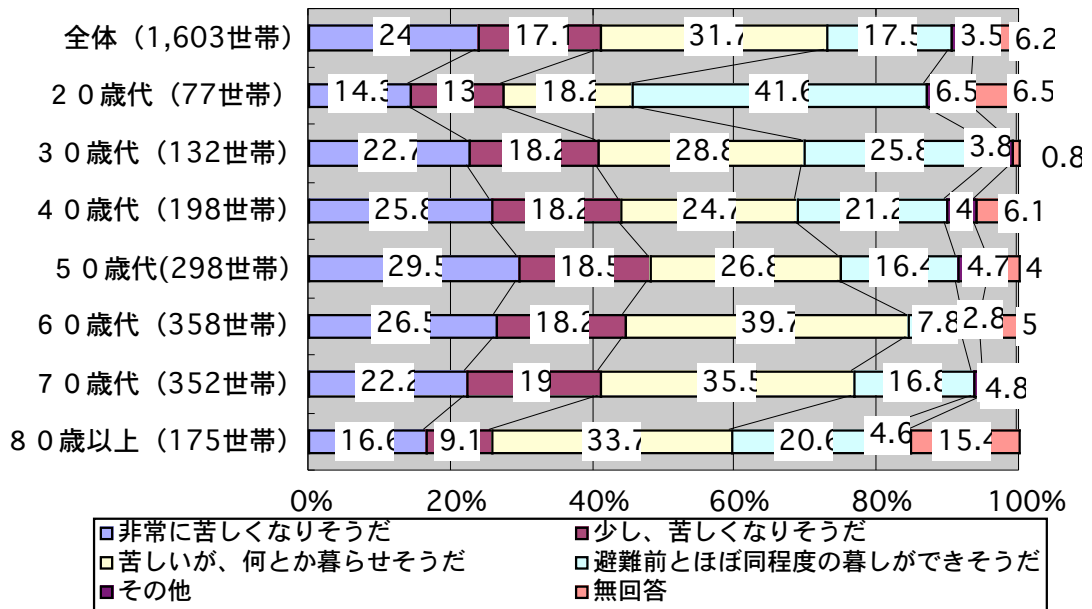
暮らしむきの回答別に定期収入（給料+アルバイト+年金）を家族数で割った1人あたりの収入額を平均で表すと、「非常に苦しい」と回答した世帯の1人あたりの平均的な収入額は、3.5万円である。同様の方法で算定した「苦しい」と回答した世帯では5.3万円、「何とか暮らせている」は7.4万円、「避難前とほぼ同じ」が9.7万円である。【C一図10】



C一図10 1人あたりの収入額

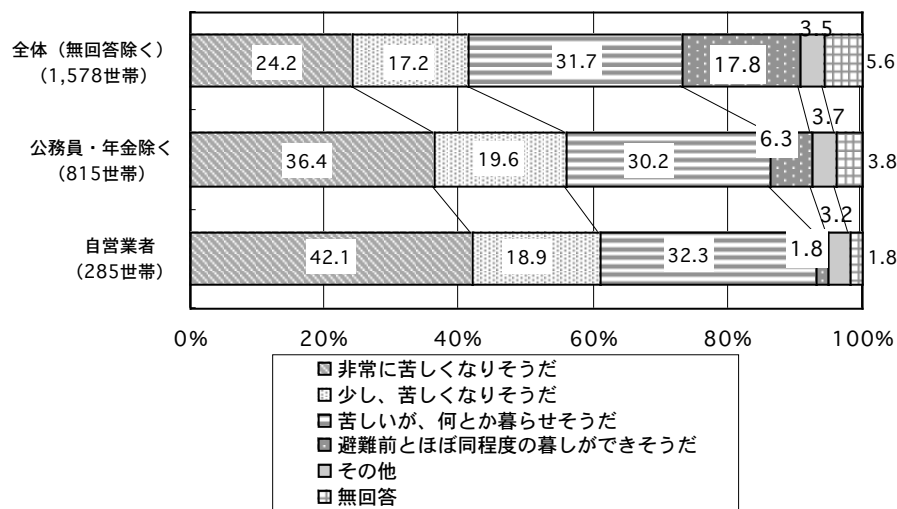
6) 今後の生計の見通し

今後の生計の見通し（問6）は、「何とか暮らせそうだ」が31.7%と最も多いが、一方でそれに次いで「非常に苦しくなりそうだ」が24.0%となっている。「少し苦しくなりそうだ」（17.1%）と合計すると約4割の世帯が今後の生計に不安をもっている。年代別でみると40歳代、50歳代で「非常に苦しくなりそうだ」の回答が最も高くなっている。【C—図11】



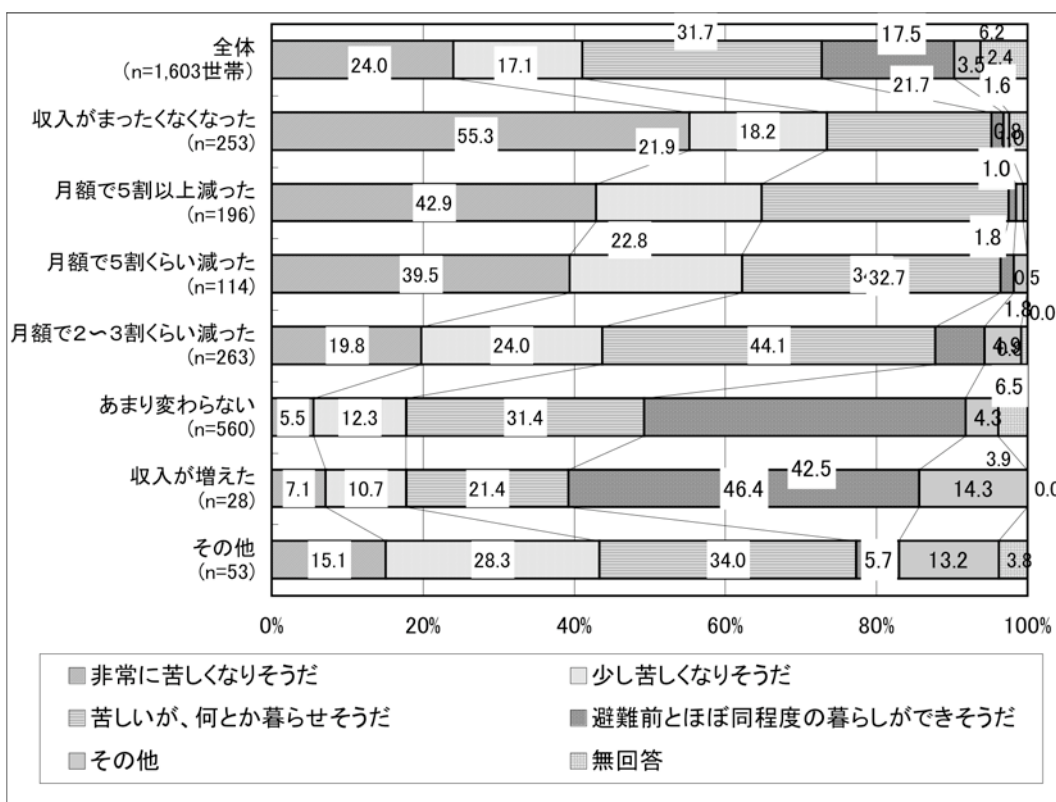
C—図11 生計の見通し（年代別）

「非常に苦しくなりそうだ」について、公務員・年金生活者を除く世帯でみると36.4%であり、自営業者では42.1%になっている。第1回目の調査と比較すると、公務員・年金生活者を除く世帯では前回の38.0%から若干減少しているが、自営業者は42.2%とほぼ同数値で約4割の世帯が今後の生計に不安を抱いていることがわかる。【C—図12】



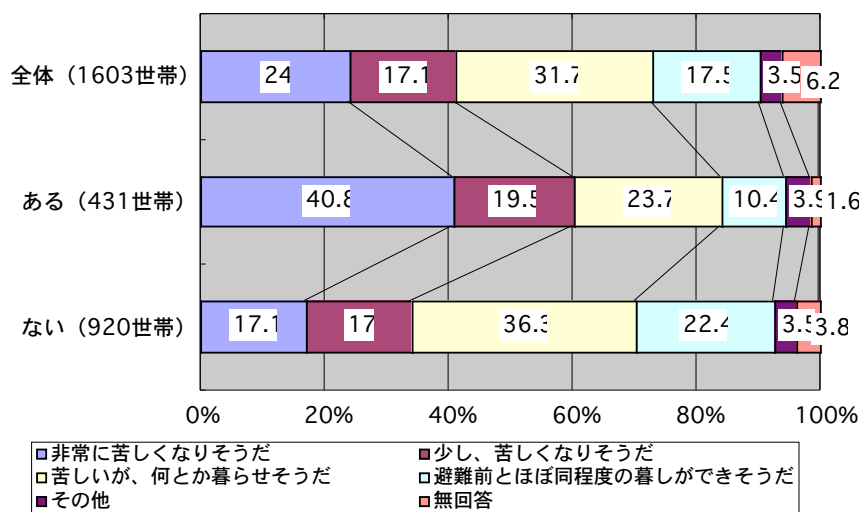
C—図12 生計の見通し（職業）

「収入がまったくなくなった」世帯は、生計の見通しを「非常に苦しくなりそうだ」(55.3%)と「少し、苦しくなりそうだ」(18.2%)を合わせて、73.5%が「苦しくなりそうだ」としている。また、「月額で5割以上減った」「月額で5割くらい減った」についても、6割の世帯が「苦しくなりそうだ」としており、生計の見通しの厳しさが伺える。【C一図13】



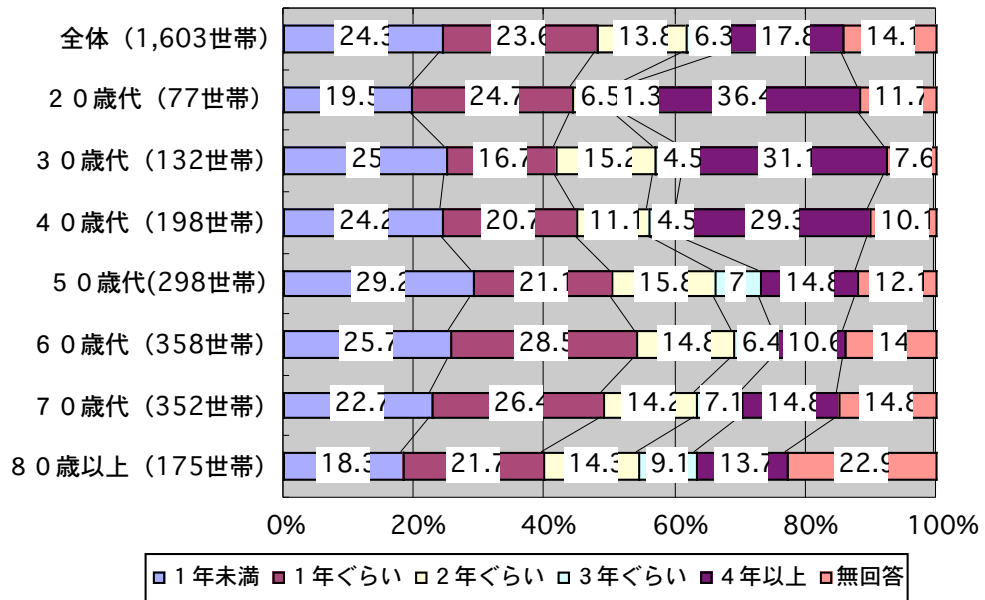
C一図13 生計の見通し（収入との関係）

借入れ金との関係では、借入れ金が「ある」と回答した世帯では「非常に苦しくなりそうだ」が40.8%で、「ない」と回答した世帯(17.1%)の2倍強になっている。第1回調査では借入れ金が「ある」との回答は43.9%で、今回は約3ポイント減少している。【C一図14】



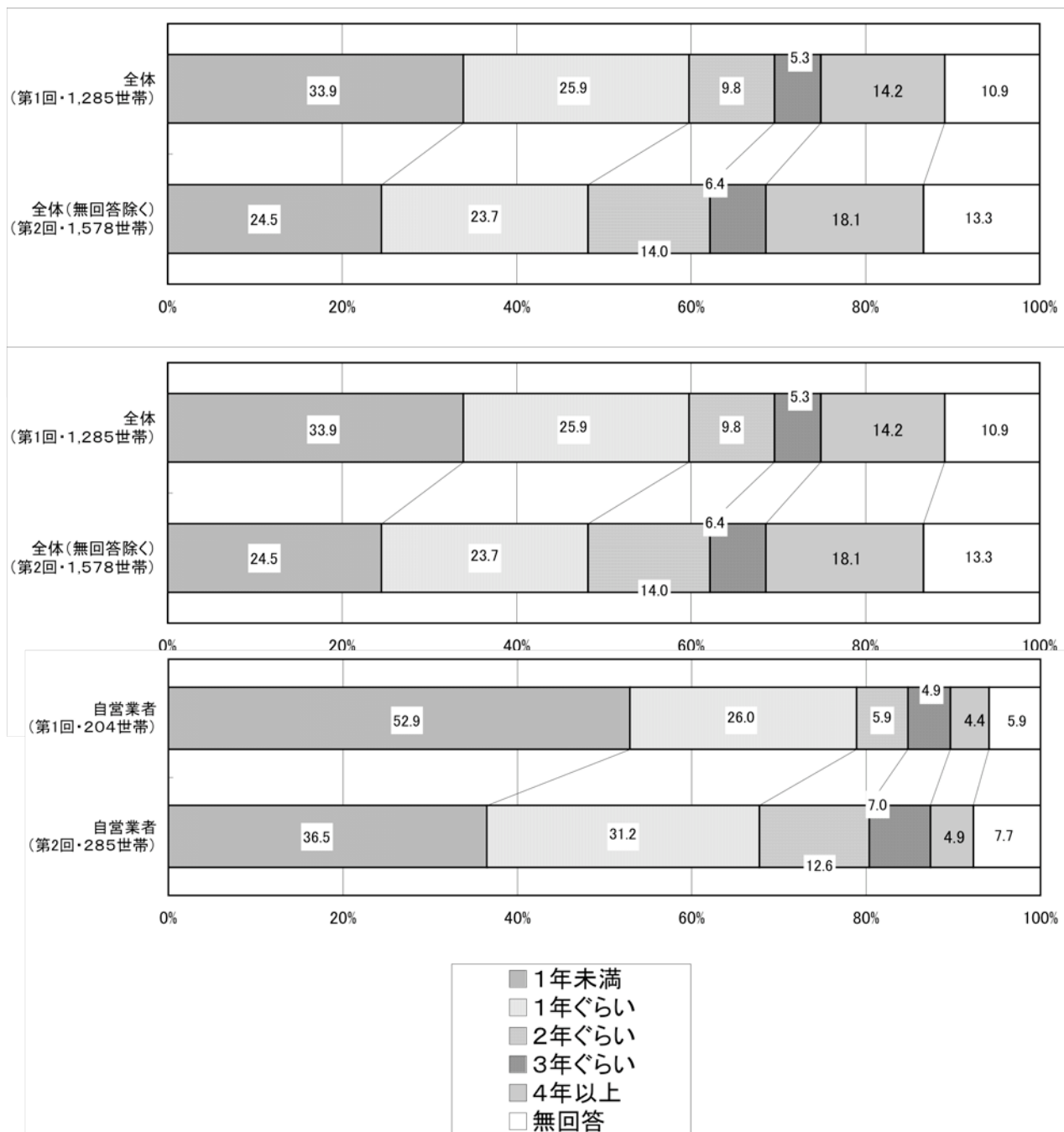
C一図14 生計の見通し（借入れ金の有無との関係）

経済面で今の状態を続けられる期間（問7）については、「1年未満」が24.3%、次いで「1年くらい」が23.6%で、約半数の世帯では1年を限界と捉えている。これを年代でみると、20歳～40歳代では「4年以上」の回答が最も高く、50歳代と60歳代で「1年未満」と「1年くらい」が5割を超えている。これは、年代別の「暮らしむき」に関する回答とほぼ同じ傾向になっている。これらの年代は今後の生計に関して極めて厳しいとの見通しをもっている。【C—図15】



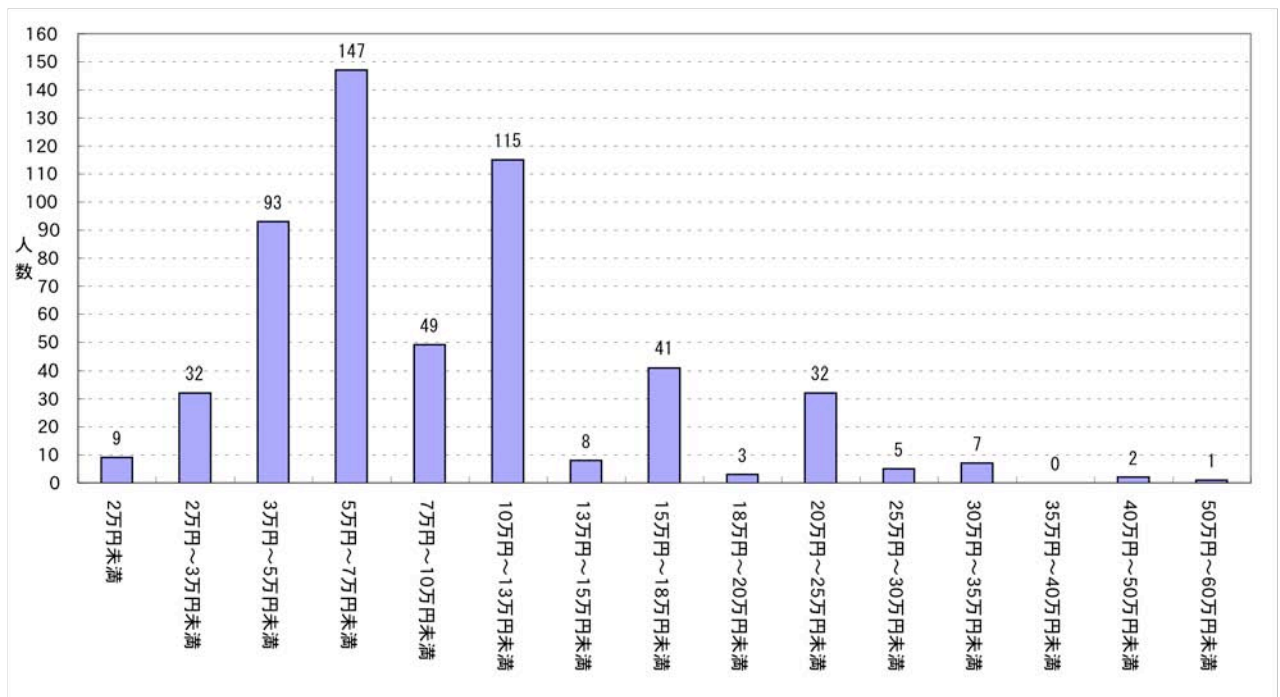
C—図15 経済面で今の状態を続けられる期間（年代別）

第1回調査との比較では、「1年未満」「1年くらい」の合計は、60%から48%に減少し、「2年以上」が29%から39%に増加しており、将来の暮らしむきの見通しについても改善傾向がみられる。しかし、避難前に自営業であった世帯では、約7割弱が1年を限界と回答している。【C一図16】



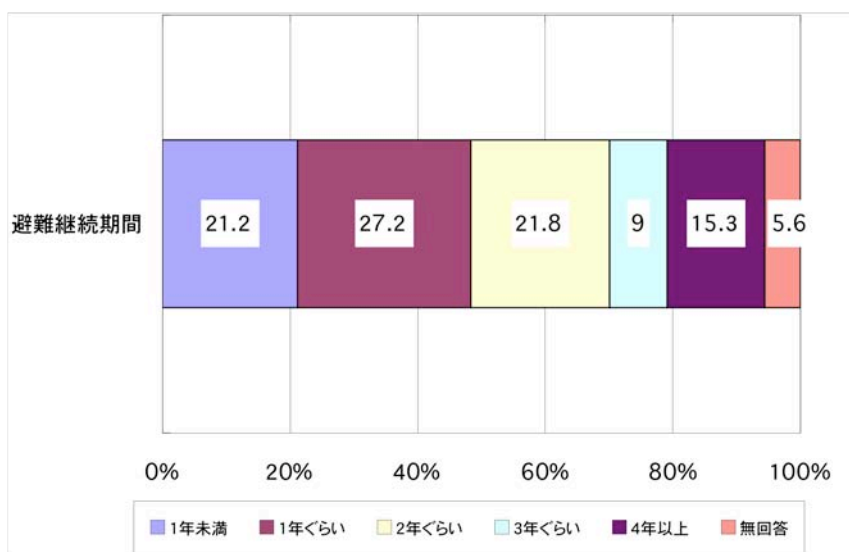
C一図16 経済面で今の状態を続けられる期間
(第一回調査との比較)

毎月の不足額（問8）については、「不足はない」と回答した世帯は36.9%であるが、一方「不足している」は34.7%である。不足額は7万円未満の回答が半数を超えている。【C—図17】



C—図17 毎月の不足額

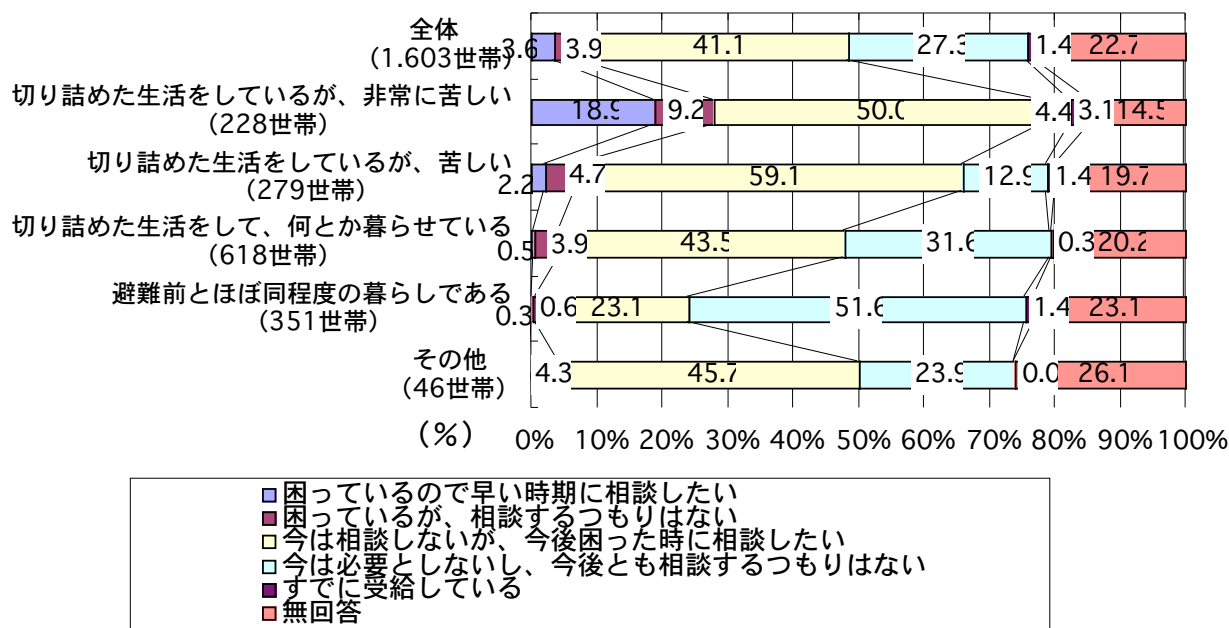
不足額を得られた場合に続けられる避難生活（問9）については、「1年くらい」が27.2%で、次いで「1年未満」が21.2%。両方を合計すると48.4%になる。これは経済的にある程度充足したとしても、精神的には早く帰島したいという気持ちの表れとみるべきであろう。【C—図18】



C—図18 不足額を得られた場合に続けられる避難生活の期間

7) 生活保護制度

生活保護制度（問 10）について、困ったときに「相談する」とする世帯は既受給者を含め 46 %、一方、「相談するつもりはない」は 31% となっている。暮らしむきとの関係でみると、「非常に苦しい」と回答した世帯では、「早い時期に相談したい」が 18.9%、「今は相談しないが今後困ったときに相談したい」が半数を占めている。また、「苦しい」と回答した世帯では約 6 割が「今後困ったときに相談したい」（59.1%）としているなど、生活を苦しいと感じている人ほど生活保護制度への期待が強いことが示された。【C—図 19】



C—図 19 暮らしむきと生活保護制度との関係

8) 生計に対する要望

生活に困っている世帯に対する行政の支援策（問 11）については、「就労に関する支援」と「不足する生活費に対する直接支援」がともに 35.9%と最も多く、次いで「医療費への補助」が 28.9%、「健康保険などの保険料の免除」が 27.8%と続いている。年齢別でみると、子育て世代の 30～40 歳代は子どもの教育費に対する支援が約 3 割と高い。

年齢別にみると、「就労に関する支援」は 20 歳代から 60 歳代まで最も強い要望となっており、特に 50 歳代では、約半数の人が要望している。一方、「生活費に対する直接支援」は 40 歳代で約 4 割となっているほか、各年代で平均的な要望となっている。

「医療費への補助」は 60 歳代以上、「保険料の免除」は 50 歳代以上で要望が強い。30 歳代、40 歳代では、「子どもの教育費に対する支援」を要望する人も多くなっている。【C—表 5】

C—表 5 行政への支援策要望（年齢別）

	調査数	就労に対する支援	事業に対する支援	子供の教育費に対する支援	健康保険料や年金などの免除	電気料金ガスなどの基本料金の免除	住宅ローンの利子補給	税の免除	医療費への補助	不足する生活費に対する直接支援	その他	無回答
全体	1603	576	212	243	445	345	135	366	464	576	36	262
	100.0%	35.9%	13.2%	15.2%	27.8%	21.5%	8.4%	22.8%	28.9%	35.9%	2.2%	16.3%
20歳代	77	35	22	15	17	11	9	13	17	24	1	9
	100.0%	45.5%	28.6%	19.5%	22.1%	14.3%	11.7%	16.9%	22.1%	31.2%	1.3%	11.7%
30歳代	132	49	19	39	28	24	24	40	31	46	2	17
	100.0%	37.1%	14.4%	29.5%	21.2%	18.2%	18.2%	30.3%	23.5%	34.8%	1.5%	12.9%
40歳代	198	85	39	61	48	34	34	41	38	81	5	18
	100.0%	42.9%	19.7%	30.8%	24.2%	17.2%	17.2%	20.7%	19.2%	40.9%	2.5%	9.1%
50歳代	298	143	50	46	83	55	37	67	55	110	7	40
	100.0%	48.0%	16.8%	15.4%	27.9%	18.5%	12.4%	22.5%	18.5%	36.9%	2.3%	13.4%
60歳代	358	134	40	33	103	90	15	79	134	133	11	52
	100.0%	37.4%	11.2%	9.2%	28.8%	25.1%	4.2%	22.1%	37.4%	37.2%	3.1%	14.5%
70歳代	352	95	30	37	116	92	12	93	119	125	6	66
	100.0%	27.0%	8.5%	10.5%	33.0%	26.1%	3.4%	26.4%	33.8%	35.5%	1.7%	18.8%
80歳以上	175	33	12	11	50	38	3	30	67	53	3	53
	100.0%	18.9%	6.9%	6.3%	28.6%	21.7%	1.7%	17.1%	38.3%	30.3%	1.7%	30.3%
無回答	13	2		1		1	1	3	3	4	1	7
	100.0%	15.4%	0.0%	7.7%	0.0%	7.7%	7.7%	23.1%	23.1%	30.8%	7.7%	53.8%

(3) 借入金の実態

(調査票の「D 借入金について、お伺いします」の質問)

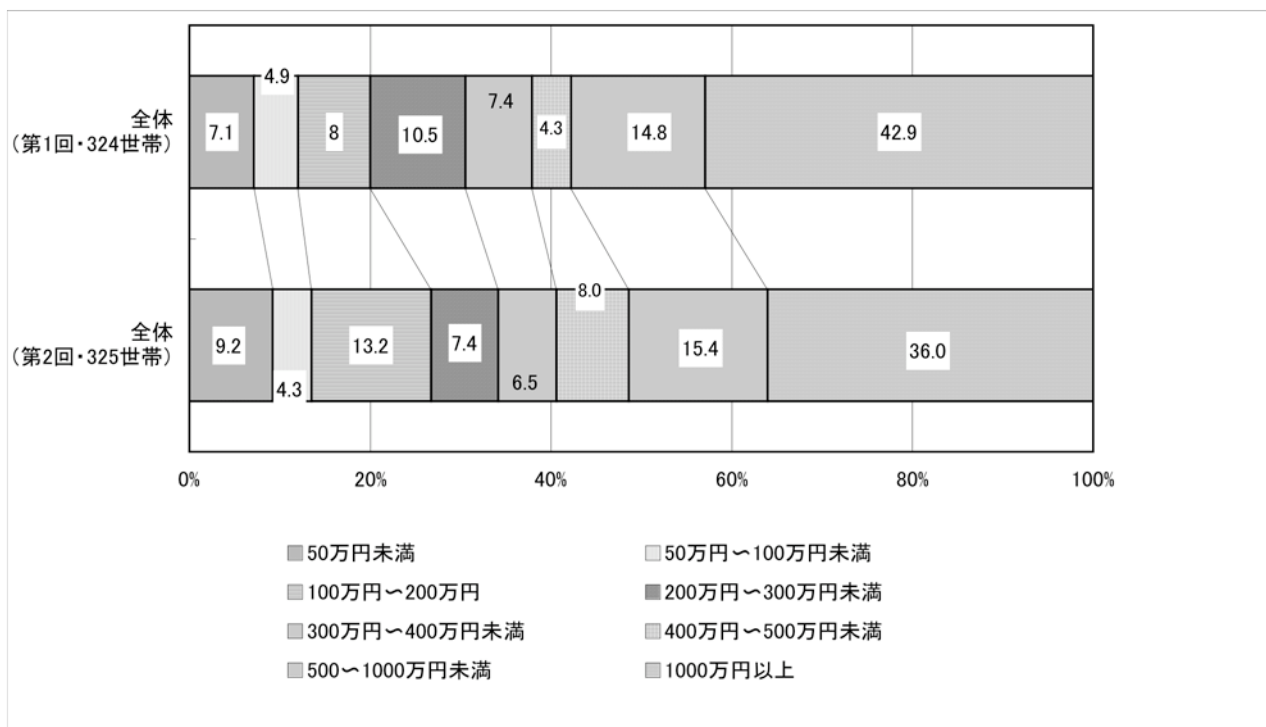
借入金の有無については、「ある」が26.9%、「なし」が57.4%である。これを第1回調査と比較すると、前回は「ある」が29.6%、「なし」が64.4%、無回答が6.0%であった。【D一表1】

D一表1 避難前の借入金の有無 (単一回答)

	調査数	ある	ない	無回答
全体 (第1回調査)	1,285	380	828	77
	100.0%	29.6%	64.4%	6.0%
全体 (第2回調査)	1,603	431	920	252
	100.0%	26.9%	57.4%	15.7%

※金額についての回答件数は325件

借入金額は、500万円未満が49%、一方、1000万円以上が36%となっている。前回調査ではそれぞれ42%、43%であり、今回の調査結果からは借入金の返済が進んでいるという結果となった。



D一図1 借入金の残額

※なお、金額について回答のあったものについてのみ集計した。

借入金残額の内容（問2）について、その平均が最も大きいものは「事業のための借入」で約1600万。次いで「住宅資金」が約1100万円、「車のローン」が約100万円となっている。【D一表2】

D一表2 借入金の平均額（0回答を除く）

項目	平均
1 住宅資金（182世帯）	10,977,250
2 車のローン（55世帯）	1,041,600
3 事業のための借り入れ（109世帯）	16,261,334
4 その他（80世帯）	2,791,290

借入金に対して希望する支援内容（問3）の件数をまとめると次のようになる。

- ・返済期間の延長：39件
- ・利子の免除・補給：22件
- ・住宅、車のローンへの支援：17件
- ・借入希望（無利子）：12件
- ・生活費借入（帰島時を含む）：9件
- ・利子補給を帰島後の継続：6件
- ・借り換え：4件
- ・帰島しない人へも帰島する人と同じ支援を：1件

(5) 住宅の実態

(調査票の「F 住宅について、お伺いします」の質問)

1) 住宅に対する意識

現在居住している住宅の種類(問1)は、「公営住宅」が65.8%で最も多く、「子供の家」が7.2%、「民間賃貸住宅」が5.9%と続いている。これは、第1回調査と比べても大きな変化はみられない。【F一表1】

F一表1 現在の居住形態(複数回答)

	調査数	公営住宅	民間賃貸住宅	□親注・1兄弟の家 □弟の家	知人宅	子供の家	社宅 □注2 □	□老人ホーム □ム	その他	無回答
全体 (第1回調査)	1,285	833	65	35	13	89			102	148
	100%	64.8%	5.1%	2.7%	1.0%	6.9%			7.9%	11.5%
全体 (第2回調査)	1,603	1,055	94	81	14	116	76	55	121	106
	100%	65.8%	5.9%	5.1%	0.9%	7.2%	4.7%	3.4%	7.5%	6.6%

(注1) 第1回調査では「親・兄弟の家」の項目は、「親の家」となっていた。

(注2) 第2回調査では「社宅」と「老人ホーム」はなかった。

現在の住宅の満足度(問2)は、「満足している」が72.0%で、これは第1回調査での62.7%を大きく上回っている。ただし、「不満がある」も15.5%で、第1回調査の18.5%より減少している。不満があり、住み替えを希望しているのは、全体の8.7%である。【F一表2】

F一表2 避難している住宅の満足度

	調査数	今の満足している住宅の割合	不満があるが希望・し住	不満があるが希望・し住	不満があるが希望・し住	無回答
全体 (第1回調査)	1,285	806	154	84	—	241
	100%	62.7%	12.0%	6.5%		18.8%
全体 (第2回調査)	1,603	1,154	90	139	20	200
	100%	72.0%	5.6%	8.7%	1.2%	12.5%

(注) 第1回調査では「不満であるが住み替えについて無回答」の項目はなかった。

住宅の種類ごとにみてもいずれも「満足している」が過半数を超えているが、割合としてとくに高いのは「公営住宅」（81.3%）、「親・兄弟の家」（69.1%）、「社宅」（65.8%）である。【F—表3】

F—表3 住宅の種類と満足度

	全体	現在の住宅で満足	不満がある	無回答
全体	1603	1154	249	200
	100.0	72.0	15.5	12.5
公営住宅	1055	858	146	51
	65.8	53.5	9.1	3.2
民間賃貸住宅	94	51	31	12
	5.8	3.2	1.9	0.7
親・兄弟の家	81	56	16	9
	5.1	3.5	1	0.6
知人宅	14	8	3	3
	0.8	0.4	0.2	0.2
子供の家	116	61	22	33
	7.3	3.8	1.4	2.1
社宅	76	50	20	6
	4.7	3.1	1.2	0.4
老人ホーム	55	30	6	19
	3.5	1.9	0.4	1.2
その他	121	75	25	21
	7.6	4.7	1.6	1.3

2) 移転に対する希望

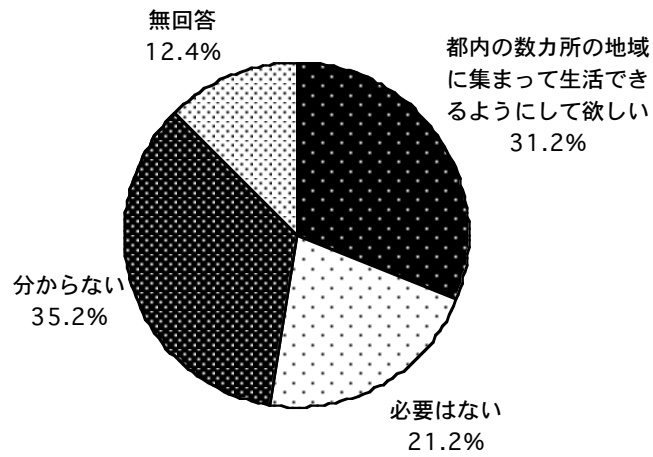
東京都以外に居住する世帯の都内への居住希望（問4）については、回答のあった247世帯のみで見ると「希望しない」は83.4%であるが、「希望する」も16.6%いる。【F—表4】

F—表4 東京都内への居住希望

調査数	希望する	希望しない
247	41	206
100%	16.6%	83.4%

3) 住まいの集約化

長期化に備えた島民の住まいの集約化（問5）については、「分からない」が最も多く、35.2%で、これに「集約化」を望む回答が31.2%と続いている。【F-図1】



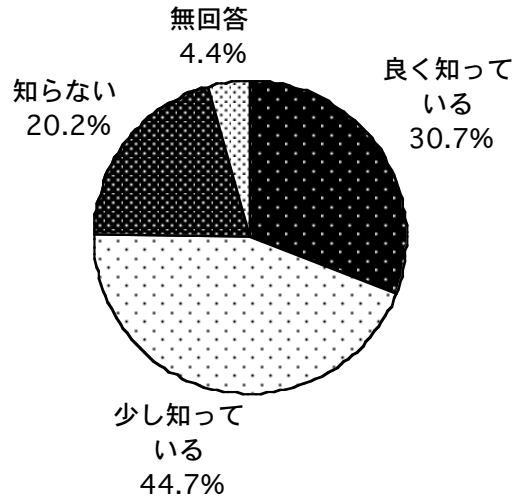
F-図1 住まいの集約化

(6) 砂防施設・防災対策について

(調査票の「G 砂防施設・防災対策について、お伺いします」の質問)

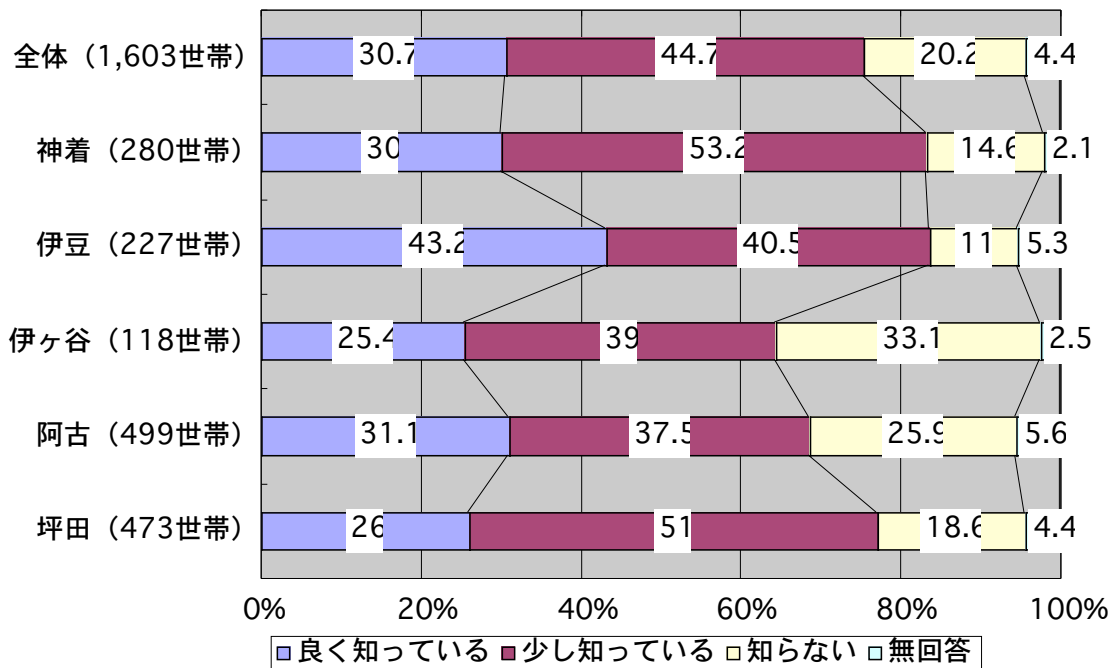
1) 砂防施設に対する意識

砂防施設の役割に対する周知度(問1)は、「良く知っている」「少し知っている」の合計は75.4%になり、かなり多くの人を知っていることがわかる。【G-図1】



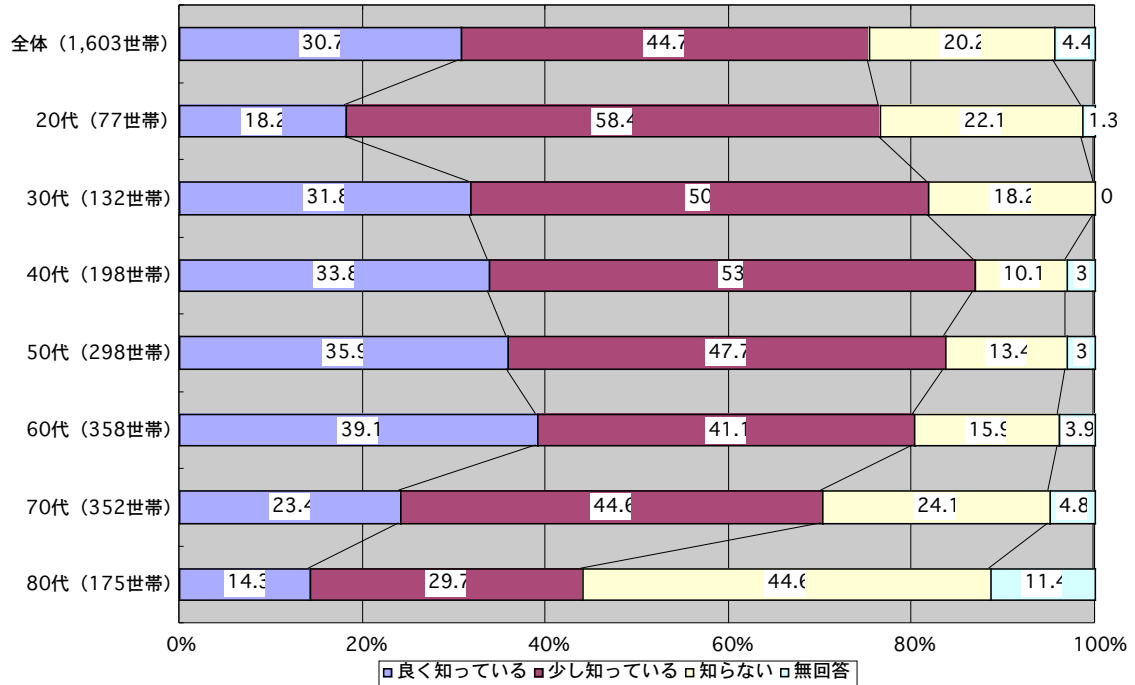
G-図1 砂防施設の果たす役割認知度
(回答世帯数1,603世帯)

地区別にみると、「良く知っている」の割合は伊豆地区で最も高く43.2%、「良く知っている」「少し知っている」を合わせると、伊豆、神着地区では8割を超えている。逆に最も低いのが伊ヶ谷地区であるが、それでも6割以上の人を知識をもっている。【G-図2】



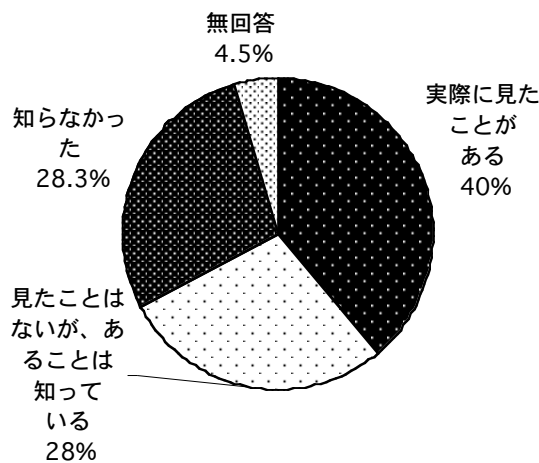
G-図2 砂防施設の果たす役割認知度(地区別)

年代別では、「良く知っている」の割合は、60歳代で最も高く39.1%、「良く知っている」「少し知っている」を合わせると、40歳代(86.8%)、50歳代(83.6%)、30歳代(81.8%)、60歳代(80.2%)で8割を超えている。ただし、80歳代では、「良く知っている」「少し知っている」で45.0%と他の年代の割合と比べると低くなっているがそれでも4割の人が知っていることになる。【G-図3】



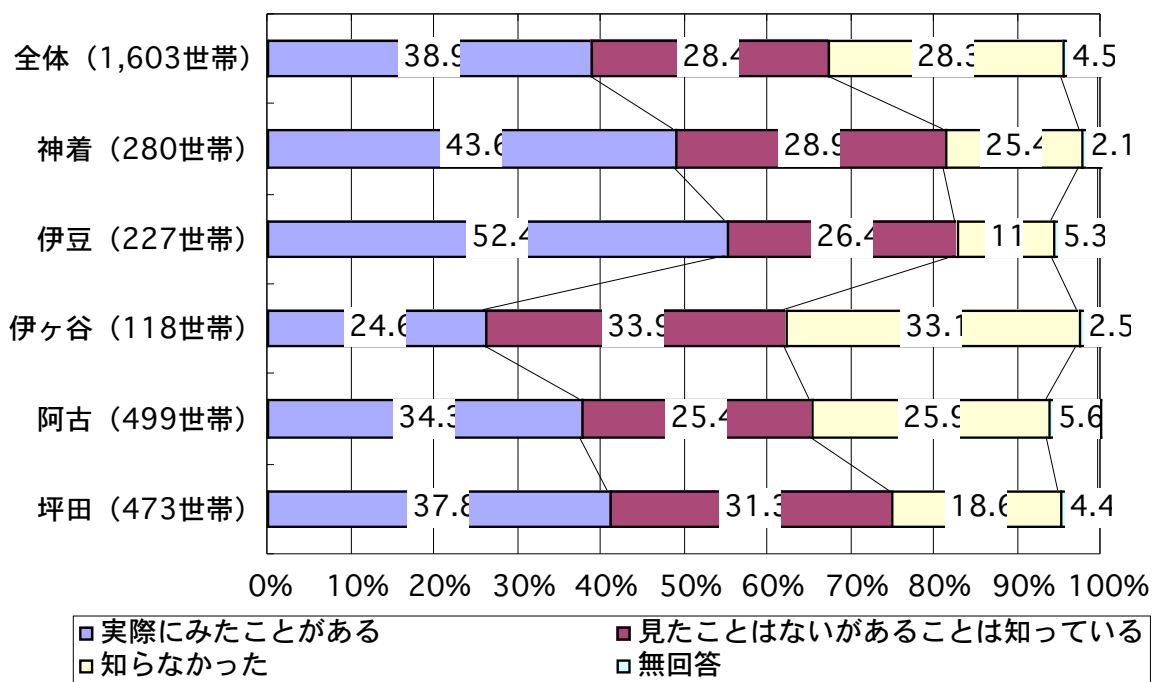
G-図3 砂防施設の果たす役割認知度 (年代別)

実際に砂防施設の存在を知っていたかどうか(問2)については、「見たことがある」は40.0%、「見たことはないが知っている」が28.0%と両方を合わせると約7割近くの人たちが施設の存在を知っていることになる。【G-図4】



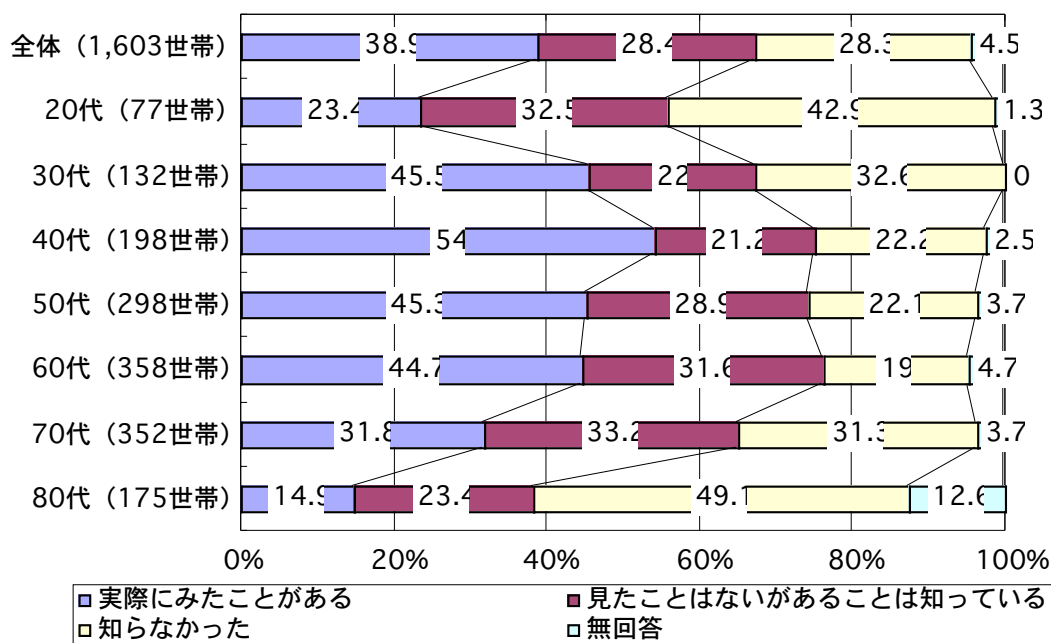
G-図4 避難前における砂防施設の認知度 (回答世帯数1,603世帯)

地区別でみると、伊豆地区で「見たことがある」の割合が最も高く 52.4%と半数を超え、「見たことはないが知っている」も合わせると、伊豆地区が 78.8%、神着地区が 72.5%と砂防施設の役割に対する周知度の結果と同様の傾向を示している。【G—図 5】



G-図 5 避難前における砂防施設の認知度 (地区別)

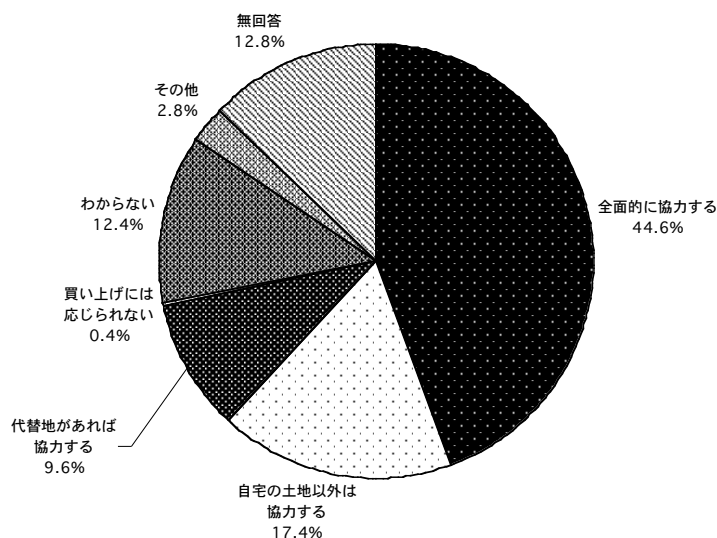
年代別では、「見たことがある」の割合は、40歳代で最も高く 54.0%、「見たことがある」「見たことはないが知っている」を合わせると、60歳代 (76.3%)、40歳代 (75.2%)、50歳代 (74.2%) で 7 割を超えている。一方、20歳代では同様の割合は 55.9%、80歳代では 38.3% と他の年代の割合と比べると低くなっているがそれでも 4 割の人が知っていることになる。【G—図 6】



G-図 6 避難前における砂防施設の認知度 (年代別)

2) 砂防事業に対する意向

砂防事業に伴う土地の買い上げに対する意向（問3）では、土地を所有していない世帯を除いた回答者のうち、「全面的に協力する」が44.6%で、「自分の土地以外は協力する」「代替地があれば協力する」を合わせると71.6%になり、協力の意志のある世帯は全体で7割を超えている。さらに、ここで意思表示のない無回答者を除くと、「全面的に協力する」が51.1%で、「自分の土地以外は協力する」「代替地があれば協力する」を合わせると82.1%になり、協力の意志のある世帯は8割を超える。【G-図7表1】

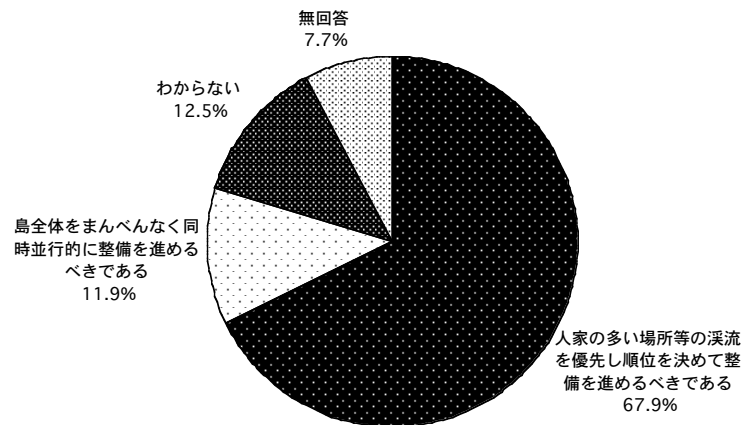


G-図7 砂防事業に伴う土地の買い上げに対する意向
(土地を所有していない世帯を除いた場合)

G-表1 砂防事業に伴う土地の買い上げに対する意向

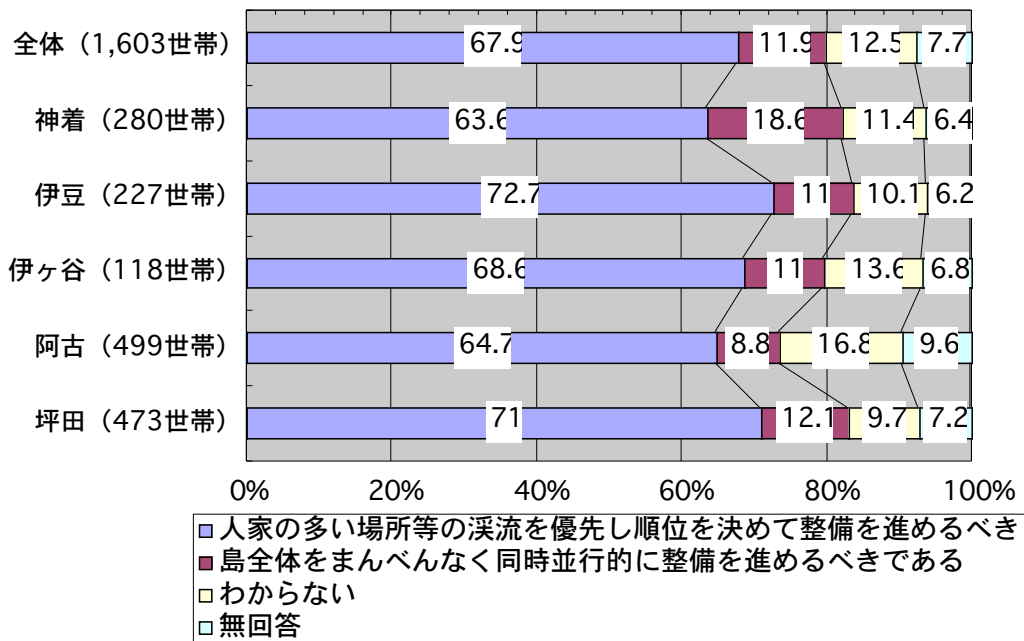
調査数	全面的に協力する	自宅の土地以外は協力する	代替地があれば協力する	買い上げには応じられない	土地を所有していない借地も含む	わからない	その他	無回答
1603	557	218	120	5	353	155	35	160
100	34.7	13.6	7.5	0.3	22	9.7	2.2	10

砂防事業の進め方（問4）については、「人家の多い場所などの溪流を優先的に選定し、順位を決めて整備を進めるべきである」と回答した世帯の割合が67.9%になっており、「まんべんなく同時並行的に整備」（11.9%）を大きく上回っている。さらに、ここで意思表示のない無回答者を除くと「人家の多い場所など優先的に順位を決めて整備」は73.5%になる。【G-図8】



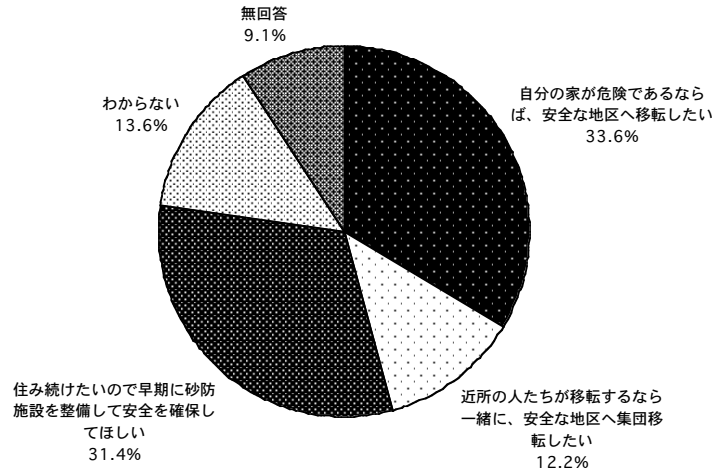
G-図8 砂防事業の進め方
(回答世帯数 1,603)

これを地区別でみると、「人家の多い場所など優先的に順位を決めて整備」がさらに高い割合を示しているのは伊豆地区で72.7%で最も高く、次いで坪田71.0%、伊ヶ谷地区68.6%となっている。「まんべんなく同時並行的に整備」が最も多いのは神着地区であるが、それでも18.6%にとどまっている。【G-図9】



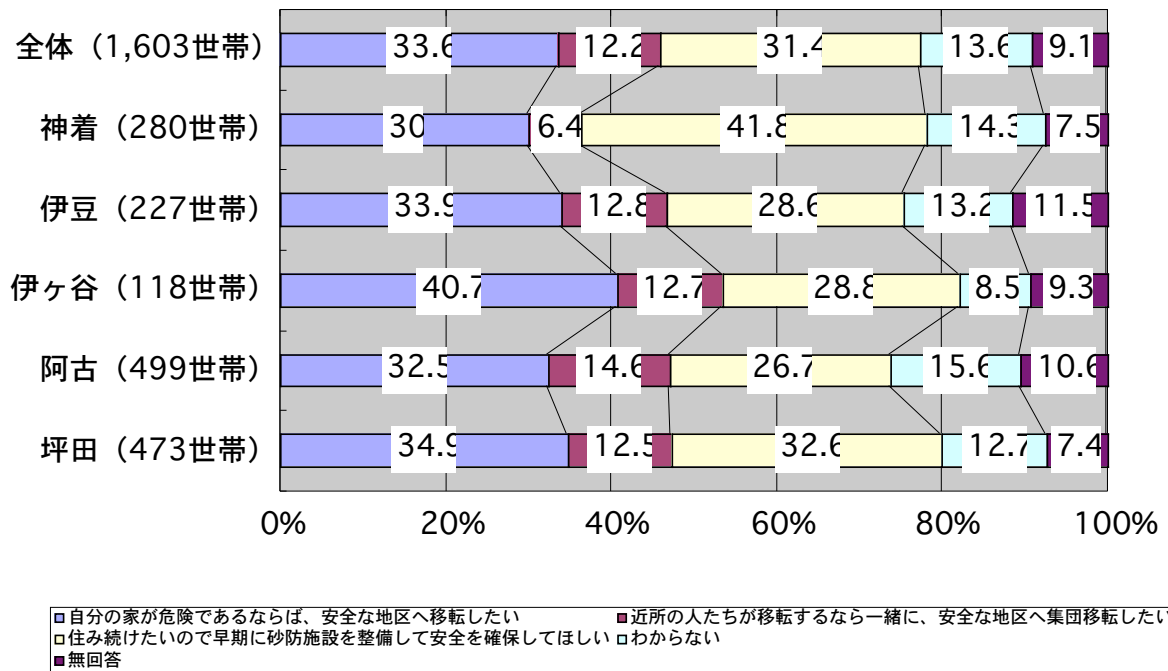
G-図9 砂防事業の進め方（地区別）

仮に自宅が泥流被害を受けるとした場合、どのようにしたいもしくはしてほしいか（問5）では、最も多いのが「安全な地区へ移転したい」の33.6%で、次の「砂防施設を整備して安全を確保して欲しい」の31.4%をわずかに上回っている。なお、無回答者を除くと、「安全な地区へ移転したい」36.9%、「砂防施設を整備して安全を確保して欲しい」は34.6%、「近所の人が移転するなら集団移転」が13.5%になる。【G-図10】



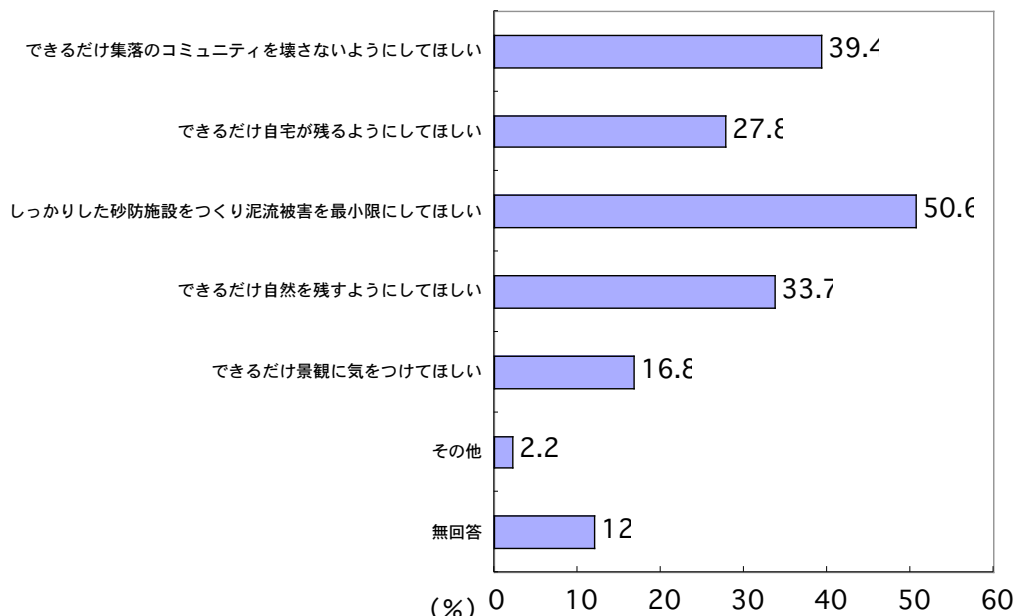
G-図10 泥流被害に対する考え方
(回答世帯数 1,603 世帯)

地区別では、「安全な地区へ移転したい」では伊ヶ谷地区が40.7%で最も多く、その他の地区も3割を超えている。「近所の人移転するならば集団移転」は、阿古地区の14.6%が最も多く、その他の地区は、神着の6.4%以外はほぼ13%弱になっている。「砂防施設を整備して安全を確保してほしい」では、神着地区が41.8%と最も多く、次いで坪田地区の32.6%となっている。とくに神着地区は、「砂防施設を整備して安全を確保してほしい」の回答の割合が「安全な地区へ移転したい」(30.0%)、「近所の人移転するならば集団移転」(6.4%)の合計より上回っている。【G-図11】



G-図11 泥流被害に対する考え方 (地区別)

砂防施設に配慮して欲しい内容（問6）については、「しっかりした砂防施設をつくり泥流被害を最小限に」の回答率が50.6%と最も高く、次いで「コミュニティを壊さずに」が39.4%、「自然を残す」33.7%と続いている。なお、無回答者を除くと「しっかりした砂防施設をつくり泥流被害を最小限に」は57.5%と6割近くになり、「コミュニティを壊さずに」が44.8%、「自然を残す」38.4%となる。【G-図12】



G-図12 砂防施設への配慮希望
(回答世帯数 1,603 世帯)

これを年代別で見ると、20歳代では「自然を残す」が57.1%で最も多く、30歳～60歳代では「砂防施設」を望む回答が多く、いずれも50%を超えている。【G-表2】

G-表2 砂防施設への配慮希望（年代別）

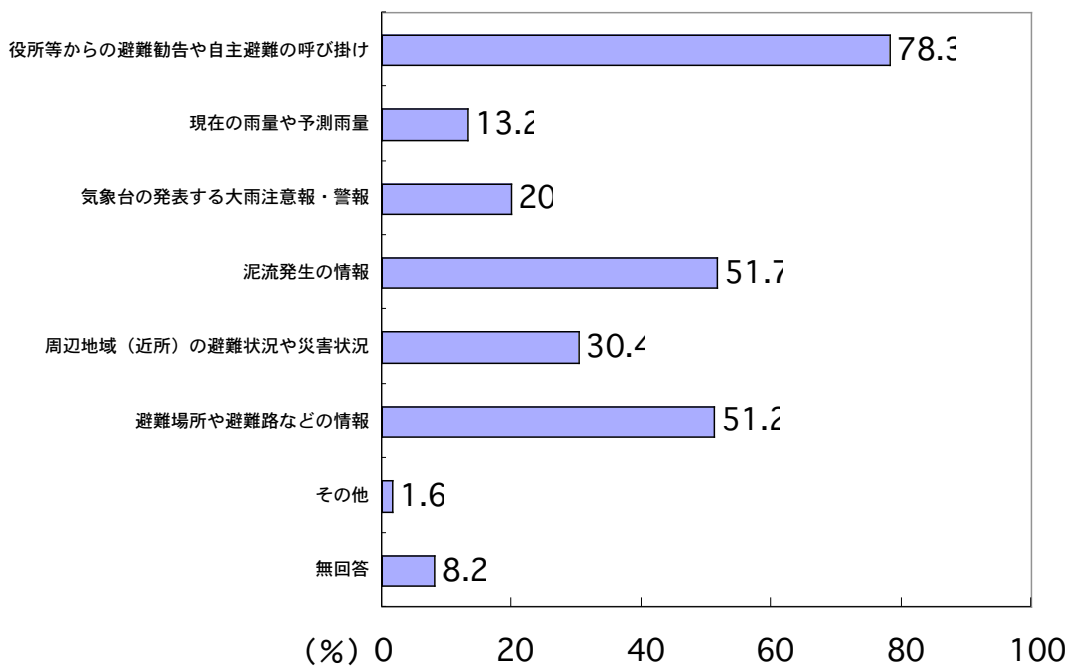
	いよミで るよ に に し て を ほ し い な コ	るよ に に し て を ほ し い な コ	いよミで るよ に に し て を ほ し い な コ	す で よ う に だ け し て ほ し い な コ	を つ け て ほ し い な コ	そ の 他	無 回 答
全 体 (1603世帯)	632 39.4	445 27.8	811 50.6	541 33.7	269 16.8	35 2.2	193 12.0
20歳代 (22世帯)	26 33.8	16 20.8	32 41.6	44 57.1	20 26.0	2 2.6	6 7.8
30歳代 (132世帯)	47 35.6	19 14.4	71 53.8	58 43.9	35 26.5	7 5.3	4 3.0
40歳代 (198世帯)	61 30.8	33 16.7	110 55.6	70 35.4	35 17.7	5 2.5	24 12.1
50歳代 (298世帯)	110 36.9	64 21.5	172 57.7	100 33.6	47 15.8	5 1.7	28 9.4
60歳代 (358世帯)	160 44.7	117 32.7	189 52.8	110 30.7	66 18.4	-	46 12.9
70歳代 (352世帯)	166 47.2	135 38.4	170 48.3	102 29.0	41 11.6	8 2.3	42 11.9
80歳以上 (175世帯)	60 34.3	58 33.1	64 36.6	54 30.9	25 14.3	5 2.9	38 21.7

地区別でも、「砂防施設」を望む回答が多く、約半数に及んでいる。【G-表3】

G-表3 砂防施設への配慮希望（地区別）

	い よ に し て ほ い	ミ 口 に け を 集 落 し な コ	で よ う に だ け し て 自 宅 が 残	い を 設 し 最 小 限 に し 泥 を 流 し 被 防 し	す で よ う に だ け し て 自 然 を 残	を で つ け て ほ し 景 観 に 気	そ の 他	無 回 答
全 体 (1,603世帯)	632 39.4	445 27.8	811 50.6	541 33.7	269 16.8	35 2.2	193 12.0	
神 着 (280世帯)	116 41.4	83 29.6	133 47.5	99 35.4	71 25.4	6 2.1	29 10.4	
伊 豆 (227世帯)	85 37.4	57 25.1	118 52.0	75 33.0	32 14.1	5 2.2	31 13.7	
伊 ヶ 谷 (118世帯)	55 46.6	32 27.1	60 50.8	32 27.1	14 11.9	4 3.4	17 14.4	
阿 古 (499世帯)	189 37.9	128 25.7	246 49.3	171 34.3	84 16.8	14 2.8	70 14.0	
坪 田 (473世帯)	182 38.5	142 30.0	251 53.1	161 34.0	68 14.4	5 1.1	46 9.7	

帰島後で避難が必要な大雨時に必要とする情報（問7）に関しては、「役所等からの避難勧告等の呼びかけ」が最も多く78.3%で、次いで「泥流発生の情報」51.7%、「避難場所や避難路等の情報」51.2%となっており、以上の情報については半数以上が必要と考えている。【G-図13】



G-図13 避難時の必要な情報（回答世帯数1,603世帯）

G-表 4 避難時の必要な情報（年齢別）

	掛 け	告 や 自 主 避 難 の 呼 び 掛 け	役 所 等 か ら の 避 難 の 呼 び 掛 け	現 在 の 雨 量 や 予 測 雨 量	気 象 台 の 発 表 す る 大 雨 注 意 報 ・ 警 報	泥 流 発 生 の 情 報	周 辺 地 域 の 災 害 状 況 の 近 所 の 状 況	避 難 場 所 や 避 難 路 な ど の 情 報	そ の 他	無 回 答						
全 体 (1603世帯)	1255	212	321	828	488	820	25	131	78.3	13.2	20.0	51.7	30.4	51.2	1.6	8.2
20歳代 (77世帯)	60	16	8	44	29	30	2	4	77.9	20.8	10.4	57.1	37.7	39.0	2.6	5.2
30歳代 (132世帯)	106	25	15	84	49	62	4	2	80.3	18.9	11.4	63.6	37.1	47.0	3.0	1.5
40歳代 (198世帯)	144	35	25	113	72	98	5	14	72.7	17.7	12.6	57.1	36.4	49.5	2.5	7.1
50歳代 (298世帯)	233	48	55	171	86	150	-	26	78.2	16.1	18.5	57.4	28.9	50.3	-	8.7
60歳代 (358世帯)	294	32	98	177	104	197	-	28	82.1	8.9	27.4	49.4	29.1	55	-	7.8
70歳代 (352世帯)	289	45	80	166	102	187	7	26	82.1	12.8	22.7	47.2	29.0	53.1	2.0	7.4
80歳以上 (175世帯)	124	9	36	70	44	90	4	27	70.9	5.1	20.6	40.0	25.1	51.4	2.3	15.4

今後の防災対策（問8）では、記入された意見について「危険箇所の対策」「避難施設の充実」「情報伝達方法の改善」「その他」の4項目に分類し集計した。その結果、最も多く出された意見は「危険箇所の対策」で115件あった。次いで「情報伝達方法の改善」である。「危険箇所の対策」では、「砂防施設の充実」に関する意見が多く52件で、「情報」関係では、帰島後の災害時に「情報を早く、詳しく伝える体制の確立」を望む意見が多く71件ある。「その他」では、観測体制の強化、防災体制の充実を望む意見が多い。

G-表5 防災対策の希望の自由記入 内容分類

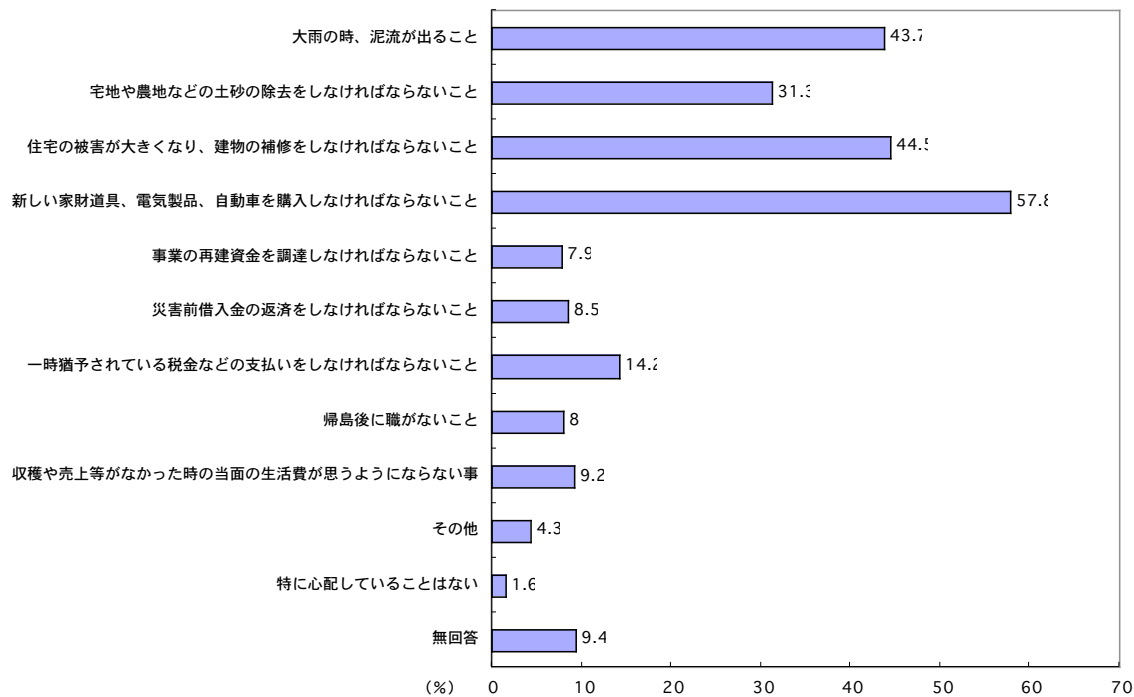
大分類	中分類	件数
危険箇所の対策	砂防施設の充実	52
	住居の移転	22
	環境への配慮	17
	復旧計画、復旧状況の情報公開	11
	交通・道路整備	7
	危険箇所の対策（その他）	6
	危険箇所の対策合計	115
避難施設の充実	クリーンハウスの増設	19
	既存施設を活用しやすいように改善する	16
	各地域に避難施設を設置する	12
	避難施設の充実合計	47
情報伝達方法の改善	情報を早く・詳しく伝える体制の確立	71
	防災無線の充実	19
	情報伝達方法の改善合計	90
その他	観測体制	40
	防災体制	35
	安全な生活の確保	20
	防災計画	11
	その他	8
	その他合計	114

(7) 復興についての意向

(調査票の「H 復興について、お伺いします」の質問)

1) 帰島に関する意向

帰島できる状態になった時の心配なところ(問1)に関しては、「新しい家財道具等の購入」が57.8%と最も多く、次いで「建物の補修」が44.5%、「泥流の発生」43.7%、「土砂の除去」が31.3%と続いている。【H-図1】



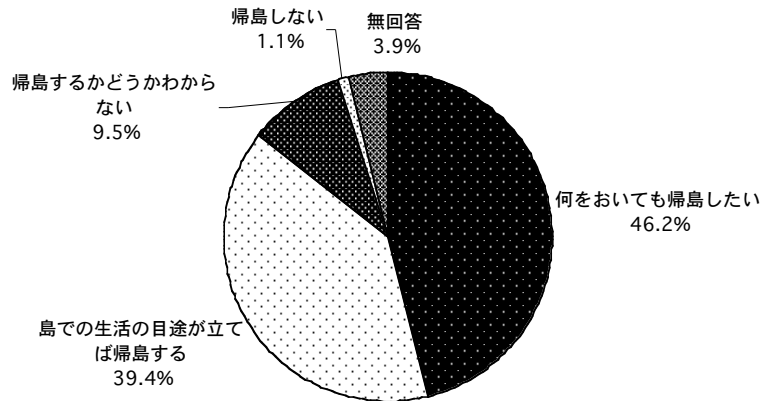
H-図1 帰島できる状態になった時の心配なところ
(回答世帯数 1,603 世帯)

年代別にみると、20歳代～40歳代では、「購入」と「泥流発生」の回答の割合がかなり高くなっている。60歳代～70歳代では「購入」と「建物の補修」は高くなっている。80歳代では、「建物の補修」が最も多くなっている。【H-表1】

H-表1 帰島できる状態になった時の心配なところ(年齢別)

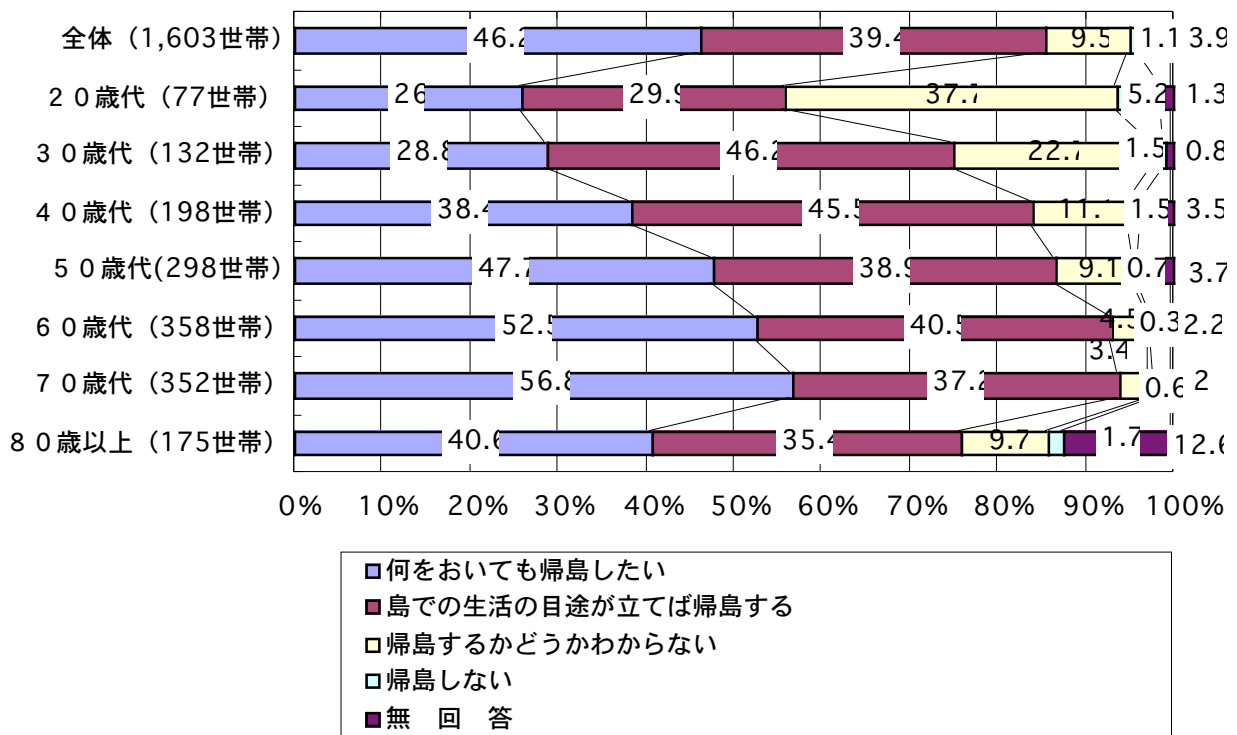
	大雨の時、泥流が出ること	宅地や農地などの土砂の除去をしなければならないこと	住宅の被害が大きくなり、建物の補修をしなければならないこと	新しい家財道具、電気製品、自動車を購入しなければならないこと	事業の再建資金を調達しなければならないこと	災害前借入金の返済をしなければならないこと	一時猶予されている税金などの支払いをしなければならないこと	帰島後に職がないこと	収穫や売上等がなかった時の当面の生活費が思うようにならない事	その他	特に心配していることはない	無回答
全体 (1,603世帯)	700 43.7	501 31.3	713 44.5	927 57.8	126 7.9	137 8.5	227 14.2	129 8.0	147 9.2	69 4.3	26 1.6	151 9.4
20歳代 (77世帯)	41 53.2	12 15.6	28 36.4	53 68.8	4 5.2	2 2.6	8 10.4	4 5.2	6 7.8	7 9.1	-	3 3.9
30歳代 (132世帯)	82 62.1	25 18.9	45 34.1	94 71.2	14 10.6	12 9.1	10 7.6	6 4.5	10 7.6	12 9.1	1.5	2 1.5
40歳代 (198世帯)	98 49.5	29 14.6	72 36.4	120 60.6	24 12.1	31 15.7	25 12.6	18 9.1	18 9.1	17 8.6	1 0.5	17 8.6
50歳代 (298世帯)	129 43.3	63 21.1	118 39.6	172 57.7	37 12.4	48 16.1	47 15.8	34 11.4	27 9.1	9 3.0	6 2.0	30 10.1
60歳代 (358世帯)	130 36.2	133 37.2	193 53.1	224 63.6	28 7.8	14 3.9	53 14.8	38 10.6	42 11.7	10 2.8	2 0.6	32 8.9
70歳代 (352世帯)	138 39.2	164 46.6	174 49.4	192 54.5	17 4.8	16 4.5	68 19.3	25 7.1	34 9.7	9 2.6	6 1.7	30 8.5
80歳以上 (175世帯)	79 45.1	71 40.6	80 45.7	68 38.9	2 1.1	3 1.7	14 8.0	2 1.1	8 4.6	5 2.9	8 4.6	33 18.9

帰島（問2）に関しては、「何をおいても帰島したい」が46.2%で最も高く、次いで「島での生活の目途が立てば帰島する」の39.4%で、この両方すなわち「帰島する」意思のある回答を合計すると85.6%にもなる。無回答を除くと、これは88.9%となる。なお、4割近い世帯で「生活の目途」を回答していることから、帰島を促進させるためには、不安を解消するための今後の各種施策が期待される。【H-図2】



H-図2 帰島の意思
(回答世帯数 1,603 世帯)

年代別にみると、「何をおいても帰島したい」は、年代が高くなるにしたがい、回答の割合が多くなる傾向になっている。「島での生活の目途が立てば帰島する」は、30歳～40歳代が多くなっている。「帰島するかどうかかわからない」は、20歳代で37.7%と同年代の中での最も多い回答になっている。【H-図3】



H-図3 帰島の意思 (年代別)

家族の中に子供（未就学もしくは就学中）や老人、入院中の人などがいる世帯、つまり帰島にあたって家族構成で何らかの制約がある世帯とそうでない世帯で比較すると、制約がある世帯の方が「何をおいても帰島する」の回答の割合は低く、一方「生活の目途」「帰島するかどうか分からない」の回答の割合は高くなっている。教育や医療などの問題の影響や条件に配慮しての結果といえよう。【H-表2】

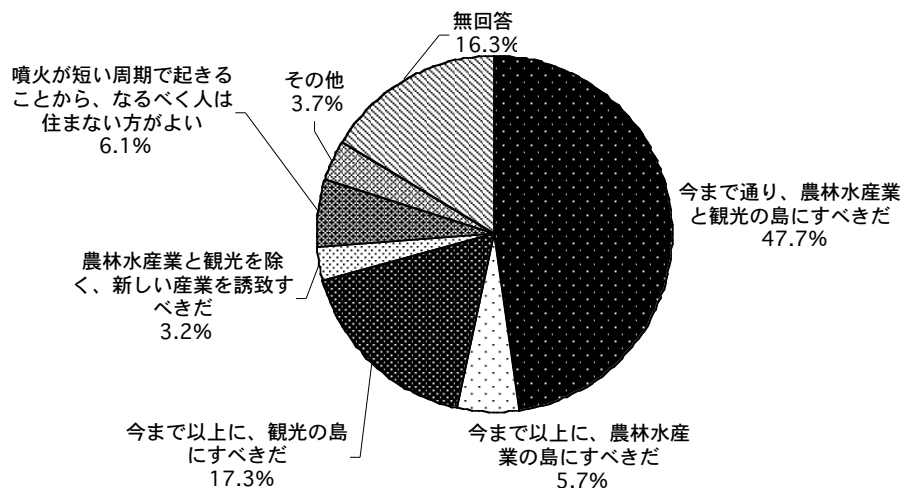
H-表2 帰島の意思と制約条件の有無

	何をおいても帰島したい	島での生活の目途が立てば帰島する	帰島するかどうか分からない	帰島しない	無回答
全体 (1,603世帯)	740 46.2	631 39.4	153 9.5	17 1.1	62 3.9
制約あり (431世帯)	190 40.3	191 40.6	66 14.0	4 0.8	20 4.2
制約なし (1132世帯)	550 48.6	440 38.9	87 7.7	13 1.1	42 3.7

※制約あり、とは家族中にAの間3の人を含む人

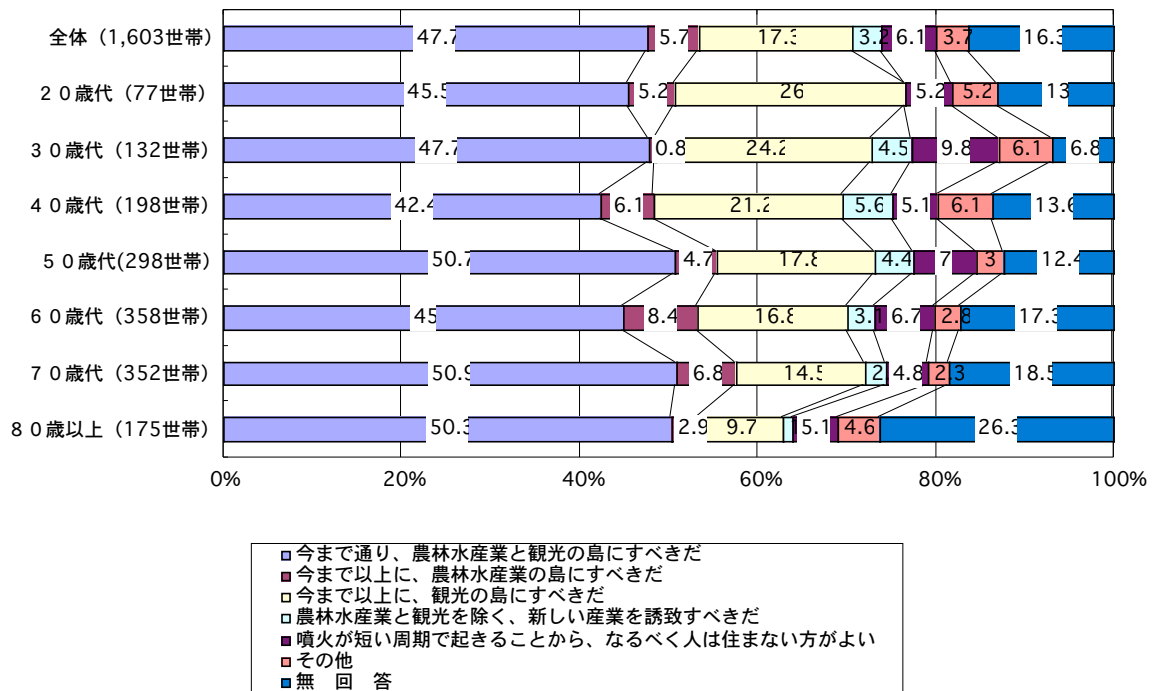
2) 復興に関する意向

三宅村の将来像（問3）に関しては、半数近く of 回答が「今まで通り、農林水産業と観光の島」（47.7%）である。次いで、「今まで以上に観光の島にすべき」が17.3%で続いている。また、「住まない方がよい」は6.1%である。【H-図4】



H-図4 三宅村の将来像
(回答世帯数 1,603 世帯)

年代別にみると、「今まで通り、農林水産業と観光の島」は、50歳代以降の年代にやや多く、一方「今まで以上に観光の島にすべき」は、20歳～40歳代の方が多くなっている。「住まない方がよい」の回答の割合で最も高いのは、30歳代で9.8%である。【H-図5】



H-図5 三宅村の将来像 (年代別)

村の復興計画に関する提案内容（問4）では、まず各項目別の提案件数を集計すると、「島への交通機関」が665件、「エネルギー」が369件、「防災施設」384件、「観光事業」417件、「漁業」265件、「農業」288件、「商工業」211件、「福祉」322件、「その他」241件で、「交通機関」に関する提案や意見が最も多く、次いで「観光」「防災施設」と続いている。「交通機関」で最も提案が多かったのが飛行機の増便など空路の拡充整備に関するものである。「エネルギー」では風力発電など自然エネルギーに関する提案が多く、「防災施設」では砂防施設の整備や避難施設の整備について、また「観光」では火山の見学・学習施設についての提案が多い。漁業では養殖など漁業の活性化に関する提案、「農業」では農業再開のための支援また農業活性化についての要望が多く、「商工業」では再建支援や流通システムの改善など活性化に関係する提案が多い。「福祉」では福祉施設の増設への要望が多く、「その他」では情報提供や住民との話し合いを望む声が多い。

H-表3 島の交通施設についての自由記入 内容分類

大分類	中分類	件数
航空機（空港）の対策	空路の確保（増便）	116
	空港の整備（欠航を減らす）	58
	空港の整備（拡張・ジェット機離発着を可能に）	57
	航空機の対策合計	231
船舶（港）の対策	高速船の導入	49
	航路の確保（増便）	47
	港の整備（欠航を減らす）	25
	港の整備（防災対策）	3
	船舶の対策合計	124
道路対策	道路整備（道路拡張・歩道整備）	31
	道路整備（被害箇所の整備）	21
	道路整備（これ以上必要なし）	16
	道路整備（観光用道路の整備）	8
	道路整備（環境に配慮した整備）	4
	バスの本数を増やす	21
	道路対策合計	101
交通費・時間等への要望	島までの交通費を安くする。	25
	手続きの簡略化	6
	交通費・時間等への要望	31
その他	今までと同じでよい（避難前の交通は確保）	155
	早く復旧をしてほしい	20
	防災対策	3
	その他合計	178

H-表4 島のエネルギー施設に関する自由記入 内容分類

大分類	中分類	件数
自然エネルギー	風力発電	148
	地熱発電	63
	その他（太陽発電等）	54
	自然エネルギーの合計	265
その他	今までと同じでよい	67
	早く復旧を	12
	防災対策	9
	安定供給	8
	発電所の増設・拡大	8
	その他合計	104

H-表5 島の防災施設に関する自由記入 内容分類

大分類	中分類	件数
危険箇所の対策	砂防施設の充実	55
	道路・交通対策	9
	環境への配慮	7
	住居の移転	6
	復旧状況の情報公開	3
	危険箇所の対策（その他）	3
	危険箇所の対策合計	83
避難施設の充実	各地域に避難施設を設置する	50
	既存施設を活用しやすいように改善する	48
	クリーンハウス（脱硫施設等）を増設する	43
	避難施設を兼ねた多目的施設の設置（宿泊可能な施設など）	16
	シェルター施設の建設	8
	大型避難施設の設置	8
	弱者への配慮	8
	学校・公民館等以外の専用の避難施設を設置する	6
	避難施設の充実合計	187
情報伝達方法の改善	防災無線の充実	14
	情報を早く・詳しく伝える	10
	情報伝達方法の改善合計	24
その他	安全な施設を設置して欲しい	32
	早く施設を建設してほしい	20
	適切な対策を行う	11
	過去の災害の経験を活かす	7
	今までと同じでよい	7
	専門家の意見を聞く	3
	火山観測	2
	その他	8
	その他合計	90

H-表6 島の観光事業に関する自由記入 内容分類

大分類	中分類	件数
観光事業活性化の提案	火山の見学・学習施設	107
	三宅島らしさを出す（自然をPR）	62
	マリンレジャーの充実	30
	環境への配慮	15
	温泉開発	11
	安全性の確保・PR	6
	年間・全天候で集客できる施設	4
	その他（新しい観光事業の提案など）	10
	観光事業活性化の提案合計	245
観光復興対策	島全体で観光を考える	29
	交通機関の充実	28
	観光復興支援・協力	19
	観光事業者の努力・連携	17
	人材確保・育成	7
	PRの努力	7
	島外事業者との協力	3
	観光復興対策合計	110
宿泊施設の対策	宿泊施設のサービス、料理等の改善	33
	ホテル、大型リゾート施設の建設	17
	宿泊施設の早期整備	5
	宿泊施設の対策合計	55
その他	今までと同じでよい	7
	その他合計	7

H-表7 島の漁業についての自由記入 内容分類

大分類	中分類	件数
漁業活性化の提案	養殖	46
	島内の魚介類の流通システムの改善	40
	観光漁業	32
	人材の確保・育成	32
	根付漁業の対策（伊勢エビ・トコブシ等の放流）	17
	加工品産業の育成	14
	乱獲の防止	9
	漁業従事者の努力・努力が必要	9
	特産物を考える	2
	漁業活性化の提案合計	201
漁業復興対策	漁港・漁場の整備	19
	再建支援	17
	早期復旧	13
	漁場の調査	5
	漁業復興対策合計	54
その他	今までと同じでよい	10
	その他合計	10

H-表8 島の農業についての自由記入 内容分類

大分類	中分類	件数
農業活性化の提案	レザーファン、あしたば、里芋等、従来の特産物の充実・PR	51
	人材確保・育成	29
	共同経営	24
	流通システム	20
	新しい特産物	16
	農業従事者の努力・協力	12
	ハウス栽培への転換	10
	観光農業	9
		農業活性化の提案合計
農業復興対策	農業再開のための支援（除灰処理等の援助）	72
	火山灰・土砂への対応	20
	火山灰に強い（土壌にあった）品種の研究	15
	早期帰島	3
	農業復興対策合計	110
その他	今まで通り	7
	その他合計	7

H-表9 島の商工業についての自由記入 内容分類

大分類	中分類	件数
商工業活性化の提案	流通システムの改善（島の物価が高い）	39
	大型店等の誘致（共同経営）	18
	観光施設の整備	15
	特産物の販売（農作物等）	14
	商工業者の努力・協力が必要	13
	特産物の販売（火山灰の利用）	10
	人材確保・育成	8
	販売方法	5
	他産業との協力	3
	新しい産業の導入	4
	商工業活性化の提案合計	129
商工業復興対策	再建支援	44
	商工業者が話し合う機会を作る	10
	早期帰島	10
	商工業復興合計	64
その他	帰島者の減少への不安	18
	その他合計	18

H-表10 福祉政策についての自由記入 内容分類

大分類	中分類	件数
福祉施設の充実	福祉施設の増設	95
	「あじさいの里」のような施設の復旧・増設	26
	高齢者向け集団住宅の建設	9
	既存の公共施設の利用する	6
	育児・教育施設の充実	5
	福祉施設の充実合計	141
福祉サービスの充実	老人が暮らしやすいようにする（在宅サービスの充実等）	35
	医療施設の充実	30
	憩いの場の建設	16
	障害者への対応	5
	介護保険	4
	島外の高齢者の受け入れ	4
	福祉サービスの充実合計	94
人材確保・育成	施設増加による雇用の確保	14
	専門家を増やす	6
	人材確保・育成合計	20
福祉支援		21
	福祉支援合計	21
その他	今までと同じでよい	20
	さらに対策を希望	8
	その他	18
	その他合計	46

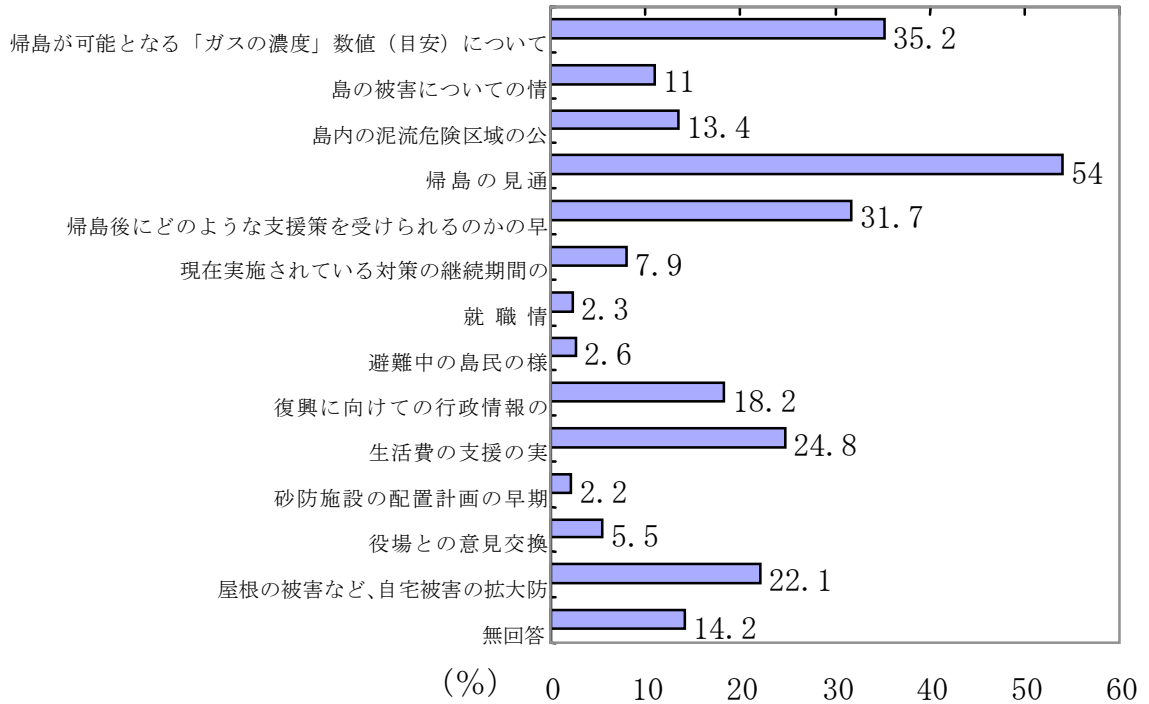
H-表 11 復興計画作成にあたっての自由意見 内容分類

大分類	中分類	件数
産業復興の提案	観光対策	19
	火山灰を利用した産業の育成	5
	専門家の参加	2
	産業復興の提案合計	26
教育・福祉対策	教育（学校の統合）	8
	福祉	8
	教育・福祉対策合計	16
防災対策	住居移転対策	9
	防災施設	7
	道路整備	6
	防災対策（その他）	10
	防災対策合計	32
復興対策	全島民が協力する。（年代、性別をこえて話し合う機会を）	25
	情報提供	24
	行政と住民が協力する	22
	復興計画（全般）	22
	帰島後の支援	19
	専門家の参加	6
	復興対策（その他）	13
	復興対策合計	131
その他	多くの島民が帰島するような対策	19
	早期帰島	8
	環境に配慮した復興	5
	米軍基地	4
	その他合計	36

(7) 行政への要望

(調査票の「I 行政への要望について、お伺いします」の質問)

行政への要望 (問1) に関しては、「帰島の見通し」が54.0%と半数を超え、これに「帰島可能なガス濃度の公表」が35.2%、「支援策の早期発表」が31.7%と続いている。【I-図1】



I-図1 行政への要望
(回答世帯数 1,603 世帯)

年代別でも大きな差はないが、60歳代では「支援策の早期発表」が「帰島可能なガス濃度の公表」を若干上回っている。また、40歳～50歳代では「生活費支援の実施」の回答が約3割弱になっている。【I-表1】

I-表1 行政への要望 (年代別)

	安ス 帰島 濃度 公表	報 島の 被害 情報	公 島内 泥流 危険 区域 の 公表	帰 島の 見通 し	の 援 帰 島 後 に ど の よ う な 支 援 策 を 受 け ら れ る の か の 支 援 策 の 早 期 発 表	策 現 在 実 施 さ れ て い る 対 策 の 続 続 期 間 の 公 表	就 職 情 報	避 難 中 の 島 民 の 様 子	報 復 興 向 け て の 行 政 情 報 の 公 表	生 活 費 の 支 援 の 実 施	早 砂 防 施 設 の 配 置 計 画 の 発 表	役 場 と の 意 見 交 換	被 害 の 拡 大 防 止 の 実 施	無 回 答
全 体 (1,603世帯)	564 35.2	176 11	215 13.4	865 54	508 31.7	126 7.9	37 2.3	41 2.6	291 18.2	398 24.8	36 2.2	88 5.5	354 22.1	228 14.2
20歳代 (77世帯)	26 33.8	13 16.9	10 13	47 61	19 24.7	8 10.4	3 3.9	2 2.6	16 20.8	12 15.6	2 2.6	5 6.5	9 11.7	10 13
30歳代 (132世帯)	42 31.8	17 12.9	18 13.6	78 59.1	39 29.5	15 11.4	2 1.5	2 1.5	23 17.4	34 25.8	3 2.3	12 9.1	19 14.4	10 7.6
40歳代 (198世帯)	63 31.8	28 14.1	25 12.6	97 49	61 30.8	23 11.6	8 4	2 1	49 24.7	55 27.8	5 2.5	12 6.1	42 21.2	23 11.6
50歳代 (298世帯)	104 34.9	29 9.7	45 15.1	162 54.4	97 32.6	24 8.1	13 4.4	5 1.7	61 20.5	83 27.9	7 2.3	9 3	67 22.5	39 13.1
60歳代 (358世帯)	125 34.9	34 9.5	46 12.8	191 53.4	133 37.2	24 6.7	8 2.2	8 2.2	67 18.7	88 24.6	9 2.5	25 7	73 26	45 12.6
70歳代 (352世帯)	141 40.1	38 10.8	46 13.1	191 54.3	120 34.1	22 6.3	1 0.3	13 3.7	54 15.3	89 25.3	9 2.6	17 4.8	88 25	53 15.1
80歳以上 (175世帯)	60 34.3	17 9.7	24 13.7	93 53.1	35 20	10 5.7	1 0.6	8 4.6	20 11.4	35 20	1 0.6	7 4	35 20	42 24

自由記入については、「一時帰島」「避難生活支援」「教育・福祉」「帰島後の支援」「防災対策」「情報公開」「住民と行政の協力」「行政対応」「その他」の9分類で整理した。この分類のなかで最も要望が多かったのは「一時帰島」に関するもので143件である。次が「帰島後の支援」に関する要望で115件で、これに「情報公開」が74件で続いている。さらに一時帰島のなかでは「定期的な一時帰島」を望む声が多く、81件を数えた。避難生活に関する支援では生活費についての支援を望む声が多い。帰島後の支援では住宅の補修に関する費用への支援を希望する声が多く48件であった。情報公開に関することでは、「今後の見通し」や「復興計画」に関する情報提供を希望する声が多く、また「住民と行政の協力」では「もっと話し合い」を望む意見が多い。「行政対応」では行政の対応への苦情や村議への要望に関する回答も寄せられている。「その他」で最も多いのが「島への早期帰島」についての希望であり、88件である。また将来への不安に関する記述が43件、アンケートに関する要望も33件寄せられた。

1回目との比較では、前回は「一時帰島」に関する要望が最も多かったが、一時帰島を終えた今回は自宅などの資産を維持保全のための「継続的な一時帰島」を望む声が多かった。また、前回は「情報提供」を望む声が多かったが、今回は「帰島時支援」への要望が多かった。

I-表2 自由記入 内容分類

大分類	中分類	件数
一時帰島	定期的に一時帰島を行う	81
	自己負担・自己責任による一時帰島	27
	1世帯の帰島人数を増やす	14
	持ち出し品を多くしたい	12
	宿泊を伴う一時帰島を行う	9
	一時帰島合計	143
避難生活支援	生活費支援	23
	就労支援（避難時）	11
	住居の移転	10
	交通費・医療費等の支援	8
	地方避難者への支援	4
	避難生活支援合計	56
教育・福祉	福祉支援（避難時）	19
	教育環境をよくする	15
	教育・福祉合計	34
帰島後の支援	住宅補修費用支援	48
	産業復興支援	20
	福祉支援（帰島後）	17
	車等の廃棄・降灰除去費用支援	11
	就労支援（帰島後）	10
	村営住宅（仮設住宅）の建設	9
	帰島後の支援合計	115
防災対策	防災施設の充実	9
	適切な復旧作業を希望	11
	防災対策合計	20
情報公開	今後の見通しを示す	24
	復興計画	24
	長期化の場合の計画の提示	10
	島の状況を詳細に公表する	10
	火山活動の状況	6
	情報公開合計	74
住民と行政の協力	行政と住民の話し合いの場	25
	住民と行政の協力合計	25
行政対応	村、都、ボランティア等に対する感謝	32
	行政の対応に対する苦情	28
	村議への希望	7
	行政対応合計	67
その他	島で生活したい	88
	将来への不安	43
	アンケートについて	33
	新しい三宅村	12
	健康に対する不安	10
	米軍基地問題	9
	観光事業の提案	4
	交通の確保	4
	その他	18
	その他合計	221

資料 1 調査結果

(A) 家族などについて

1) 【A-問 1】 世帯主の年齢 (単一回答)

調査数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答
1603	77	132	198	298	358	352	175	13
%	4.8	8.2	12.4	18.6	22.3	22.0	10.9	0.8

2) 【A-問 2】 家族人数 (単一回答)

調査数	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	無回答
1603	434	510	247	202	115	59	36
%	27.1	31.8	15.4	12.6	7.2	3.7	2.2

3) 【A-問 3】 家族の状況 (複数回答)

調査数	未就学の子供	小中高に 行っている 子供	老人ホーム に入っている	入院中の 人	無回答
1603	126	294	79	44	1132
%	7.9	18.3	4.9	2.7	70.6

4) 【A-問 4】 島での居住地区 (単一回答)

調査数	神着	伊豆	伊谷	阿古	坪田	無回答
1603	280	227	118	499	473	6
%	17.5	14.2	7.4	31.1	29.5	0.4

5) 【A-問 5】 三宅島での住宅の所有形態 (単一回答)

調査数	持ち家	村営住宅	社宅	公務員住宅	借家・民間アパート	その他	無回答
1603	1179	113	36	115	99	53	8
%	73.5	7.0	2.2	7.2	6.2	3.3	0.5

6) 【A-問6】 避難前の主な職業（単一回答）

調査数	農業	漁業・水産加工業	建設業	林業	運輸業	公務員	民宿業	サ○ビス業	飲食業	小売業	金融業	電気・通信業	その他	年金	無職	無回答
1603	85	65	199	7	21	256	52	105	29	50	5	25	123	507	49	25
%	5.3	4.1	12.4	0.4	1.3	16.0	3.2	6.6	1.8	3.1	0.3	1.6	7.7	31.6	3.1	1.6

7) 【A-問7】 避難前の就業形態（単一回答）

※Aの問6で年金・無職・無回答を除く

調査数	会社・団体 に いる □ 個人 な ど に 雇 用 さ れ て い る	会社・団体 に いる □ 個人 な ど に 雇 用 さ れ て い る	自営業	その他	無回答
1022	531	79	285	22	105
%	52.0	7.7	27.9	2.2	10.3

8) 【A-問8】 避難後の主な職業（単一回答）

調査数	農業	漁業・水産加工業	建設業	林業	運輸業	公務員	民宿業	サ○ビス業	飲食業	小売業	金融業	電気・通信業	その他	年金	無職	無回答
1603	14	29	132	3	19	247	1	60	11	10	3	22	187	646	136	83
%	0.9	1.8	8.2	0.2	1.2	15.4	0.1	3.7	0.7	0.6	0.2	1.4	11.7	40.3	8.5	5.2

9) 【A-問9】 避難後の就業形態（単一回答）

※Aの問8で年金・無職・無回答を除く

調査数	会社・団体 に いる □ 個人 な ど に 雇 用 さ れ て い る	会社・団体 に いる □ 個人 な ど に 雇 用 さ れ て い る	自営業	その他	無回答
738	435	163	53	27	60
%	58.9	22.1	7.2	3.7	8.1

【A-問9-2】 主な職業・就業形態による避難前後の比較

	調査数	雇 常 用 時	雇 臨 用 時	自 営 業	そ の 他	無 職	年 金	無 回 答
避難前	1603	531	79	285	127	49	507	25
	%	33.1%	4.9%	17.8%	7.9%	3.1%	31.6%	1.6%
避難後	1603	435	163	53	87	136	646	83
	%	27.1%	10.2%	3.3%	5.4%	8.5%	40.3%	5.2%

※「その他」は、何らかの収入がある世帯である。

(B) 一時帰宅について【報告書 (1) 自宅の被害の概要】

1) 【B-問1】自宅の被害概要 (複数回答)

調査数	泥流で□補修できないほど家が壊れていた	床下に泥流が堆積していた	泥流は畳や床の上まで堆積していた	家の中に大きな石や流木が流れ込んでいた	敷地内に泥流がたい積していた	敷地内に大きな石や流木が流れ込んでいた	ドアの鍵穴□ペランダなど金属製の部分が腐食していた	畳や壁などにカビが出ていた	屋根に穴があいていて□室内に雨水が入□ていた	白アリが出始めていた	室内にネズミなどの小動物が入□て荒らされていた	窓のガラスが壊れていた	その他	特に目立□た被害はな□か□た	帰島していないので□分からない	無回答
1603	15	42	20	3	160	23	661	611	228	261	828	78	243	148	199	47
%	0.9	2.6	1.2	0.2	10.0	1.4	41.2	38.1	14.2	16.3	51.7	4.9	15.2	9.2	12.4	2.9

2) 【B-問1】A-4 島での居住地区×自宅の被害概要

	調査数	泥流で□補修できないほど家が壊れていた	床下に泥流が堆積していた	泥流は畳や床の上まで堆積していた	家の中に大きな石や流木が流れ込んでいた	敷地内に泥流がたい積していた	敷地内に大きな石や流木が流れ込んでいた	ドアの鍵穴□ペランダなど金属製の部分が腐食していた	畳や壁などにカビが出ていた	屋根に穴があいていて□室内に雨水が入□ていた	白アリが出始めていた	室内にネズミなどの小動物が入□て荒らされていた	窓のガラスが壊れていた	その他	特に目立□た被害はな□か□た	帰島していないので□分からない	無回答
全体	1603	15	42	20	3	160	23	661	611	228	261	828	78	243	148	199	47
	100.0	0.9	2.6	1.2	0.2	10.0	1.4	41.2	38.1	14.2	16.3	51.7	4.9	15.2	9.2	12.4	2.9
神着	280	5	21	9	1	80	12	104	103	44	49	126	6	45	29	37	6
	100.0	1.8	7.5	3.2	0.4	28.6	4.3	37.1	36.8	15.7	17.5	45.0	2.1	16.1	10.4	13.2	2.1
伊豆	227	2	1	-	-	10	1	67	85	23	23	78	3	27	37	37	5
	100.0	0.9	0.4	-	-	4.4	0.4	29.5	37.4	10.1	10.1	34.4	1.3	11.9	16.3	16.3	2.2
伊ヶ谷	118	4	8	4	1	23	4	43	47	15	8	70	4	21	6	15	3
	100.0	3.4	6.8	3.4	0.8	19.5	3.4	36.4	39.8	12.7	6.8	59.3	3.4	17.8	5.1	12.7	2.5
阿古	499	2	5	1	-	20	3	253	183	52	73	245	34	84	43	64	18
	100.0	0.4	1.0	0.2	-	4.0	0.6	50.7	36.7	10.4	14.6	49.1	6.8	16.8	8.6	12.8	3.6
坪田	473	2	7	6	1	27	3	192	191	94	106	305	31	64	33	46	14
	100.0	0.4	1.5	1.3	0.2	5.7	0.6	40.6	40.4	19.9	22.4	64.5	6.6	13.5	7.0	9.7	3.0

3) 【B-問2】自宅の被害程度 (単一回答)

※【B-問1】で、「特に目立った被害はなかった」、「帰島していないので、分からない」と答えた方を除く。

調査数	補修できない被害だが、補修するほどの被害ではない	補修すれば住むことができる	補修するほどの被害ではない	その他	無回答
1357	59	701	431	70	96
%	4.3	51.7	31.8	5.2	7.1

4) 【B-問2】 A-4 島での居住地区×自宅の被害程度

調査数	補修できない被害だ	補修だけではとても住むことができない被害である	補修すれば住むことができる	補修するほどの被害ではない	その他	無回答
全体	1357	59	701	431	70	96
	100.0	4.3	51.7	31.8	5.2	7.1
神着	237	15	112	75	14	21
	100.0	6.3	47.3	31.6	5.9	8.9
伊豆	185	4	72	83	10	16
	100.0	2.2	38.9	44.9	5.4	8.6
伊ヶ谷	100	10	50	24	7	9
	100.0	10.0	50.0	24.0	7.0	9.0
阿古	417	14	231	136	15	21
	100.0	3.4	55.4	32.6	3.6	5.0
坪田	413	16	234	113	24	26
	100.0	3.9	56.7	27.4	5.8	6.3

5) 【B-問3】 自己所有住宅の再建意向（単一回答）

調査数	軽微な被害であるため□補修して住み続ける	大きな被害を受けたが□今の場所で再建したい	大きな被害を受けたが□同じ地区内で住宅を再建したい	三宅村の別の地区で住宅を再建したい	再建せずに村営住宅に入りたい	被害がないので再建の必要がない	帰島するかどうかわからない	帰島しない	その他	無回答
1179	614	57	5	1	23	236	68	11	72	92
%	52.1	4.8	0.4	0.1	2.0	20.0	5.8	0.9	6.1	7.8

6) 【B-問3】 A-4 島での居住地区×自己所有住宅の再建意向

調査数	軽微な被害であるため□補修して住み続ける	大きな被害を受けたが□今の場所で再建したい	大きな被害を受けたが□同じ地区内で住宅を再建したい	三宅村の別の地区で住宅を再建したい	再建せずに村営住宅に入りたい	被害がないので再建の必要がない	帰島するかどうかわからない	帰島しない	その他	無回答
全体	1179	614	57	5	1	23	236	68	11	72
	100.0	52.1	4.8	0.4	0.1	2.0	20.0	5.8	0.9	6.1
神着	216	116	9	4	-	3	48	13	1	8
	100.0	53.7	4.2	1.9	-	1.4	22.2	6.0	0.5	3.7
伊豆	160	71	-	-	-	2	50	9	2	8
	100.0	44.4	-	-	-	1.3	31.3	5.6	1.3	5.0
伊ヶ谷	104	46	6	-	-	3	24	6	-	9
	100.0	44.2	5.8	-	-	2.9	23.1	5.8	-	8.7
阿古	364	202	16	-	-	10	65	17	4	25
	100.0	55.5	4.4	-	-	2.7	17.9	4.7	1.1	6.9
坪田	331	177	26	1	1	5	49	23	4	22
	100.0	53.5	7.9	0.3	0.3	1.5	14.8	6.9	1.2	6.6

7) 【B-問4】 帰島後の住まい (借家) (単一回答)

調査数	離島前のもとの借家に住み続けた	住みの同一地区内の別の借家に住み替えたい	島の別地区の借家に住み替えたい	帰島するかどうかわからない	帰島しない	その他	無回答
363	220	31	6	56	9	17	24
%	60.6	8.5	1.7	15.4	2.5	4.7	6.6

8) 【B-問4】 A-4 島での居住地区×帰島後の住まい (借家)

	調査数	離島前のもとの借家に住み続けた	住みの同一地区内の別の借家に住み替えたい	島の別地区の借家に住み替えたい	帰島するかどうかわからない	帰島しない	その他	無回答
全体	363	220	31	6	56	9	17	24
	100.0	60.6	8.5	1.7	15.4	2.5	4.7	6.6
神着	51	30	6	1	4	1	5	4
	100.0	58.8	11.8	2.0	7.8	2.0	9.8	7.8
伊豆	62	44	-	2	8	2	1	5
	100.0	71.0	-	3.2	12.9	3.2	1.6	8.1
伊ヶ谷	9	5	1	1	1	-	-	1
	100.0	55.6	11.1	11.1	11.1	-	-	11.1
阿古	106	63	7	2	22	3	4	5
	100.0	59.4	6.6	1.9	20.8	2.8	3.8	4.7
坪田	135	78	17	-	21	3	7	9
	100.0	57.8	12.6	-	15.6	2.2	5.2	6.7

9) 【B-問5】 今後自宅で心配される被害 (複数回答)

調査数	泥流による被害	ドアの鍵穴などの腐食	畳や壁などのカビ	屋根に穴があいて□室内への雨水の侵入	白アリによる被害	ネズミやイタチなどによる被害	窓のガラスやドアの破損	あまり心配はしていない	その他	無回答
1603	190	398	717	476	505	701	137	56	126	236
%	11.9	24.8	44.7	29.7	31.5	43.7	8.5	3.5	7.9	14.7

10) 【B-問5】 A-4 島での居住地区×今後自宅で心配される被害

	調査数	泥流による被害	ドアの鍵穴などの腐食	畳や壁などのカビ	屋根に穴があいて□室内への雨水の侵入	白アリによる被害	ネズミやイタチなどによる被害	窓のガラスやドアの破損	あまり心配はしていない	その他	無回答
全体	1603	190	398	717	476	505	701	137	56	126	236
	100.0	11.9	24.8	44.7	29.7	31.5	43.7	8.5	3.5	7.9	14.7
神着	280	62	70	127	95	84	104	25	7	18	42
	100.0	22.1	25.0	45.4	33.9	30.0	37.1	8.9	2.5	6.4	15.0
伊豆	227	19	53	116	46	60	82	15	18	29	27
	100.0	8.4	23.3	51.1	20.3	26.4	36.1	6.6	7.9	12.8	11.9
伊ヶ谷	118	27	21	54	38	26	67	10	3	7	16
	100.0	22.9	17.8	45.8	32.2	22.0	56.8	8.5	2.5	5.9	13.6
阿古	499	38	162	205	119	169	232	42	16	36	80
	100.0	7.6	32.5	41.1	23.8	33.9	46.5	8.4	3.2	7.2	16.0
坪田	473	44	89	212	177	163	215	45	12	36	70
	100.0	9.3	18.8	44.8	37.4	34.5	45.5	9.5	2.5	7.6	14.8

(C) 一時帰宅について【報告書 (2) 生計の実態】

1) 【C-問1】1ヶ月あたりの生活費 (単一回答)

調査数	3万円未満	3万円□5万円未満	5万円□10万円未満	10万円□15万円未満	15万円□20万円未満	20万円□25万円未満	25万円□30万円未満	30万円以上	無回答
1603	13	41	218	243	256	201	126	254	251
%	0.8	2.6	13.6	15.2	16.0	12.5	7.9	15.8	15.7

①1ヶ月あたりの生活費の平均

調査数	平均
1352	20.04
%	

2) 【C-問1】A-1 世帯主の年齢×1ヶ月あたりの生活費

	調査数	3万円未満	3万円□5万円未満	5万円□10万円未満	10万円□15万円未満	15万円□20万円未満	20万円□25万円未満	25万円□30万円未満	30万円以上	無回答
全体	1603	13	41	218	243	256	201	126	254	251
	100.0	0.8	2.6	13.6	15.2	16.0	12.5	7.9	15.8	15.7
20歳代	77	-	-	9	17	23	9	6	-	13
	100.0	-	-	11.7	22.1	29.9	11.7	7.8	-	16.9
30歳代	132	-	2	6	15	28	27	11	25	18
	100.0	-	1.5	4.5	11.4	21.2	20.5	8.3	18.9	13.6
40歳代	198	-	-	10	13	23	32	21	69	30
	100.0	-	-	5.1	6.6	11.6	16.2	10.6	34.8	15.2
50歳代	298	2	3	16	28	37	38	30	100	44
	100.0	0.7	1.0	5.4	9.4	12.4	12.8	10.1	33.6	14.8
60～64歳	137	-	-	18	16	21	18	16	23	25
	100.0	-	-	13.1	11.7	15.3	13.1	11.7	16.8	18.2
65～69歳	221	-	4	29	48	45	26	12	18	39
	100.0	-	1.8	13.1	21.7	20.4	11.8	5.4	8.1	17.6
70歳代	352	7	8	72	81	60	42	27	15	40
	100.0	2.0	2.3	20.5	23.0	17.0	11.9	7.7	4.3	11.4
80歳以上	175	4	24	57	23	19	9	3	4	32
	100.0	2.3	13.7	32.6	13.1	10.9	5.1	1.7	2.3	18.3

3) 【C-問1】 A-2 家族人数×1ヶ月あたりの生活費

	調 査 数	3 万 円 未 満	3 万 円 □ 5 万 円 未 満	5 万 円 □ 1 0 万 円 未 満	1 0 万 円 □ 1 5 万 円 未 満	1 5 万 円 □ 2 0 万 円 未 満	2 0 万 円 □ 2 5 万 円 未 満	2 5 万 円 □ 3 0 万 円 未 満	3 0 万 円 以 上	無 回 答
全 体	1603	13	41	218	243	256	201	126	254	251
	100.0	0.8	2.6	13.6	15.2	16.0	12.5	7.9	15.8	15.7
1 人	434	4	22	132	96	65	28	14	9	64
	100.0	0.9	5.1	30.4	22.1	15.0	6.5	3.2	2.1	14.7
2 人	510	3	6	39	99	125	80	41	51	66
	100.0	0.6	1.2	7.6	19.4	24.5	15.7	8.0	10.0	12.9
3 人	247	4	9	19	18	33	39	30	58	37
	100.0	1.6	3.6	7.7	7.3	13.4	15.8	12.1	23.5	15.0
4 人	202	1	-	8	12	17	34	24	68	38
	100.0	0.5	-	4.0	5.9	8.4	16.8	11.9	33.7	18.8
5 人	115	-	-	11	7	7	11	11	48	20
	100.0	-	-	9.6	6.1	6.1	9.6	9.6	41.7	17.4
6人以上	59	-	2	4	6	6	7	5	20	9
	100.0	-	3.4	6.8	10.2	10.2	11.9	8.5	33.9	15.3

4) 【C-問1】 A-3 家族の状況×1ヶ月あたりの生活費

	調 査 数	3 万 円 未 満	3 万 円 □ 5 万 円 未 満	5 万 円 □ 1 0 万 円 未 満	1 0 万 円 □ 1 5 万 円 未 満	1 5 万 円 □ 2 0 万 円 未 満	2 0 万 円 □ 2 5 万 円 未 満	2 5 万 円 □ 3 0 万 円 未 満	3 0 万 円 以 上	無 回 答
全 体	1603	13	41	218	243	256	201	126	254	251
	100.0	0.8	2.6	13.6	15.2	16.0	12.5	7.9	15.8	15.7
未就学の子供	126	-	1	6	7	14	33	17	32	16
	100.0	-	0.8	4.8	5.6	11.1	26.2	13.5	25.4	12.7
小、中、高、大学などに 行っている子供	294	-	2	11	14	27	34	28	123	55
	100.0	-	0.7	3.7	4.8	9.2	11.6	9.5	41.8	18.7
老人ホームに入っている人	79	1	4	19	13	6	6	4	12	14
	100.0	1.3	5.1	24.1	16.5	7.6	7.6	5.1	15.2	17.7
入院中の人	44	-	1	6	8	9	4	1	5	10
	100.0	-	2.3	13.6	18.2	20.5	9.1	2.3	11.4	22.7
無回答	1132	12	34	183	204	209	136	81	105	168
	100.0	1.1	3.0	16.2	18.0	18.5	12.0	7.2	9.3	14.8

5) 【C-問1】 F-1 現在の居住形態×1ヶ月あたりの生活費

	調 査 数	3 万 円 未 満	3 万 円 □ 5 万 円 未 満	5 万 円 □ 1 0 万 円 未 満	1 0 万 円 □ 1 5 万 円 未 満	1 5 万 円 □ 2 0 万 円 未 満	2 0 万 円 □ 2 5 万 円 未 満	2 5 万 円 □ 3 0 万 円 未 満	3 0 万 円 以 上	無 回 答
全 体	1603	13	41	218	243	256	201	126	254	251
	100.0	0.8	2.6	13.6	15.2	16.0	12.5	7.9	15.8	15.7
公営住宅	1055	7	17	127	170	192	147	92	166	137
	100.0	0.7	1.6	12.0	16.1	18.2	13.9	8.7	15.7	13.0
民間賃貸住宅	94	-	-	5	12	7	16	14	34	6
	100.0	-	-	5.3	12.8	7.4	17.0	14.9	36.2	6.4
親・兄弟の家	81	1	1	9	18	18	9	3	10	12
	100.0	1.2	1.2	11.1	22.2	22.2	11.1	3.7	12.3	14.8
知人宅	14	-	-	4	2	2	1	1	2	2
	100.0	-	-	28.6	14.3	14.3	7.1	7.1	14.3	14.3
子供の家	116	3	8	33	16	14	13	7	5	17
	100.0	2.6	6.9	28.4	13.8	12.1	11.2	6.0	4.3	14.7
社 宅	76	1	4	4	11	12	10	4	22	8
	100.0	1.3	5.3	5.3	14.5	15.8	13.2	5.3	28.9	10.5
老人ホーム	55	1	10	18	8	2	1	1	7	7
	100.0	1.8	18.2	32.7	14.5	3.6	1.8	1.8	12.7	12.7
その他	121	-	1	4	10	15	8	7	51	25
	100.0	-	0.8	3.3	8.3	12.4	6.6	5.8	42.1	20.7

6) 【C-問2】 1ヶ月あたりの生活費支出内訳

	調 査 数	3 千 円 未 満	3 千 円 □ 5 千 円 未 満	5 千 円 □ 1 万 円 未 満	1 万 円 □ 1 万 5 千 円 未 満	1 万 5 千 円 □ 2 万 円 未 満	2 万 円 □ 3 万 円 未 満	3 万 円 □ 4 万 円 未 満	4 万 円 □ 5 万 円 未 満	5 万 円 □ 6 万 円 未 満	6 万 円 □ 7 万 円 未 満	7 万 円 □ 8 万 円 未 満	8 万 円 □ 1 0 万 円 未 満	1 0 万 円 以 上	無 回 答
①家賃（管理費含む）	1603	1022	54	11	12	11	27	28	14	16	13	14	15	19	347
	100.0	63.8	3.4	0.7	0.7	0.7	1.7	1.7	0.9	1.0	0.8	0.9	0.9	1.2	21.6
②電気代	1603	280	373	548	107	21	10	4	1	-	-	-	-	-	259
	100.0	17.5	23.3	34.2	6.7	1.3	0.6	0.2	0.1	-	-	-	-	-	16.2
③ガス代	1603	461	467	362	45	6	2	1	1	-	-	-	-	-	258
	100.0	28.8	29.1	22.6	2.8	0.4	0.1	0.1	0.1	-	-	-	-	-	16.1
④水道代	1603	820	260	182	45	9	4	-	1	-	-	1	-	-	281
	100.0	51.2	16.2	11.4	2.8	0.6	0.2	-	0.1	-	-	0.1	-	-	17.5
⑤電話代	1603	200	219	400	239	114	111	45	13	7	5	-	1	-	249
	100.0	12.5	13.7	25.0	14.9	7.1	6.9	2.8	0.8	0.4	0.3	-	0.1	-	15.5
⑥自動車や住宅ローンなどの返済	1603	945	-	2	19	15	36	32	25	32	24	19	26	61	367
	100.0	59.0	-	0.1	1.2	0.9	2.2	2.0	1.6	2.0	1.5	1.2	1.6	3.8	22.9
⑦事業のための借入金の返済	1603	1123	1	5	5	3	14	14	9	10	4	4	3	21	387
	100.0	70.1	0.1	0.3	0.3	0.2	0.9	0.9	0.6	0.6	0.2	0.2	0.2	1.3	24.1
⑧公的年金（国民年金・厚生年金など）	1603	824	8	10	89	21	99	60	43	19	13	4	3	11	399
	100.0	51.4	0.5	0.6	5.6	1.3	6.2	3.7	2.7	1.2	0.8	0.2	0.2	0.7	24.9
⑨健康保険	1603	672	52	125	123	75	67	40	15	10	2	4	-	2	416
	100.0	41.9	3.2	7.8	7.7	4.7	4.2	2.5	0.9	0.6	0.1	0.2	-	0.1	26.0
⑩その他の民間生命保険・損害保険	1603	426	30	75	117	56	135	109	78	72	45	28	28	41	363
	100.0	26.6	1.9	4.7	7.3	3.5	8.4	6.8	4.9	4.5	2.8	1.7	1.7	2.6	22.6
⑪医療費（交通費含む）	1603	473	123	210	189	70	83	49	17	8	6	7	6	27	335
	100.0	29.5	7.7	13.1	11.8	4.4	5.2	3.1	1.1	0.5	0.4	0.4	0.4	1.7	20.9
⑫食 費	1603	38	3	5	11	13	45	109	116	188	136	91	182	355	311
	100.0	2.4	0.2	0.3	0.7	0.8	2.8	6.8	7.2	11.7	8.5	5.7	11.4	22.1	19.4
⑬その他	1603	172	36	97	180	85	175	152	59	81	36	26	34	96	374
	100.0	10.7	2.2	6.1	11.2	5.3	10.9	9.5	3.7	5.1	2.2	1.6	2.1	6.0	23.3

7) 【C-問2】1ヶ月あたりの生活費支出内訳平均（0回答を除く）

※ 調査票に「支払っていない時は、0とご記入ください」としたため0を支出とせず平均より除いた。

① 家賃の平均

(回答 362 世帯)

	平 均
単位 (円)	25,390

② 電気代の平均

(回答 1,188 世帯)

	平 均
単位 (円)	5,904

③ ガス代の平均

(回答 1,177 世帯)

	平 均
単位 (円)	4,344

④ 水道代の平均

(回答 942 世帯)

	平 均
単位 (円)	3,786

⑤ 電話代の平均

(回答 1,221 世帯)

	平 均
単位 (円)	10,687

⑥ ローン返済の平均

(回答 294 世帯)

	平 均
単位 (円)	61,002

⑦ 事業の借入金平均

(回答 94 世帯)

	平 均
単位 (円)	124,161

⑧ 公的年金の平均

(回答 384 世帯)

	平 均
単位 (円)	30,348

⑨ 健康保険の平均

(回答 617 世帯)

	平 均
単位 (円)	13,848

⑩ その他保険の平均

(回答 840 世帯)

	平 均
単位 (円)	34,776

⑪ 医療費の平均

(回答 910 世帯)

	平 均
単位 (円)	19,901

⑫ 食費の平均

(回答 1,254 世帯)

	平 均
単位 (円)	75,265

⑬ ①～⑫以外の支出平均

(回答 1,081 世帯)

	平 均
単位 (円)	38,504

8) 【C-問3】1ヶ月あたりの生活費を得る方法平均（0回答を含む）

	調 査 数	0 円	2 万円 未満	2 万円 □ 4 万円 未満	4 万円 □ 6 万円 未満	6 万円 □ 8 万円 未満	8 万円 □ 1 0 万円 未満	1 0 万円 □ 1 5 万円 未満	1 5 万円 □ 2 0 万円 未満	2 0 万円 以上	無 回 答
①給料として（円）	1603	753	2	2	4	9	10	42	97	335	349
	100	47	0.1	0.1	0.2	0.6	0.6	2.6	6.1	20.9	21.8
②アルバイト代として（円）	1603	1017	13	27	42	35	24	48	18	29	350
	100	63.4	0.8	1.7	2.6	2.2	1.5	3	1.1	1.8	21.8
③年 金（円）	1603	613	11	61	83	98	54	142	82	118	341
	100	38.2	0.7	3.8	5.2	6.1	3.4	8.9	5.1	7.4	21.3

9) 【C-問3】1ヶ月あたりの生活費を得る方法平均（0回答を除く）

	調 査 数	平 均
①給料として（円）	501	265,871
	31.3	
②アルバイト代として（円）	236	94,869
	14.7	
③年 金（円）	649	120,885
	40.5	
④子供からの支援（円）	54	46,949
	3.4	
⑤義援金・生活再建支援金から（円）	219	80,858
	13.7	
⑥保険の解約や預貯金の取り崩し（円）	303	78,054
	18.9	
⑦避難後の新規借入金（円）	47	223,648
	2.9	
⑧その他（円）	81	113,965
	5.1	

※調査票に「収入のうち項目については、0とご記入ください」としたため0収入とせず平均より除いた。

10) 【C-問3】生活費を得る方法（分布）（0回答を除く）

	1 万円 未満	1 万円 ～ 1 万 5 千 円 未満	1 万 5 千 円 ～ 2 万 円 未満	2 万 円 ～ 3 万 円 未満	3 万 円 ～ 4 万 円 未満	4 万 円 ～ 5 万 円 未満	5 万 円 ～ 6 万 円 未満	6 万 円 ～ 7 万 円 未満	7 万 円 ～ 8 万 円 未満	8 万 円 ～ 9 万 円 未満	9 万 円 ～ 1 0 万 円 未満	1 0 万 円 ～ 1 5 万 円 未満	1 5 万 円 ～ 2 0 万 円 未満	2 0 万 円 ～ 2 5 万 円 未満	2 5 万 円 ～ 3 0 万 円 未満	3 0 万 円 ～ 4 0 万 円 未満	4 0 万 円 ～ 5 0 万 円 未満	5 0 万 円 ～ 6 0 万 円 未満	6 0 万 円 以上
給料として (N=501)	1	0	2	1	1	1	3	2	7	7	3	42	96	90	64	108	43	20	10
	0.2	0.0	0.4	0.2	0.2	0.2	0.6	0.4	1.4	1.4	0.6	8.4	19.2	18.0	12.8	21.6	8.6	4.0	2.0
アルバイト 代(N=236)	4	5	4	10	17	12	30	17	18	16	8	48	18	13	12	4	-	-	-
	1.7	2.1	1.7	4.2	7.2	5.1	12.7	7.2	7.6	6.8	3.4	20.3	7.6	5.5	5.1	1.7	-	-	-
年金として (N=649)	3	2	6	17	44	38	45	66	32	30	24	142	82	56	38	19	4	0	1
	0.5	0.3	0.9	2.6	6.8	5.9	6.9	10.2	4.9	4.6	3.7	21.9	12.6	8.6	5.9	2.9	0.6	0.0	0.2
子供からの 支援(N=54)	2	8	1	10	6	4	8	3	1	1	0	8	2	-	-	-	-	-	-
	3.7	14.8	1.9	18.5	11.1	7.4	14.8	5.6	1.9	1.9	0.0	14.8	3.7	-	-	-	-	-	-
税務署・生 活再建支援 金(N=219)	6	32	5	27	37	18	41	7	2	8	3	19	4	1	0	1	0	1	7
	2.7	14.6	2.3	12.3	16.9	8.2	18.7	3.2	0.9	3.7	1.4	8.7	1.8	0.5	0.0	0.5	0.0	0.5	3.2
保険の解約 や預貯金の 取り崩し (N=303)	3	17	6	35	36	21	54	13	10	14	4	43	15	21	4	4	2	1	-
	1.0	5.6	2.0	11.6	11.9	6.9	17.8	4.3	3.3	4.6	1.3	14.2	5.0	6.9	1.3	1.3	0.7	0.3	-
新規借入金 (N=47)	3	1	1	1	7	3	5	0	0	0	0	11	2	4	0	3	1	0	5
	6.4	2.1	2.1	2.1	14.9	6.4	10.6	0.0	0.0	0.0	0.0	23.4	4.3	8.5	0.0	6.4	2.1	0.0	10.6
その他 (N=81)	1	3	4	6	7	8	4	4	3	3	1	15	8	8	2	0	3	0	1
	1.2	3.7	4.9	7.4	8.6	9.9	4.9	4.9	3.7	3.7	1.2	18.5	9.9	9.9	2.5	0.0	3.7	0.0	1.2

11) 【C-問4】避難前と比較した現在の収入状況

※収入が全くなかったと回答した人の中より【A-6】、【A-8】で選択肢「14.年金」を除いた（年金が主たる収入源である場合、無収入とは言えない）。

調査数	収入がま たなくな った	月額で 2割 3割 くらい減 った	月額で 5割 くらい減 った	月額で 5割 以上減 った	あまり 変わら ない	収入が 増えた	その他	無 回 答
1603	123	263	114	196	560	28	53	266
100.0	7.7	16.4	7.1	12.2	34.9	1.7	3.3	16.6

12) 【C-問4】A-6、A-7 職業×避難前と比較した現在の収入状況

※公務員、年金は、【A-6】選択肢より、自営業者は【A-7】より集計した。

	調査数	収入が ま た な く な った	月額 で 2 割 3 割 くらい 減 った	月額 で 5 割 くら い 減 った	月額 で 5 割 以上 減 った	い ち ろ う に あ ま り 変 わ ら な い	収入 が 増 え た	そ の 他	無 回 答
全 体	1603	123	263	114	196	560	28	53	266
	100	7.7	16.4	7.1	12.2	34.9	1.7	3.3	16.6
全 体（無回答を除く）	1578	121	260	114	194	556	28	53	252
	100	7.7	16.5	7.2	12.3	35.2	1.8	3.4	16
公務員	256	1	41	5	6	186	6	3	8
	100	1.3	24.7	3.9	1.3	58.4	2.6	1.3	6.5
年金	507	0	59	10	17	263	10	24	124
	100	2.3	22	8.3	11.4	50.8	3	1.5	0.8
公務員・年金を除く	815	120	160	99	171	107	12	26	120
	100	14.7	19.6	12.1	21	13.1	1.5	3.2	14.7
自営業	285	46	35	38	98	7	3	9	49
	100	16.1	12.3	13.3	34.4	2.5	1.1	3.2	17.2

13) 【C-問4】 A-1 年代×避難前と比較した現在の収入状況

	調査数	収入が ま た く なく	減 額 で 2 割 く らい	た 月 額 で 5 割 く らい 減	月 額 で 5 割 以上 減	あ ま り 変 わ ら な い	収入 が 増 え た	そ の 他	無 回 答
全体	1603	123	263	114	196	560	28	53	266
	100.0	7.7	16.4	7.1	12.2	34.9	1.7	3.3	16.6
20歳代	77	1	19	3	1	45	2	1	5
	100.0	1.3	24.7	3.9	1.3	58.4	2.6	1.3	6.5
30歳代	132	3	29	11	15	67	4	2	1
	100.0	2.3	22	8.3	11.4	50.8	3	1.5	0.8
40歳代	198	15	51	19	25	67	3	3	15
	100.0	7.6	25.8	9.6	12.6	33.8	1.5	1.5	7.6
50歳代	298	31	72	30	48	88	6	10	13
	100.0	10.4	24.2	10.1	16.1	29.5	2	3.4	4.4
60歳～64歳	137	24	18	14	27	29	3	8	14
	100.0	17.5	13.1	10.2	19.7	21.2	2.2	5.8	10.2
65歳～69歳	221	24	29	16	35	55	2	8	52
	100.0	10.9	13.1	7.2	15.8	24.9	0.9	2.8	29.8
70歳代	352	21	34	18	37	124	3	10	105
	100.0	6	9.7	5.1	10.5	35.2	0.9	2.8	29.8
80歳代	175	4	10	3	7	82	4	11	54
	100.0	2.3	5.7	1.7	4	46.9	2.3	6.3	30.9

14) 【C-問5】 現在の暮らしむきについて

調査数	切り詰められた生活をしていないが非常に苦しい	切り詰められた生活をしていないが苦しい	何とか暮らしている	避難前とほぼ同程度の暮らしである	その他	無回答
1603	228	279	618	351	46	81
100.0	14.2	17.4	38.6	21.9	2.9	5.1

15) 【C-問5】 A-6、A-7 職業×現在の暮らしむきについて

	調査数	切り詰められた生活をしていないが非常に苦しい	切り詰められた生活をしていないが苦しい	何とか暮らしている	避難前とほぼ同程度の暮らしである	その他	無回答
全体	1603	228	279	618	351	46	81
	100.0	14.2	17.4	38.6	21.9	2.9	5.1
全体（無回答除く）	1578	227	277	609	350	46	69
	100.0	14.4	17.6	38.6	22.2	2.9	4.4
公務員	256	5	15	80	144	4	8
	100.0	2.0	5.9	31.3	56.3	1.6	3.1
年金	507	49	65	215	122	24	32
	100.0	9.7	12.8	42.4	24.1	4.7	6.3
公務員を除く	1322	222	262	529	206	42	61
	100.0	16.8	19.8	40.0	15.6	3.2	4.6
年金を除く	1071	178	212	394	228	22	37
	100.0	16.6	19.8	36.8	21.3	2.1	3.5
自営業者	285	69	75	121	7	8	5
	100.0	24.2	26.3	42.5	2.5	2.8	1.8

16) 【C-問5】 C-4 避難前と比較した現在の収入×現在の暮らしむきについて

	調査数	切り詰めた生活をして いるが□非常に苦しい	切り詰めた生活をして いるが□苦しい	切り詰めた生活をして 何とか暮らせている□	避難前とほぼ同程度の暮 らしてある	その他	無回答
全体 (n=1,603世帯)	1603	228	279	618	351	46	81
	100.0	14.2	17.4	38.6	21.9	2.9	5.1
収入がまったく なくなった (n=253)	253	106	59	76	6	3	3
	100.0	41.9	23.3	30.0	2.4	1.2	1.2
月額で5割以上 減った (n=196)	196	42	69	75	4	4	2
	100.0	21.4	35.2	38.3	2.0	2.0	1.0
月額で5割くら い減った (n=114)	114	17	33	59	3	2	—
	100.0	14.9	28.9	51.8	2.6	1.8	0.0
月額で2〜3割 くらい減った (n=263)	263	23	51	159	27	3	—
	100.0	8.7	19.4	60.5	10.3	1.1	0.0
あまり変わらない (n=560)	560	18	39	185	287	20	11
	100.0	3.2	7.0	33.0	51.3	3.6	2.0
収入が増えた (n=28)	28	1	1	6	14	6	—
	100.0	3.6	3.6	21.4	50.0	21.4	0.0
その他 (n=53)	53	7	12	25	5	4	—
	100.0	13.2	22.6	47.2	9.4	7.5	0.0
無回答 (n=136)	136	14	15	33	5	4	65
	100.0	10.3	11.0	24.3	3.7	2.9	47.8

17) 【C-問5】 C-4 避難前と比較した現在の収入×現在の暮らしむきについて
(全%の表)

	調査数	切り詰めた生活をして いるが□非常に苦しい	切り詰めた生活をして いるが□苦しい	切り詰めた生活をして 何とか暮らせている□	避難前とほぼ同程度の暮 らしである	その他	無回答
全体	1603	228	279	618	351	46	81
	100.0	14.2	17.4	38.6	21.9	2.9	5.1
収入がまったく なくなった	253	106	59	76	6	3	3
	15.8	6.6	3.7	4.7	0.4	0.2	0.2
月額で5割以上 減った	196	42	69	75	4	4	2
	12.2	2.6	4.3	4.7	0.2	0.2	0.1
月額で5割くら い減った	114	17	33	59	3	2	0
	7.1	1.1	2.1	3.7	0.2	0.1	0.0
月額で2～3割 くらい減った	263	23	51	159	27	3	0
	16.4	1.4	3.2	9.9	1.7	0.2	0.0
あまり変わらない	560	18	39	185	287	20	11
	34.9	1.1	2.4	11.5	17.9	1.2	0.7
収入が増えた	28	1	1	6	14	6	0
	1.7	0.1	0.1	0.4	0.9	0.4	0.0
その他	53	7	12	25	5	4	0
	3.3	0.4	0.7	1.6	0.3	0.2	0.0
無回答	136	14	15	33	5	4	65
	100.0	10.3	11.0	24.3	3.7	2.9	47.8

18) 【C-問5】 A-1 世帯主年齢×現在の暮らしむきについて

	調査数	が切り詰めた生活をしていない □非常に苦しい	が切り詰めた生活をしていない □苦しい	と切り詰めた生活をしていない □何とか暮らせている	避難前とほぼ同程度の暮らしである	その他	無回答
全 体	1603	228	279	618	351	46	81
	100.0	14.2	17.4	38.6	21.9	2.9	5.1
20歳代	77	10	5	19	37	2	4
	100.0	13.0	6.5	24.7	48.1	2.6	5.2
30歳代	132	15	23	46	44	4	-
	100.0	11.4	17.4	34.8	33.3	3.0	-
40歳代	198	29	31	65	58	5	10
	100.0	14.6	15.7	32.8	29.3	2.5	5.1
50歳代	298	50	64	103	63	5	13
	100.0	16.8	21.5	34.6	21.1	1.7	4.4
60歳代	358	56	64	177	40	9	12
	100.0	15.6	17.9	49.4	11.2	2.5	3.4
70歳代	352	49	68	149	71	4	11
	100.0	13.9	19.3	42.3	20.2	1.1	3.1
80歳以上	175	18	23	57	35	17	25
	100.0	10.3	13.1	32.6	20.0	9.7	14.3

19) 【C-問5】 A-1 世帯主年齢×現在の暮らしむきについて

	調査数	して切り詰めた生活をしていない □非常に苦しい	て切り詰めた生活をしていない □苦しい	いて切り詰めた生活をしていない □何とか暮らせている	の避難前とほぼ同程度の暮らしである	その他	無回答
全 体	1603	228	279	618	351	46	81
	100.0	14.2	17.4	38.6	21.9	2.9	5.1
1 人	434	64	61	144	116	17	32
	100.0	14.7	14.1	33.2	26.7	3.9	7.4
2 人	510	68	108	220	86	11	17
	100.0	13.3	21.2	43.1	16.9	2.2	3.3
3 人	247	44	39	102	45	5	12
	100.0	17.8	15.8	41.3	18.2	2.0	4.9
4 人	202	23	36	73	60	5	5
	100.0	11.4	17.8	36.1	29.7	2.5	2.5
5 人	115	12	20	47	26	4	6
	100.0	10.4	17.4	40.9	22.6	3.5	5.2
6人以上	59	11	13	23	9	3	-
	100.0	18.6	22.0	39.0	15.3	5.1	-

20) 【C-問5】 C-1 1ヶ月あたりの生活費×現在の暮らしむきについて

	調査数	3万円未満	3万円～5万円未満	5万円～10万円未満	10万円～15万円未満	15万円～20万円未満	20万円～25万円未満	25万円～30万円未満	30万円以上	無回答
全体	1603	13	41	218	243	256	201	126	254	251
	(%)	0.8	2.6	13.6	15.2	16	12.5	7.9	15.8	15.7
切り詰めた生活をしているが、非常に苦しい	228	1	6	39	46	44	24	19	16	33
	(%)	0.4	2.6	17.1	20.2	19.3	10.5	8.3	7	14.5
切り詰めた生活をしているが、苦しい	279	1	8	46	46	33	45	20	45	35
	(%)	0.4	2.9	16.5	16.5	11.8	16.1	7.2	16.1	12.5
切り詰めた生活をして、何とか暮らせている	618	4	5	79	97	114	84	53	113	69
	(%)	0.6	0.8	12.8	15.7	18.4	13.6	8.6	18.3	11.2
避難前とほぼ同程度の暮らしである	351	5	10	38	47	57	43	32	71	48
	(%)	1.4	2.8	10.8	13.4	16.2	12.3	9.1	20.2	13.7
その他	46	1	7	11	4	7	3	1	8	4
	(%)	2.2	15.2	23.9	8.7	15.2	6.5	2.2	17.4	8.7

21) 【C-問5】 1人あたりの収入額

(C-3 生活費を得る方法÷A-2 家族数×現在の暮らしむき)

※C-3 の選択肢1～3を定期収入とみなし、家族人数で割る。これを定期収入から家族の1人あたりに割り当てられる収入額（つまり1人が使える1月あたりの生活費となる）とする。これを元に暮らしむき別の平均を算出した。

	<input type="checkbox"/> 非常に苦しい一人あたりの収入	<input type="checkbox"/> 苦しい一人あたりの収入	<input type="checkbox"/> 何とか暮らせている一人あたり	<input type="checkbox"/> 避難前とほぼ同程度の一人あたり
平均金額 (万円)	3.5	5.3	7.4	9.7

22) 【C-問5】 C-10 生活保護×現在の暮らしむき

	調査数	困りに相談している □ <input type="checkbox"/> 早い時期	困つてもりはないが □ <input type="checkbox"/> 相談する	今は相談しないが □ <input type="checkbox"/> 今後は相談したい	今は必要としないし □ <input type="checkbox"/> 今後は相談するつもりは ない	すでに受給している	無回答
全体	1603	57	62	659	438	23	364
	100.0	3.6	3.9	41.1	27.3	1.4	22.7
切り詰めた生活をしているが、 非常に苦しい	228	43	21	114	10	7	33
	100.0	18.9	9.2	50.0	4.4	3.1	14.5
切り詰めた生活をしているが、 苦しい	279	6	13	165	36	4	55
	100.0	2.2	4.7	59.1	12.9	1.4	19.7
切り詰めた生活をして、何とか 暮らせている	618	3	24	269	195	2	125
	100.0	0.5	3.9	43.5	31.6	0.3	20.2
避難前とほぼ同程度の暮らしで ある	351	1	2	81	181	5	81
	100.0	0.3	0.6	23.1	51.6	1.4	23.1
その他	46		2	21	11		12
	100.0	0.0	4.3	45.7	23.9	0.0	26.1

23) 【C-問6】 生計の見通し

調査数	非常に苦しくなりそう だ	少し苦しくなりそう だ	苦しいが□ <input type="checkbox"/> 何とか暮らせ そう	避難前とほぼ同程度の暮 し が で き そ う だ	その他	無回答
1603	384	274	508	281	56	100
100.0	24.0	17.1	31.7	17.5	3.5	6.2

24) 【C-問6】 A-1 世帯主年齢×生計の見通し

	調査数	非常に苦しくなりそう	少し□苦しくなりそう	苦しいが□何とか暮らせそう	避難前とほぼ同程度の暮しができそう	その他	無回答
全 体	1603	384	274	508	281	56	100
	100.0	24.0	17.1	31.7	17.5	3.5	6.2
20歳代	77	11	10	14	32	5	5
	100.0	14.3	13.0	18.2	41.6	6.5	6.5
30歳代	132	30	24	38	34	5	1
	100.0	22.7	18.2	28.8	25.8	3.8	0.8
40歳代	198	51	36	49	42	8	12
	100.0	25.8	18.2	24.7	21.2	4.0	6.1
50歳代	298	88	55	80	49	14	12
	100.0	29.5	18.5	26.8	16.4	4.7	4.0
60歳代	358	95	65	142	28	10	18
	100.0	26.5	18.2	39.7	7.8	2.8	5.0
70歳代	352	78	67	125	59	6	17
	100.0	22.2	19.0	35.5	16.8	1.7	4.8
80歳以上	175	29	16	59	36	8	27
	100.0	16.6	9.1	33.7	20.6	4.6	15.4

25) 【C-問6】 A-6、A-7 避難前の職業×生計の見通し

	非常に苦しくなりそう	少し□苦しくなりそう	苦しいが□何とか暮らせそう	避難前とほぼ同程度の暮しができそう	その他	無回答
全体（無回答除く） (1,578世帯)	382	271	500	281	56	88
	24.2	17.2	31.7	17.8	3.5	5.6
公務員・年金除く (815世帯)	297	160	246	51	30	31
	36.4	19.6	30.2	6.3	3.7	3.8
自営業者 (285世帯)	120	54	92	5	9	5
	42.1	18.9	32.3	1.8	3.2	1.8

26) 【C-問6】 C-4 避難前と比較した現在の収入×生計の見通し

	調査数	収入が全くなくな□た	月額で2□3割くらい減□た	月額で5割くらい減□た	月額で5割以上減□た	あまり変わらない	収入が増えた	その他	無回答
全体 (n=1,603世帯)	1603	253	263	114	196	560	28	53	136
	100.0	15.8	16.4	7.1	12.2	34.9	1.7	3.3	8.5
非常に苦しくなりそうだ (n=384)	384	140	52	45	84	31	2	8	22
	100.0	36.5	13.5	11.7	21.9	8.1	0.5	2.1	5.7
少し苦しくなりそうだ (n=274)	274	46	63	26	43	69	3	15	9
	100.0	16.8	23.0	9.5	15.7	25.2	1.1	5.5	3.3
苦しいが、何とか暮らせそうだ (n=508)	508	55	116	39	64	176	6	18	34
	100.0	10.8	22.8	7.7	12.6	34.6	1.2	3.5	6.7
避難前とほぼ同程度の暮らしができそうだ (n=281)	281	4	17	2	2	238	13	3	2
	100.0	1.4	6.0	0.7	0.7	84.7	4.6	1.1	0.7
その他 (n=100)	100	6	2	0	1	22	0	2	67
	100.0	6.0	2.0	0.0	1.0	22.0	0.0	2.0	67.0

27) 【C-問6】 D-1 借入金の有無×生計の見通し

	調査数	非常に苦しくなりそうだ	少し□苦しくなりそうだ	苦しいが□何とか暮らせそうだ	避難前とほぼ同程度の暮らしができそうだ	その他	無回答
全 体	1603	384	274	508	281	56	100
	100.0	24.0	17.1	31.7	17.5	3.5	6.2
あ る	431	176	84	102	45	17	7
	100.0	40.8	19.5	23.7	10.4	3.9	1.6
な い	920	157	156	334	206	32	35
	100.0	17.1	17.0	36.3	22.4	3.5	3.8

28) 【C-問7】 経済面で今の状態を続けられる期間

調査数	1年未満	1年ぐらい	2年ぐらい	3年ぐらい	4年以上	無回答
1603	390	379	222	101	285	226
100.0	24.3	23.6	13.8	6.3	17.8	14.1

29) 【C-問7】 A-1 世帯主年齢×経済面で今の状態を続けられる期間

	調査数	1年未満	1年ぐらい	2年ぐらい	3年ぐらい	4年以上	無回答
全体	1603	390	379	222	101	285	226
	100.0	24.3	23.6	13.8	6.3	17.8	14.1
20歳代	77	15	19	5	1	28	9
	100.0	19.5	24.7	6.5	1.3	36.4	11.7
30歳代	132	33	22	20	6	41	10
	100.0	25.0	16.7	15.2	4.5	31.1	7.6
40歳代	198	48	41	22	9	58	20
	100.0	24.2	20.7	11.1	4.5	29.3	10.1
50歳代	298	87	63	47	21	44	36
	100.0	25.7	28.5	14.8	6.4	10.6	14.0
60歳代	358	92	102	53	23	38	50
	100.0	22.6	28.5	16.1	7.3	12.4	13.1
70歳代	352	80	93	50	25	52	52
	100.0	22.7	26.4	14.2	7.1	14.8	14.8
80歳以上	175	32	38	25	16	24	40
	100.0	18.3	21.7	14.3	9.1	13.7	22.9

30) 【C-問7】 A-6, A-7 職業避難前の職業×経済面で今の状態を続けられる期間

	調査数	1年未満	1年ぐらい	2年ぐらい	3年ぐらい	4年以上	無回答
全体	1603	390	379	222	101	285	226
	100.0	24.3	23.6	13.8	6.3	17.8	14.1
全体（無回答除く）	1578	387	374	221	101	285	210
	100.0	24.5	23.7	14.0	6.4	18.1	13.3
公務員	256	16	33	31	12	131	33
	100.0	6.3	12.9	12.1	4.7	51.2	12.9
年金	507	98	108	71	39	89	102
	100.0	19.3	21.3	14.0	7.7	17.6	20.1
公務員を除く	1322	371	341	190	89	154	177
	100.0	28.1	25.8	14.4	6.7	11.6	13.4
年金を除く	1071	289	266	150	62	196	108
	100.0	27.0	24.8	14.0	5.8	18.3	10.1
公務員・年金を除く	815	273	233	119	50	65	75
	100	33.5	28.6	14.6	6.1	8	9.2
自営業者	285	104	89	36	20	14	22
	100.0	36.5	31.2	12.6	7.0	4.9	7.7

31) 【C-問7】 D-1 避難前の借入金の有無×経済面で今の状態を続けられる期間

	調査数	1年未満	1年ぐらい	2年ぐらい	3年ぐらい	4年以上	無回答
全体	1603	390	379	222	101	285	226
	100.0	24.3	23.6	13.8	6.3	17.8	14.1
ある	431	152	111	57	22	57	32
	100.0	35.3	25.8	13.2	5.1	13.2	7.4
ない	920	172	209	146	67	214	112
	100.0	18.7	22.7	15.9	7.3	23.3	12.2

32) 【C-問8】 毎月の不足額

調査数	不足している	不足額は少ない	無回答
1603	556	592	455
100.0	34.7	36.9	28.4

33) 【C-問8-1】 毎月の不足額の分布

調査数	2万円未満	2万円～3万円未満	3万円～5万円未満	5万円～7万円未満	7万円～10万円未満	10万円～13万円未満	13万円～15万円未満	15万円～18万円未満	18万円～20万円未満	20万円～25万円未満	25万円～30万円未満	30万円～35万円未満	35万円～40万円未満	40万円～50万円未満	50万円～60万円未満
544	9	32	93	147	49	115	8	41	3	32	5	7	0	2	1
100.0	1.7	5.9	17.1	27.0	9.0	21.1	1.5	7.5	0.6	5.9	0.9	1.3	0.0	0.4	0.2

34) 【C-問8-1】 C-4 暮らしむき×毎月の不足額の分布

	2万円未満	2万円～3万円未満	3万円～4万円未満	4万円～5万円未満	5万円～6万円未満	6万円～7万円未満	7万円～8万円未満	8万円～9万円未満	9万円～10万円未満	10万円以上	無回答
全体(1,603世帯)	9	32	71	22	131	16	25	21	3	214	1059
	0.6	2.0	4.4	1.4	8.2	1.0	1.6	1.3	0.2	13.3	66.1
切り詰めた生活をしているが、非常に苦しい(228世帯)		6	12	5	31	6	9	10	1	78	70
	0.0	2.6	5.3	2.2	13.6	2.6	3.9	4.4	0.4	34.2	30.7
切り詰めた生活をしているが、苦しい(279世帯)	2	9	22	7	39	7	6	8	2	61	116
	0.7	3.2	7.9	2.5	14.0	2.5	2.2	2.9	0.7	21.9	41.6
切り詰めた生活をして何とか暮らせている(618世帯)	6	16	33	9	56	2	10	2		59	425
	1.0	2.6	5.3	1.5	9.1	0.3	1.6	0.3	0.0	9.5	68.8
避難前とほぼ同程度の暮らしである(351世帯)	1		4		4	1				6	335
	0.3	0.0	1.1	0.0	1.1	0.3	0.0	0.0	0.0	1.7	95.4
その他(46世帯)		1		1	1			1		7	35
	0.0	2.2	0.0	2.2	2.2	0.0	0.0	2.2	0.0	15.2	76.1

35) 【C-問 9】 不足額が得られた場合可能な避難生活継続期間

調査数	1年未満	1年ぐらい	2年ぐらい	3年ぐらい	4年以上	無回答
556	118	151	121	50	85	31
%	21.2	27.2	21.8	9.0	15.3	5.6

36) 【C-問 10】 生活保護制度について

調査数	困窮時期に相談したい□早い	困窮時期に相談したい□早い	困窮時期に相談したい□早い	困窮時期に相談したい□早い	困窮時期に相談したい□早い	困窮時期に相談したい□早い	無回答
1603	57	62	659	438	23	364	
%	3.6	3.9	41.1	27.3	1.4	22.7	

37) 【C-問 11】 行政が取り組むべき支援策

調査数	就労に対する支援	事業に対する支援	子供の教育費に対する支援	健康保険や年金などの保険料免除の支援	電気ガスなどの基本料免除の支援	住宅ローンの利子補給	税の免除	医療費への補助	不足する生活費に対する直接支援	その他	無回答
1603	576	212	243	445	345	135	366	464	576	36	262
%	35.9	13.2	15.2	27.8	21.5	8.4	22.8	28.9	35.9	2.2	16.3

38) 【C-問 11】 居住地区×行政が取り組むべき支援策

	調査数	就労に対する支援	事業に対する支援	子供の教育費に対する支援	健康保険料や年金などの免除の支援	電気料金などの基本料金の免除の支援	住宅ローンの利子補給	税の免除	医療費への補助	不足する直接生活費に対する支援	その他	無回答
全体	1603	576	212	243	445	345	135	366	464	576	36	262
	100.0%	35.9%	13.2%	15.2%	27.8%	21.5%	8.4%	22.8%	28.9%	35.9%	2.2%	16.3%
20歳代	77	35	22	15	17	11	9	13	17	24	1	9
	100.0%	45.5%	28.6%	19.5%	22.1%	14.3%	11.7%	16.9%	22.1%	31.2%	1.3%	11.7%
30歳代	132	49	19	39	28	24	24	40	31	46	2	17
	100.0%	37.1%	14.4%	29.5%	21.2%	18.2%	18.2%	30.3%	23.5%	34.8%	1.5%	12.9%
40歳代	198	85	39	61	48	34	34	41	38	81	5	18
	100.0%	42.9%	19.7%	30.8%	24.2%	17.2%	17.2%	20.7%	19.2%	40.9%	2.5%	9.1%
50歳代	298	143	50	46	83	55	37	67	55	110	7	40
	100.0%	48.0%	16.8%	15.4%	27.9%	18.5%	12.4%	22.5%	18.5%	36.9%	2.3%	13.4%
60歳代	358	134	40	33	103	90	15	79	134	133	11	52
	100.0%	37.4%	11.2%	9.2%	28.8%	25.1%	4.2%	22.1%	37.4%	37.2%	3.1%	14.5%
70歳代	352	95	30	37	116	92	12	93	119	125	6	66
	100.0%	27.0%	8.5%	10.5%	33.0%	26.1%	3.4%	26.4%	33.8%	35.5%	1.7%	18.8%
80歳以上	175	33	12	11	50	38	3	30	67	53	3	53
	100.0%	18.9%	6.9%	6.3%	28.6%	21.7%	1.7%	17.1%	38.3%	30.3%	1.7%	30.3%
無回答	13	2		1		1	1	3	3	4	1	7
	100.0%	15.4%	0.0%	7.7%	0.0%	7.7%	7.7%	23.1%	23.1%	30.8%	7.7%	53.8%

(D) 借入金について【報告書(3) 借入金の実態】

1) 【D-問1】 避難前の借り入れ金の有無(単一回答)

調査数	あ る	な い	無 回 答
1603	431	920	252
%	26.9	57.4	15.7

2) 【D-問1】 A-6 避難前の主な職業×避難前の借り入れ金の有無

	調 査 数	あ る	な い	無 回 答
全 体	1603	431	920	252
	100.0	26.9	57.4	15.7
全体(無回答除く)	1578	429	911	238
	100.0	27.2	57.7	15.1
公務員	256	83	154	19
	100.0	32.4	60.2	7.4
年金	507	39	350	118
	100.0	7.7	69.0	23.3
公務員を除く	1322	346	757	219
	100.0	26.2	57.3	16.6
年金を除く	1071	390	561	120
	100.0	36.4	52.4	11.2
自営業者	285	141	113	31
	100.0	49.5	39.6	10.9

3) 【D-問1】 職業別借入金残額の分布

	全 体	5 0 万 円 未 満	5 万 円 未 満 1 0 0 万 円	1 0 0 万 円 未 満 2 0 0 万 円	2 0 0 万 円 未 満 3 0 0 万 円	3 0 0 万 円 未 満 4 0 0 万 円	4 0 0 万 円 未 満 5 0 0 万 円	5 0 0 万 円 未 満 1 0 0 0 万 円	1 0 0 0 万 円 以 上
全体 (第2回・325世帯)	325	30	14	43	24	21	26	50	117
	100.0	9.2	4.3	13.2	7.4	6.5	8.0	15.4	36.0
公務員・年金を除く (第2回・233世帯)	233	18	7	30	17	16	22	38	85
	100.0	7.7	3.0	12.9	7.3	6.9	9.4	16.3	36.5
自営業者のみ (第2回・106世帯)	106	7	2	13	5	6	10	18	45
	100.0	6.6	1.9	12.3	4.7	5.7	9.4	17.0	42.5

4) 【D-問 2-a】 借入金残額、平均金額

(単位：円)

	調 査 数	平 均
1 住宅資金	182 42.2	10,977,250
2 車のローン	55 12.8	1,041,600
3 事業のための借り入れ	109 25.3	16,261,334
4 その他	80 18.6	2,791,290
5 計算上の借入金の残高合計	325 75.4	12,363,355

5) 【D-問 2-b】 現在の返済方法 (単一回答)

① 住宅資金

調 査 数	元金も利息も自分で返して いる	利息だけ自分で返している	元金も利息も返していない	その他	無 回 答
431	160	22	28	9	212
%	37.1	5.1	6.5	2.1	49.2

② 車のローン

調 査 数	元金も利息も自分で返して いる	利息だけ自分で返している	元金も利息も返していない	その他	無 回 答
431	52	2	15	2	360
%	12.1	0.5	3.5	0.5	83.5

③ 事業のための借り入れ

調 査 数	元金も利息も自分で返して いる	利子補給を受け \square 元金だけ 自分で返している	利息だけ自分で返している	利子補給を受け利息だけ返 している	元金も利息も返していない	その他	無 回 答
431	43	8	11	28	29	13	299
%	10	1.9	2.6	6.5	6.7	3	69.4

④ その他

調 査 数	元金も利息も自分で返して いる	利息だけ自分で返している	元金も利息も返していない	その他	無 回 答
431	58	8	16	8	341
%	13.5	1.9	3.7	1.9	79.1

(E) 就労について【報告書(2)-4) 就労の実態】

1) 【E-問1】 現在の就労状況

	調査数	いない	1人	2人	3人	4人	その他 無回答
全体 (第1回1285世帯)	1285	459	468				358
	100.0	35.7	36.4				27.9
全体 (第2回1603世帯)	1603	484	543	234	34	9	299
	100.0	30.2	33.9	14.6	2.1	0.6	18.7

【E-問1】 現在の就労状況(年代別)

	0人	1人	2人	3人	4人	5人	無回答	総計
全体	484	543	234	34	7	2	299	1603
	30.2	33.9	14.6	2.1	0.4	0.1	18.7	100.0
20歳代	1	61	7	1	1	0	6	77
	1.3	79.2	9.1	1.3	1.3	0.0	7.8	100.0
30歳代	5	95	19	1	0	0	12	132
	3.8	72.0	14.4	0.8	0.0	0.0	9.1	100.0
40歳代	17	105	57	2	2	1	14	198
	8.6	53.0	28.8	1.0	1.0	0.5	7.1	100.0
50歳代	30	127	81	22	3	1	34	298
	10.1	42.6	27.2	7.4	1.0	0.3	11.4	100.0
60歳代	131	100	40	3	1	0	83	358
	36.6	27.9	11.2	0.8	0.3	0.0	23.2	100.0
70歳代	193	42	25	4	0	0	88	352
	54.8	11.9	7.1	1.1	0.0	0.0	25.0	100.0
80歳以上	105	11	4	1	0	0	54	175
	60.0	6.3	2.3	0.6	0.0	0.0	30.9	100.0
無回答	2	2	1	0	0	0	8	13
	15.4	15.4	7.7	0.0	0.0	0.0	61.5	100.0

2) 【E-問 2】 求職希望者

	調査数	いない	1人	2人	3人	4人	その他 無回答
全体 (第1回1285世帯)	1285	576	276	102	10	3	318
	100.0	44.8	21.5	7.9	0.8	0.2	24.7
全体 (第2回1603世帯)	1603	784	287	63	4	1	464
	100.0	48.9	17.9	3.9	0.2	0.1	28.9

【E-問 2】 求職希望者（年代別）

	0人	1人	2人	3人	4人	無回答	総計
全体	784	287	63	4	1	464	1603
	48.9	17.9	3.9	0.2	0.1	28.9	100.0
20歳代	60	7	1	0	0	9	77
	77.9	9.1	1.3	0.0	0.0	11.7	100.0
30歳代	89	31	2	0	1	9	132
	67.4	23.5	1.5	0.0	0.8	6.8	100.0
40歳代	113	47	10	0	0	28	198
	57.1	23.7	5.1	0.0	0.0	14.1	100.0
50歳代	135	84	15	3	0	61	298
	45.3	28.2	5.0	1.0	0.0	20.5	100.0
60歳代	151	64	21	1	0	121	358
	42.2	17.9	5.9	0.3	0.0	33.8	100.0
70歳代	157	40	11	0	0	144	352
	44.6	11.4	3.1	0.0	0.0	40.9	100.0
80歳以上	76	13	3	0	0	83	175
	43.4	7.4	1.7	0.0	0.0	47.4	100.0
無回答	3	1	0	0	0	9	13
	23.1	7.7	0.0	0.0	0.0	69.2	100.0

(F) 住宅について【報告書 (4) 住宅の実態】

1) 【F-問 1】 現在の居住形態 (複数回答)

	調査数	公営住宅	民間賃貸住宅	□親・兄弟の家 注1 □兄弟の家	知人宅	子供の家	社宅 □注2 □	□老人ホーム 注2 □ム	その他	無回答
全体 (第1回調査)	1,285	833	65	35	13	89			102	148
	100%	64.8%	5.1%	2.7%	1.0%	6.9%			7.9%	11.5%
全体 (第2回調査)	1,603	1,055	94	81	14	116	76	55	121	106
	100%	65.8%	5.9%	5.1%	0.9%	7.2%	4.7%	3.4%	7.5%	6.6%

(注1) 第1回調査では「親・兄弟の家」の項目は、「親の家」となっていた。

(注2) 第2回調査では「社宅」と「老人ホーム」はなかった。

2) 【F-問 2】 避難している住宅の満足度 (単一回答)

	調査数	今の住宅で満足しているほぼ	ない替えはある希望・し	ない替えがある希望・し	はみ無替が 無回えに □つ注い・ □て住	無回答
全体 (第1回調査)	1,285	806	154	84	—	241
	100%	62.7%	12.0%	6.5%		18.8%
全体 (第2回調査)	1,603	1,154	90	139	20	200
	100%	72.0%	5.6%	8.7%	1.2%	12.5%

(注) 第1回調査では「不満であるが住み替えについて無回答」の項目はなかった。

3) 【F-問 1】 F-問 2 住宅の満足度×現在の居住形態

	全体	現在の住宅で満足	不満がある	無回答
全体	1603	1154	249	200
	100.0	72.0	15.5	12.5
公営住宅	1055	858	146	51
	65.8	53.5	9.1	3.2
民間賃貸住宅	94	51	31	12
	5.8	3.2	1.9	0.7
親・兄弟の家	81	56	16	9
	5.1	3.5	1	0.6
知人宅	14	8	3	3
	0.8	0.4	0.2	0.2
子供の家	116	61	22	33
	7.3	3.8	1.4	2.1
社宅	76	50	20	6
	4.7	3.1	1.2	0.4
老人ホーム	55	30	6	19
	3.5	1.9	0.4	1.2
その他	121	75	25	21
	7.6	4.7	1.6	1.3

4) 【F-問 3】 住宅の住み替え意向（単一回答）

調査数	希望する	希望しない	無回答
249	139	90	20
%	55.8	36.1	8.0

5) 【F-問 4】 東京都内への居留意向（単一回答）

調査数	希望する	希望しない
247	41	206
%	2.6	12.9

6) 【F-問 5】 島民の住まいの集約化について（単一回答）

調査数	しま都 て□内 欲ての し生数 い活カ で所 きるの る地 よ域 うに に集	必要 はない	分 から ない	無 回 答
1603	500	340	564	199
%	31.2	21.2	35.2	12.4

(G) 砂防、防災対策について【報告書(5) 砂防施設、防災対策について】

1) 【G-問1】 砂防施設の果たす役割認知度 (単一回答)

調査数	良く知□ている	少し知□ている	知らない	無回答
1603	492	716	324	71
%	30.7	44.7	20.2	4.4

2) 【G-問1】 A-4 島での居住地区×砂防施設の果たす役割認知度

	調査数	良く知□ている	少し知□ている	知らない	無回答
全体	1603	492	716	324	71
	100	30.7	44.7	20.2	4.4
神着	280	84	149	41	6
	99.9	30	53.2	14.6	2.1
伊豆	227	98	92	25	12
	100	43.2	40.5	11	5.3
伊ヶ谷	118	30	46	39	3
	100	25.4	39	33.1	2.5
阿古	499	155	187	129	28
	100.1	31.1	37.5	25.9	5.6
坪田	473	123	241	88	21
	100	26	51	18.6	4.4

3) 【G-問1】 A-1 年代別×砂防施設の果たす役割認知度

	調査数	良く知□ている	少し知□ている	知らない	無回答
全体	1603	492	716	324	71
	100	30.7	44.7	20.2	4.4
20歳代	77	14	45	17	1
	100.0	18.2	58.4	22.1	1.3
30歳代	132	62	66	24	0
	100.0	31.8	50	18.2	0
40歳代	198	67	105	20	6
	100.0	33.8	53	10.1	3
50歳代	298	107	142	40	9
	100.0	35.9	47.7	13.4	3
60歳代	358	140	147	57	14
	100.0	39.1	41.1	15.9	3.9
70歳代	352	93	157	85	17
	100.0	26.4	44.6	24.1	4.8
80歳代	175	25	52	78	20
	100.0	14.3	29.7	44.6	11.4

4) 【G-問 2】 災害避難前より砂防施設があったことの認知度（単一回答）

調査数	実際に見たことがある	見たことは知 [○] っているが [○] あ [○] ることは知 [○] らない	知らな [○] か [○] た	無回答
1603	623	455	453	72
%	38.9	28.4	28.3	4.5

5) 【G-問 1】 A-4 島での居住地区×災害避難前より砂防施設があったことの認知度

	調査数	良く知 [○] っている	少し知 [○] っている	知らない	無回答
全体	1603	623	455	453	72
	100	38.9	28.4	28.3	4.5
神着	280	122	81	71	6
	100	43.6	28.9	25.4	2.1
伊豆	227	119	60	34	14
	100	52.4	26.4	15	6.2
伊ヶ谷	118	29	40	45	4
	100	24.6	33.9	38.1	3.4
阿古	499	171	125	178	25
	100.1	34.3	25.1	35.7	5
坪田	473	179	148	123	23
	100	37.8	31.3	26	4.9

6) 【G-問 1】 A-1 年代別×砂防施設の果たす役割認知度

	調査数	良く知 [○] っている	少し知 [○] っている	知らない	無回答
全体	1603	623	455	453	72
	100.0	38.9	28.4	28.3	4.5
20歳代	77	18	25	33	1
	100.1	23.4	32.5	42.9	1.3
30歳代	132	60	29	43	0
	100.0	45.5	22	32.6	0
40歳代	198	107	42	44	6
	100.0	54	21.2	22.2	2.5
50歳代	298	135	86	66	9
	100.0	45.3	28.9	22.1	3.7
60歳代	358	160	113	68	14
	100.0	44.7	31.6	19	4.7
70歳代	352	112	117	110	17
	100.0	31.8	33.2	31.3	3.7
80歳代	175	26	41	86	20
	100.0	14.9	23.4	49.1	12.6

7) 【G-問 3】 砂防事業に伴う土地の買い上げに対する意向（単一回答）

調査数	全面的に協力する	自宅の土地以外は協力する	代替地があれば協力する	買い上げには応じられない	□土地を所有していない □借地も含む	わからない	その他	無回答
1603	557	218	120	5	353	155	35	160
%	34.7	13.6	7.5	0.3	22	9.7	2.2	10

8) 【G-問 3】 砂防事業に伴う土地の買い上げに対する意向
（土地を所有していない人を除く）

調査数	全面的に協力する	自宅の土地以外は協力する	代替地があれば協力する	買い上げには応じられない	わからない	その他	無回答
1250	557	218	120	5	155	35	160
%	44.6	17.4	9.6	0.4	12.4	2.8	12.8

9) 【G-問 4】 今後の砂防事業の進め方（単一回答）

調査数	優先的に進めるべき	人々の多岐な場所等での整備を進めるべき	並行的に整備を進めるべき	島全体をまんべんなく同時に	わからない	無回答
1603	1088	191	201	123		
%	67.9	11.9	12.5	7.7		

10) 【G-問 4】 A-4 居住地区×今後の砂防事業の進め方

	調 査 数	進優人 め先の るし多 べき位 を場 を決所 めて等 の整 備流 をを	で並島 ある行全 る的に体 に整ま 備をん を進べ めなく るべ同 き時	わ か ら な い	無 回 答
全 体	1603	1088	191	201	123
	100.0	67.9	11.9	12.5	7.7
神 着	280	178	52	32	18
	100.0	63.6	18.6	11.4	6.4
伊 豆	227	165	25	23	14
	100.0	72.7	11.0	10.1	6.2
伊ヶ谷	118	81	13	16	8
	100.0	68.6	11.0	13.6	6.8
阿 古	499	323	44	84	48
	100.0	64.7	8.8	16.8	9.6
坪 田	473	336	57	46	34
	100.0	71.0	12.1	9.7	7.2

11) 【G-問 5】 泥流被害に対する考え方（単一回答）

調 査 数	ば自 分の 安全 な地 区へ 移転 した ら い	転一近 した緒 の い の 人 安 全 な 地 区 へ 移 転 す る な ら い	て施住 ほ設み しを続 い い 整 備 し て の 安 全 を 確 保 し 防	わ か ら な い	無 回 答
1603	539	196	504	218	146
%	33.6	12.2	31.4	13.6	9.1

12) 【G-問5】 A-4 避難前の居住地区×今後の砂防事業の進め方（単一回答）

	調 査 数	ば自 口分の 安全な 家が 危険な 地区へ 移転し たい	転一近 し緒所 たいに い口人 安全な 地区へ 移転す るなら は	て施住 ほ設み しを続 けを整 備した いので 安全を 確保し 砂防	わ か ら な い	無 回 答
全 体	1603	539	196	504	218	146
	100.0	33.6	12.2	31.4	13.6	9.1
神 着	280	84	18	117	40	21
	100.0	30.0	6.4	41.8	14.3	7.5
伊 豆	227	77	29	65	30	26
	100.0	33.9	12.8	28.6	13.2	11.5
伊ヶ谷	118	48	15	34	10	11
	100.0	40.7	12.7	28.8	8.5	9.3
阿 古	499	162	73	133	78	53
	100.0	32.5	14.6	26.7	15.6	10.6
坪 田	473	165	59	154	60	35
	100.0	34.9	12.5	32.6	12.7	7.4

13) 【G-問5】 B-1 自宅の被害状況×泥流被害に対する考え方

※自宅の泥流被害の状況と考え方を調べるため、B-1 選択肢1～6に1つでも○がついた方を泥流被害があった人として抽出した。

	調査数	地区へ移転した危険であるならば <input type="checkbox"/> 安全な	近所の人たちが移転するならば一緒に <input type="checkbox"/> 安全な地区へ集団移転したい	住み続けたいので早期に砂防施設を整 備して安全を確保してほしい	わからない	無回答
全体	1603	539	196	504	218	146
	100.0	33.6	12.2	31.4	13.6	9.1
泥流被害あり	186	58	19	78	16	15
	100.0	31.2	10.2	41.9	8.6	8.1
泥流で、補修できないほど家が壊れていた	15	4	1	7	2	1
	100.0	26.7	6.7	46.7	13.3	6.7
床下に泥流が堆積していた	42	12	3	20	3	4
	100.0	28.6	7.1	47.6	7.1	9.5
泥流は畳や床の上まで堆積していた	20	5	1	12	1	1
	100.0	25.0	5.0	60.0	5.0	5.0
家の中に大きな石や流木が流れ込んでいた	3	2	-	1	-	-
	100.0	66.7	-	33.3	-	-
敷地内に泥流がたい積していた	160	48	17	69	13	13
	100.0	30.0	10.6	43.1	8.1	8.1
敷地内に大きな石や流木が流れ込んでいた	23	13	2	8	-	-
	100.0	56.5	8.7	34.8	-	-

14) 【G-問5】 B-2 被害程度×泥流被害に対する考え方

	調査数	自分安全な地区へ移転するならば <input type="checkbox"/> 安全な地区へ移転したい	近所の人たちが移転するならば一緒に <input type="checkbox"/> 安全な地区へ集団移転したい	住み続けたいので早期に砂防施設を整 備して安全を確保してほしい	わからない	無回答
全体	1357	479	172	449	161	96
	100.0	35.3	12.7	33.1	11.9	7.1
補修だけではとても住むことができない被害だ	59	20	7	22	6	4
	100.0	33.9	11.9	37.3	10.2	6.8
補修すれば住むことができる程度の被害である	701	248	97	244	73	39
	100.0	35.4	13.8	34.8	10.4	5.6
補修するほどの被害ではない	431	161	51	126	63	30
	100.0	37.4	11.8	29.2	14.6	7.0
その他	70	21	6	28	10	5
	100.0	30.0	8.6	40.0	14.3	7.1

15) 【G-問5】 G-1 砂防施設の果たす役割の認知度×泥流被害に対する考え方

	調査数	ば <input type="checkbox"/> 自分の家が危険な地区へ移転したい	転 <input type="checkbox"/> 近所の人が安全な地区へ移転するならば一緒に安全な地区へ集団移	て <input type="checkbox"/> 住み続けたいので早期に砂防 施しを準備して安全を確保し	わから ない	無 回 答
全 体	1603	539	196	504	218	146
	100.0	33.6	12.2	31.4	13.6	9.1
良く知っている	492	197	54	168	41	32
	100.0	40.0	11.0	34.1	8.3	6.5
少し知っている	716	260	96	228	93	39
	100.0	36.3	13.4	31.8	13.0	5.4
知らない	324	78	37	94	81	34
	100.0	24.1	11.4	29.0	25.0	10.5

16) 【G-問5】 G-2 避難前より砂防施設があったことの認知度×泥流被害に対する考え方

	調査数	全 自 分 の 地 区 へ 移 転 し た い ら ば <input type="checkbox"/> 安	に <input type="checkbox"/> 近 所 の 人 が 安 全 な 地 区 へ 移 転 す る な ら ば 一 緒	を 住 み 続 け た い の で 早 期 に 砂 防 施 し を 確 保 し て ほ	わ か ら な い	無 回 答
全 体	1603	539	196	504	218	146
	100.0	33.6	12.2	31.4	13.6	9.1
実際に見たことがある	623	252	75	208	55	33
	100.0	40.4	12.0	33.4	8.8	5.3
見たことはないが、あることは知っている	455	149	71	147	52	36
	100.0	32.7	15.6	32.3	11.4	7.9
知らなかった	453	132	42	134	106	39
	100.0	29.1	9.3	29.6	23.4	8.6

17) 【G-問6】 砂防施設への配慮希望（複数回答）

調査数	ほ し い	で き る だ け 集 落 の コ ミ ニ テ	に し て ほ し い	で き る だ け 自 宅 が 残 る よ う	て く り し 泥 か り 流 被 害 を 最 小 限 に し て	に し て ほ し い	で き る だ け 自 然 を 残 す よ う	て ほ し い	で き る だ け 景 観 に 気 を つ け	そ の 他	無 回 答
1603	632	445	811	541	269	35	193				
%	39.4	27.8	50.6	33.7	16.8	2.2	12.0				

18) 【G-問6】 A-1 世帯主年齢×砂防施設への配慮希望

	調査数	ほ し い	で き る だ け 集 落 の コ ミ ニ テ	に し て ほ し い	で き る だ け 自 宅 が 残 る よ う	て く り し 泥 か り 流 被 害 を 最 小 限 に し て	に し て ほ し い	で き る だ け 自 然 を 残 す よ う	て ほ し い	で き る だ け 景 観 に 気 を つ け	そ の 他	無 回 答
全 体	1603	632	445	811	541	269	35	193				
	100.0	39.4	27.8	50.6	33.7	16.8	2.2	12.0				
20歳代	77	26	16	32	44	20	2	6				
	100.0	33.8	20.8	41.6	57.1	26.0	2.6	7.8				
30歳代	132	47	19	71	58	35	7	4				
	100.0	35.6	14.4	53.8	43.9	26.5	5.3	3.0				
40歳代	198	61	33	110	70	35	5	24				
	100.0	30.8	16.7	55.6	35.4	17.7	2.5	12.1				
50歳代	298	110	64	172	100	47	5	28				
	100.0	36.9	21.5	57.7	33.6	15.8	1.7	9.4				
60歳代	358	160	117	189	110	66	-	46				
	100.0	44.7	32.7	52.8	30.7	18.4	-	12.8				
70歳代	352	166	135	170	102	41	8	42				
	100.0	47.2	38.4	48.3	29.0	11.6	2.3	11.9				
80歳以上	175	60	58	64	54	25	5	38				
	100.0	34.3	33.1	36.6	30.9	14.3	2.9	21.7				

19) 【G-問6】 A-4 避難前の居住地区×砂防施設への配慮希望

	調査数	できるだけ集落のコミニティを壊さないようにしてほしい	できるだけ自宅が残るようにしてほしい	被害を最小限にしてほしい	できるだけ自然を残すようにしてほしい	できるだけ景観に気をつけてほしい	その他	無回答
全体	1603	632	445	811	541	269	35	193
	100.0	39.4	27.8	50.6	33.7	16.8	2.2	12.0
神着	280	116	83	133	99	71	6	29
	100.0	41.4	29.6	47.5	35.4	25.4	2.1	10.4
伊豆	227	85	57	118	75	32	5	31
	100.0	37.4	25.1	52.0	33.0	14.1	2.2	13.7
伊ヶ谷	118	55	32	60	32	14	4	17
	100.0	46.6	27.1	50.8	27.1	11.9	3.4	14.4
阿古	499	189	128	246	171	84	14	70
	100.0	37.9	25.7	49.3	34.3	16.8	2.8	14.0
坪田	473	182	142	251	161	68	5	46
	100.0	38.5	30.0	53.1	34.0	14.4	1.1	9.7

20) 【G-問7】 避難時に必要な情報（複数回答）

調査数	役所等からの避難勧告や自主避難の呼び掛け	現在の雨量や予測雨量	気象台の発表する大雨注意報・警報	泥流発生の情報	周辺地域□近所□の避難状況や災害状況	避難場所や避難路などの情報	その他	無回答
1603	1255	212	321	828	488	820	25	131
%	78.3	13.2	20.0	51.7	30.4	51.2	1.6	8.2

21) 【G-問7】 A-1 世帯主年齢×避難時に必要な情報

	避難所等からの呼び掛け	現在の雨量や予測雨量	気象台の発表する大雨注意報・警報	泥流発生の情報	周辺地域□近所□の避難状況や災害状況	避難場所や避難路などの情報	その他	無回答
全体 (1603世帯)	1255 78.3	212 13.2	321 20	828 51.7	488 30.4	820 51.2	25 1.6	131 8.2
20歳代 (22世帯)	60 77.9	16 20.8	8 10.4	44 57.1	29 37.7	30 39	2 2.6	4 5.2
30歳代 (132世帯)	106 80.3	25 18.9	15 11.4	84 63.6	49 37.1	62 47	4 3	2 1.5
40歳代 (198世帯)	144 72.7	35 17.7	25 12.6	113 57.1	72 36.4	98 49.5	5 2.5	14 7.1
50歳代 (298世帯)	233 78.2	48 16.1	55 18.5	171 57.4	86 28.9	150 50.3	- -	26 8.7
60歳代 (358世帯)	294 82.1	32 8.9	98 27.4	177 49.4	104 29.1	197 55	- -	28 7.8
70歳代 (352世帯)	289 82.1	45 12.8	80 22.7	166 47.2	102 29	187 53.1	7 2	26 7.4
80歳以上 (175世帯)	124 70.9	9 5.1	36 20.6	70 40	44 25.1	90 51.4	4 2.3	27 15.4

(H) 復興について【報告書 (6) 復興についての意向】

1) 【H-問1】 帰島時の不安 (複数回答)

調査数	大雨の時 泥流が出る こと	宅地や農地 などの土砂の 除去を しなければ ならない こと	住宅の被害 が大きくなり 建物 の補修を しなければ ならない こと	新しい家財 道具 電気製品 自動車 を購入 しなければ ならない こと	事業の再建 資金を 調達しな ければ ならない こと	災害前借入 金の返済 をしな ければ ならない こと	一時猶予さ れている 税金など の支払い をしな ければ ならない こと	帰島後に 職がない こと	収穫や売上 等がな かた 時の 当面の 生活費 が思う よう になら ない こと	その他	特に心配 している ことは ない	無 回 答
1603	700	501	713	927	126	137	227	129	147	69	26	151
%	43.7	31.3	44.5	57.8	7.9	8.5	14.2	8.0	9.2	4.3	1.6	9.4

2) 【H-問1】 A-1 年代別×帰島時の不安

	大雨の時 泥流が出る こと	宅地や農地 などの土砂の 除去を しなければ ならない こと	住宅の被害 が大きくなり 建物 の補修を しなければ ならない こと	新しい家財 道具 電気製品 自動車 を購入 しなければ ならない こと	事業の再建 資金を 調達しな ければ ならない こと	災害前借入 金の返済 をしな ければ ならない こと	一時猶予さ れている 税金など の支払い をしな ければ ならない こと	帰島後に 職がない こと	収穫や売上 等がな かた 時の 当面の 生活費 が思う よう になら ない こと	その他	特に心配 している ことは ない	無 回 答
全 体 (1,603世帯)	700 43.7	501 31.3	713 44.5	927 57.8	126 7.9	137 8.5	227 14.2	129 8.0	147 9.2	69 4.3	26 1.6	151 9.4
20歳代 (77世帯)	41 53.2	12 15.6	28 36.4	53 68.8	4 5.2	2 2.6	8 10.4	4 5.2	6 7.8	7 9.1	- -	3 3.9
30歳代 (132世帯)	82 62.1	25 18.9	45 34.1	94 71.2	14 10.6	12 9.1	10 7.6	6 4.5	10 7.6	12 9.1	2 1.5	2 1.5
40歳代 (198世帯)	98 49.5	29 14.6	72 36.4	120 60.6	24 12.1	31 15.7	25 12.6	18 9.1	18 9.1	17 8.6	1 0.5	17 8.6
50歳代 (298世帯)	129 43.3	63 21.1	118 39.6	172 57.7	37 12.4	48 16.1	47 15.8	34 11.4	27 9.1	9 3.0	6 2.0	30 10.1
60歳代 (358世帯)	130 36.2	133 37.2	193 53.1	224 63.6	28 7.8	14 3.9	53 14.8	38 10.6	42 11.7	10 2.8	2 0.6	32 8.9
70歳代 (352世帯)	138 39.2	164 46.6	174 49.4	192 54.5	17 4.8	16 4.5	68 19.3	25 7.1	34 9.7	9 2.6	6 1.7	30 8.5
80歳以上 (175世帯)	79 45.1	71 40.6	80 45.7	68 38.9	2 1.1	3 1.7	14 8.0	2 1.1	8 4.6	5 2.9	8 4.6	33 18.9

3) 【H-問2】 帰島できる状態になった時の意見（単一回答）

調査数	何をおいても帰島したい	島での生活の目途が立てば帰島する	帰島するかどうかかわからない	帰島しない	無回答
1603	740	631	153	17	62
%	46.2	39.4	9.5	1.1	3.9

4) 【H-問2】 A-1 世帯主年齢×帰島できる状態になった時の意見

	調査数	何をおいても帰島したい	島での生活の目途が立てば帰島する	帰島するかどうかかわからない	帰島しない	無回答
全体	1603	740	631	153	17	62
	100.0	46.2	39.4	9.5	1.1	3.9
20歳代	77	20	23	29	4	1
	100.0	26.0	29.9	37.7	5.2	1.3
30歳代	132	38	61	30	2	1
	100.0	28.8	46.2	22.7	1.5	0.8
40歳代	198	76	90	22	3	7
	100.0	38.4	45.5	11.1	1.5	3.5
50歳代	298	142	116	27	2	11
	100.0	47.7	38.9	9.1	0.7	3.7
60歳代	358	188	145	16	-	8
	100.0	52.5	40.5	4.5	-	2.2
70歳代	352	200	131	12	2	7
	100.0	56.8	37.2	3.4	0.6	2.0
80歳以上	175	71	62	17	3	22
	100.0	40.6	35.4	9.7	1.7	12.6

5) 【H-問2】 A-3 家族の状況×帰島できる状態になった時の意見

※制約あり、とは家族中にAの問3の人を含む人

	何をおいても帰島したい	帰島での生活の目途が立てば	い帰島するかどうかわからな	帰島しない	無回答
全体 (1,603世帯)	740 46.2	631 39.4	153 9.5	17 1.1	62 3.9
制約あり (431世帯)	190 40.3	191 40.6	66 14.0	4 0.8	20 4.2
制約なし (1132世帯)	550 48.6	440 38.9	87 7.7	13 1.1	42 3.7

6) 【H-問2】 G-3 砂防事業に伴う土地の買上×帰島できる状態になった時の意見

	調査数	何をおいても帰島したい	島での生活の目途が立てば帰	帰島するかどうかわからない	帰島しない	無回答
全体	1603	740	631	153	17	62
	100.0	46.2	39.4	9.5	1.1	3.9
全面的に協力する	557	305	210	35	3	4
	100.0	54.8	37.7	6.3	0.5	0.7
自宅の土地以外は協力する	218	108	88	13	1	8
	100.0	49.5	40.4	6.0	0.5	3.7
代替地があれば協力する	120	53	60	6	1	-
	100.0	44.2	50.0	5.0	0.8	-
買い上げには応じられない	5	1	4	-	-	-
	100.0	20.0	80.0	-	-	-
土地を所有していない(借地も含む)	353	148	137	55	9	4
	100.0	41.9	38.8	15.6	2.5	1.1
わからない	155	52	69	27	2	5
	100.0	33.5	44.5	17.4	1.3	3.2
その他	35	22	10	2	-	1
	100.0	62.9	28.6	5.7	-	2.9

7) 【H-問3】 三宅村の将来像 (単一回答)

調査数	だ業今 とまで 観光通 の島の にす べき農 林水 産	産今 業の 島以 上に す農 林水 産	島今 に す べき に す農 林水 産 の 観 光	す農 べ林 き新 だ水 し産 い業 産と 業を 誘致 除	噴 火が 短い 周期 で起 きる こと から なる べく 人は 住ま ない 方が よい	そ の 他	無 回 答
1603	765	91	277	51	98	59	262
%	47.7	5.7	17.3	3.2	6.1	3.7	16.3

8) 【H-問3】 A-1 世帯主年齢×三宅村の将来像

	調査数	観今 光の 島通 にす べき農 林水 産業 と	の島 今 に す べき に す農 林水 産業 の 観 光	す農 べ林 き新 だ水 し産 い業 産と 業を 誘致 除	噴 火が 短い 周期 で起 きる こと から なる べく 人は 住ま ない 方が よい	そ の 他	無 回 答	
全 体	1603	765	91	277	51	98	59	262
	100.0	47.7	5.7	17.3	3.2	6.1	3.7	16.3
20歳代	77	35	4	20	-	4	4	10
	100.0	45.5	5.2	26.0	-	5.2	5.2	13.0
30歳代	132	63	1	32	6	13	8	9
	100.0	47.7	0.8	24.2	4.5	9.8	6.1	6.8
40歳代	198	84	12	42	11	10	12	27
	100.0	42.4	6.1	21.2	5.6	5.1	6.1	13.6
50歳代	298	151	14	53	13	21	9	37
	100.0	50.7	4.7	17.8	4.4	7.0	3.0	12.4
60-64歳	137	69	9	22	2	7	8	20
	100.0	50.4	6.6	16.1	1.5	5.1	5.8	14.6
65-69歳	221	92	21	38	9	17	2	42
	100.0	41.6	9.5	17.2	4.1	7.7	0.9	19.0
70歳代	352	179	24	51	8	17	8	65
	100.0	50.9	6.8	14.5	2.3	4.8	2.3	18.5
80歳以上	175	88	5	17	2	9	8	46
	100.0	50.3	2.9	9.7	1.1	5.1	4.6	26.3

(I) 行政への要望について【報告書 (7) 行政への要望について】

1) 【I-問1】行政への要望（複数回答）

調査数	ついでに の濃度が 可能な 公表 の数値 目安 に	島の被害 について の情報	島内の泥 流危険区 域の公 表	島の見通 し	期発後 にどのよ うな支 援策を 受ける のかの 早期 発表	現在実 施され ている 対策 の発表 期間	就職情 報	避難中 の島民 の様子	復興に 向けて の行政 情報 の公表	生活費 の支援 の実施	砂防施 設の配 置計画 の早期 発表	役場と の意見 交換会	屋根の 被害な ど の拡大 防止 の公表	無回答
1603	564	176	215	865	508	126	37	41	291	398	36	88	354	228
%	35.2	11.0	13.4	54.0	31.7	7.9	2.3	2.6	18.2	24.8	2.2	5.5	22.1	14.2

2) 【I-問1】A-1 世帯主年齢×行政への要望

	ついでに の濃度が 可能な 公表 の数値 目安 に	島の被害 について の情報	島内の泥 流危険区 域の公 表	島の見通 し	期発後 にどのよ うな支 援策を 受ける のかの 早期 発表	現在実 施され ている 対策 の発表 期間	就職情 報	避難中 の島民 の様子	復興に 向けて の行政 情報 の公表	生活費 の支援 の実施	砂防施 設の配 置計画 の早期 発表	役場と の意見 交換会	屋根の 被害な ど の拡大 防止 の公表	無回答
全 体 (1,603世帯)	564 35.2	176 11.0	215 13.4	865 54.0	508 31.7	126 7.9	37 2.3	41 2.6	291 18.2	398 24.8	36 2.2	88 5.5	354 22.1	228 14.2
20歳代 (77世帯)	26 33.8	13 16.9	10 13.0	47 61.0	19 24.7	8 10.4	3 3.9	2 2.6	16 20.8	12 15.6	2 2.6	5 6.5	9 11.7	10 13.0
30歳代 (132世帯)	42 31.8	17 12.9	18 13.6	78 59.1	39 29.5	15 11.4	2 1.5	2 1.5	23 17.4	34 25.8	3 2.3	12 9.1	19 14.4	10 7.6
40歳代 (198世帯)	63 31.8	28 14.1	25 12.6	97 49.0	61 30.8	23 11.6	8 4.0	2 1.0	49 24.7	55 27.8	5 2.5	12 6.1	42 21.2	23 11.6
50歳代 (298世帯)	104 34.9	29 9.7	45 15.1	162 54.4	97 32.6	24 8.1	13 4.4	5 1.7	61 20.5	83 27.9	7 2.3	9 3.0	67 22.5	39 13.1
60歳代 (358世帯)	125 34.9	34 9.5	46 12.8	191 53.4	133 37.2	24 6.7	8 2.2	8 2.2	67 18.7	88 24.6	9 2.5	25 7.0	73 26.0	45 12.6
70歳代 (352世帯)	141 40.1	38 10.8	46 13.1	191 54.3	120 34.1	22 6.3	1 0.3	13 3.7	54 15.3	89 25.3	9 2.6	17 4.8	88 25.0	53 15.1
80歳以上 (175世帯)	60 34.3	17 9.7	24 13.7	93 53.1	35 20.0	10 5.7	1 0.6	8 4.6	20 11.4	35 20.0	1 0.6	7 4.0	35 20.0	42 24.0

G問4-8 防災対策

大分類	中分類	件数	回答例
危険箇所の対策 (115)	砂防施設の充実	52	<p>砂防施設により泥流を民家に流れる事を防ぐと共に、泥流を海に流す泥流に対する、砂防ダムを早期整備。</p> <p>砂防施設を整備し、大雨のたびに避難勧告で体育館へ避難することがなるべく少なくなるようにして欲しい。</p> <p>砂防ダム 遊砂地、導流堤及び流路工の整備をしてほしい。</p> <p>砂防施設の増設(応急的なものでなく恒久的に)</p>
	住居の移転	22	<p>噴火は今後もあると考え、危険な場所にある家は移転し安全をはかることを考えたい。</p> <p>坪田地区の中の被害の大きい地区のプレハブに依る他地区への移転を急ぐべきである。</p> <p>沖ヶ平から三七山附近迄の民家1ヶ1件について仮設住宅の建設を被害の少ない地区へ作って全島帰島のために対応してもらいたい</p> <p>危険な地域の住民の移転用の村営住宅。</p> <p>危険区域を設定し、その区域内での住宅建設等は進めない様な指導も必要。</p> <p>村や地域のコミュニティを壊すような形では、帰島後に必ず支障が出る。集落単位(特に泥流やガスの影響がある伊ヶ谷や三池地区)での話し合いをさせ、移転をするならば、この単位で行うことが大事。</p>
	環境への配慮	17	<p>三宅島がコンクリートのかたまりになってしまう様で不安な面もあります。自然と共生できる防災工事を望みます。</p> <p>安全の確保を理由に、自然や現在の集落を破壊するような事のないようにしてほしい。</p> <p>観光客に魅力のない島となっては結局は生活できなくなる。島の自然など三宅の良さを確保しながら対策を立ててほしい。</p>
	復旧計画、復旧状況の情報公開	11	<p>現状の防災復旧工事がどのような計画で進められ、進捗状況がどうなっているのか全くわからない。詳細な工程表を知りたい。応急対策はいつ終わるのか、恒久対策のスケジュールは、どうなっているのか教えて欲しい。</p> <p>住んでいた住宅のすぐちかくに砂防ダムができていた。住んでいた地区の住民に説明をしてから、意見交換をしなからずすめてほしい。</p> <p>国や都が泥流対策を懸命に努力しているが、本当に島民が安全に生活が出来るようになるにはどれくらい年月がかかるのか?明確にわからなければ計画の立てようがない。</p> <p>砂防と言われても具体的な計画でないとよくわかりません。砂防の目的をはっきりさせてほしい。「家財を守るため」なのか、「復旧後も考えての事」なのか。</p> <p>ハード面での防災対策についてはいろいろ専門技術の知識がないと分からない事が多いと思うので考えられないが、情報を全住民に速やかに公開することが安全を確保することの1つであると思う。</p> <p>島全体に広がる危険度、どの程度のものか知ることなく、安全確保策を主観で決めるのは無謀。国・都村の行政は、各分野の専門家の対策意見をまとめ、住民にわかりやすく示すが先。</p>
	交通・道路整備	7	<p>大雨が降っても、少なくとも、周回道路が通行できるよう、対策をとること。</p> <p>冬の季節風でガスのため飛行場が使えなくなるので移転を。</p> <p>海、空交通の確保。</p>
危険箇所の対策(その他)	6	<p>防災対策に従事する会社を大手ゼネコンにして、高い技術力と知識を導入すれば現状よりはるかに早く安全に対策を進められる。</p> <p>復旧、復興作業にかかわる作業員が安心して常駐して仕事出来る施設の確保、作業員が休日の時休める場所等。</p> <p>全島避難して一年以上になりますが、三宅でライフラインで働いているので健康の事が、一番気に掛かります。カゼを引いても、せきとかタンがなかなかおさまらないと言う事です。10年後、20年後の後遺症が出ないか心配です。三宅へ滞在している人の健康をもっと調べて下さい。(防災対策と言うより、一人の事、生活状態も考えて下さい。)</p>	
避難施設の充実 (47)	クリーンハウスの増設	19	<p>島の4カ所に大きなクリンルームを作してほしい。(東、西、南、北)</p> <p>火山ガスが放出されている状況でも島へ戻り、火山ガスとつき合っていくため、公的避難所等のクリンルーム化を進めて欲しい。</p> <p>クリンルームを3000人規模で作り、早期に全面帰島させるべき。各自の家から危険(ガス、泥流)等にどう誘導して危険を避けるか決められれば帰島は可能はず。</p> <p>大型集合住宅(クリンルーム化した)の建設</p>
	既存施設を活用しやすいように改善する	16	<p>設備を整えた避難施設が必要と思う。体育館ではトイレ、水、炊事など不備な点が多い。</p> <p>学校統合して避難施設等に整備改築しては。</p> <p>避難施設や公民館や学校など長期避難生活に耐えうる施設に改築するとともに避難時に必要な生活用品をしっかりとそろえてほしい。避難された方が利用できる、公共の浴場などがあればいいと思う。エアコンや暖房器具などの避難生活を快適に過ごせる設備をしてもらいたい。</p>
	各地域に避難施設を設置する	12	<p>泥流の心配がある各地区に避難所の確保を希望します。</p> <p>火山ガスについては集落ごとにシェルターを設け、いつでもそこに避難できるように住民と子ども準備を怠らないようにする</p> <p>避難施設を最低3ヶ所位は必要だと思います。</p> <p>住民が各地区ごとに長期避難できる施設の建設(発電、海水蒸留設備、4人部屋ベット、シャワー、トイレ、キッチン、完備。防じん対策、溶岩対策、泥流対策ずみの施設)</p>

G問4-8 防災対策

大分類	中分類	件数	回答例
(90)	情報伝達方法の改善	71	<p>もっと正確な迅速かつ適格な災害情報の提供。</p> <p>早めに情報を流してほしい。(噴火予報はまずテレビのテロップをみて東京の子供より知った。全島避難を判断していただきその後の大変さを知ったわけですが高齢者等へ予想されること等情報があったらありがたかったです)</p> <p>CATVで各家庭に常時(24h)火山情報、天気、風向を流す</p> <p>ガスの有無、ガスの流れる方向、火山活動の有無、雨の量、避難の勧告等の呼びかけを24時間の体制で出来れば、身体その他に問題のない住民の帰島は今後、可能ではないか</p> <p>泥流等の予測とその伝達方法の確立。島内のハザードマップ作成。被害状況の正確な情報。</p> <p>昨年7、8月の群発地震の恐怖は昼夜続き不安でした。なすがままではなく、住民が安心できるような説明がほしかった</p> <p>情報の伝達を敏速かつ正確に老人、子供にも分かりやすく伝えてほしい。</p>
	防災無線の充実	19	<p>防災無線設備の充実。</p> <p>防災無線を有効に利用する。電波の入りの悪い地区がないようにアンテナを立てる。</p> <p>防災無線の点検をしていただき、情報を確実に迅速に住民に伝えてほしい。</p> <p>村の放送が聞こえの悪い処に住んでいて大変不便です もっと良く聞こえる様にして欲しいです。各家庭の放送器も一部屋なのであと一ヶ所ぐらい聞こえる様にして下さい。</p> <p>3年前より噴火前、無線の設置をお願いしましたが、聞き入れてもらえなかった。噴火の時は、無線が窓を明けても、聞こえなかった人(近所の人)多かった。私の近くの方は、電池切れだったが、役場は対応せず。強く要望したところ、やっと電池切れが解決される。</p>
(114)	観測体制	40	<p>今まで以上に、噴火予知観測機材、人員、体制の強化充実。・火山ガス検知システムの充実。</p> <p>二酸化硫黄の放出量を測定する簡単な検知機のようなものを各地区に設け、色別に危険度を針が表わすようにし、島民がいつでも見られるものを作る。</p> <p>山の中腹泥流危険区域に、ワイヤーセンサーを設置し、早期の警報対策</p> <p>専門家の調査をして頂きたい</p>
	防災体制	35	<p>安全地区に移動できる対策(集団で)</p> <p>今後、大規模な火山活動が起こったとして、島外へ瞬時にして避難できる体制が必要。</p> <p>噴火時の避難に対するマニュアルを設定してほしい</p> <p>障害者の人たちに対する情報の提供をしっかりとしてほしい</p> <p>役場で島にいる人の人数とかをしっかりと把握したり、地区によって代表の人をきめたりする。</p> <p>消防団に依存するばかりでなく、地域毎に防災組織を造り緊急時に即対応できる体制の確立。</p> <p>今回のような問題が起きた時には早めに対応して、地区ごとの避難などが出来るようにしてほしい。今回のようにバラバラになってしまうというのは非常に困る。</p> <p>避難勧告や自主避難の呼び掛けを早くする(小さい子供やお年寄りの為)。危険区域にはあらかじめ連絡をする(電話や無線)</p> <p>住民が主体となるような防災体制を確立出来ればいいと思う。支援物資の振り分け等、災害時には行政だけでは処理出来ないことも多くあったような気がする。</p>
	安全な生活の確保	20	<p>村の安全より島民の安全を考えた上で防災対策をして行けば、村の安全になって良いと思う。</p> <p>「村の安全」ということ言うならば、見切り「帰島」(一時帰島ではなく、住みつづける帰島の意)は実施しないでいただきたい。早目に安全宣言を出して帰島した方がいいが過去に前例のない火山活動ゆえ何が起こるか分からない。</p> <p>帰島しても雨のために避難では安全宣言の意味がない。泥流が起こっても大丈夫です。平常の暮らしが出来ますという状態になるまでは帰島を見送り、防災対策をしっかりとした方が良い</p> <p>ガスがおさまり、安全を確認してからにしてほしい。</p> <p>生活して行くのに、安全を確保するのは当然のことであるが、一番に必要な所から、防災対策を進める。</p> <p>集落が安全であれば、少しぐらい避難と解除くり返しても早く島に帰りたい。</p> <p>泥流などがあった場合、避難せず、安心して自宅にいられるような、対策をお願いしたい。</p>
防災計画	11	<p>各地区毎に確立した防災の基本計画が必要</p> <p>村全体のマスタープランの作成</p> <p>今回の島外避難を教訓に、島外避難計画と作成して島民に配布願います。</p>	
その他	8	<p>帰島のメドさえ立たないこの時期に、巨額の税金を使って防災工事を進めることには反対。避難民の生活の安定を第一に優先すべき。</p> <p>砂防ダムを沢山つくることに疑問を抱いている。すぐ埋ってしまい、重機と大型ダンプによる、砂出しに追われる。導流堤を重点的によりめぐらせた方が、自動的に海に流れて、合理的で、安上がり。更に海の生物資源の回復力は、陸上の植生の再生力の数倍の早さがあるから、泥流が大量に海中に入っても、問題は小さく、賠償額も小さく、期間も短かくてすむ。</p> <p>泥流が入った家はそのまままになってしまうのか。砂防ダムを作るにあたってその後ろにはNLP問題が有るのではないのか。島民の為の防災対策なのか国として基地を作ろうとしているのか</p> <p>島民が安全に避難するための施設を作り観光、漁業、農業、商業、福祉、各イベント、スポーツ、コンサート他生かす。他県との交流の場・国際との交流の場に生かす。</p> <p>家屋が壊れていなくても、これから先、長期化すれば、全家屋が被害に合うと思う。各家庭への被害対策も考えていく必要があるのではないのか</p> <p>現在阿古に建設中のライフラインのための宿泊施設の様な、民家の補修のための宿泊施設も建ててほしい。</p>	

H問4-1 島の交通機関

大分類	中分類	件数	回答例
航空機(空港)の対策 (231)	空港の確保 (増便)	116	飛行機の便数をふやしてほしい。 大型機でなく、現在規模でも良いから1日の就航便数を増やし、利便性を高める。 航空便は必要なもので、噴火前の便数以上の確保 飛行機については1便でも良いから、就航できるように。 病人のため(東大病院)に通院するため(夫婦共)飛行機、船の便を便利にしてほしい 混みあう時期(夏の間)だけでも飛行機の便数を増やす。
	空港の整備 (欠航を減らす)	58	一年を通して欠航のない交通 気象条件に左右されにくい空航施設の完備 就航率を高めるため、風向や、濃霧などの悪条件を克服するような機種は、ないのだろうか。 空港を早く整備して一日も早く利用できるようにしてほしい。 空港を場所を変えて再建、就航率を上げるべき。
	空港の整備 (拡張・ジェット機離 発着を可能に)	57	飛行場の整備をしてジェット機が降りられるようにしてほしい 今の空港を整備・拡張する事を望みます。 YS-11の後続機がしっかり飛行出来る整備。ジャンボ化が行われなにかぎり島の発展は無いと思 われる 大型飛行機のとべる飛行場等々… 整備を望む ジェット空港整備はこれまで以上に推進していただきたい 滑走路を延長し、小型ジェット機が着けられるようにしていただきたい。
船舶(港)の 対策 (96)	高速船の導入	49	本土と島を3~4時間で結ぶ高速船が必要である 高速船にして便数を増やす。(時間の短縮) 高速艇を運行してもらいたい。三浦海岸か相模湾あたりと三宅を運行で結ぶもの。 船→高速船と、自動車がそのままのれるフェリーの同時就航(いまだき車で入れないなんてナンセ ンス) 船はもっと早い時間に内地へ着くようにしたい。観光を考えた時、9時頃の着だと遠くの人達は列 車に間にあわない。 東京への便をもっと短縮化できないか? 上京の際時間がかかりすぎると思う。 船の時間がかかりすぎて、来島者が遠のいていると思う。 観光客の多い時には高速船も。
	航路の確保 (増便)	47	下田等他府県市からの船便の増設 東海汽船による三宅島直航便を是非共就航させたい。 すつれちあ丸よりも多少大きめのカーフェリーを走らせてほしい。車やバイクで直接来島できれば観 光客も増えるのでは。 大島便又は熱海便があれば。 三宅~神津間の連絡船 伊豆大島に就航している交通船の誘致を進めるべき。 島は気象条件が悪いので、飛行より船舶を毎日運行してほしい。 船は一番だと思ふ大勢乗れるし又避難する時も安全です。 船は、1日1便は必ず確保してもらいたい。 下田よりあじさい丸が三宅島に就航していた。何時しかその下田便もなくなった。観光に力を入れ るなら関係機関と力をあわせ来島客の誘致をはかってはどうか。
船舶(港)の 対策 (28)	港の整備 (欠航を減らす)	25	欠航や条件付などがないような港作り。 船の安定した就航を可能にすること。 全天候型対応の港作り。 船も風向きによって左右されるので必ず船がつける棧橋を
	港の整備 (防災対策)	3	今回の様に道路が寸断されてしまうと行き場を失う。港を阿古、坪田に加えて、大久保あたりに港 を造り、いざという時、船で脱出可能とする。 港が沈下しているとの事なのでかさ上げを早期にする事。 安全面で港の整備は必要。
道路対策 (31)	道路整備 (道路拡張・歩道整 備)	31	村道、林道は出来るだけ巾広くして下さい。 道路の幅を広くし信号機をふやしてほしい 島の道路は一つではこまる。被害が出た時は、他の道が通れるようにしてほしい。 狭い道を広く、歩道を整備するのは良いが、タイル張り形式は良く無い。あちこちから草が出て る事や高齢者もちょっとした事でつまづきやすいので、アスファルトの方が良い 車が主な交通手段なので道路の整備等を災害時に堪えられる様にしてほしい。 住宅の多い所では、都道に歩道を設置すること。 道路は部落内(都道村道共)早期拡張が必要 村道の拡張。 地域によっては農道などは途中で切れていますが必ずどこかへ抜け出られる道としてほしい。

H問4-1 島の交通機関

大分類	中分類	件数	回答例
道路対策 (70)	道路整備 (被害箇所の整備)	21	道路は、今回の噴火で泥流等に弱い場所があったので強い道路がほしい。 周回道路の危険箇所の整備補修 道路は噴火を考へ泥流道をさけて工事を 道路についての本格復旧は順次行うのがよい 災害を受けた道路の整備 泥流に強い道路
	道路整備 (これ以上必要なし)	16	これ以上整備する必要なし 道路に関しては必要以上に予算費用をかけすぎている気がする。 道路は拡張するたびに自然がなくなっているのをやめてもらいたい。 避難前はまだ使える道路を何でも作り変えるならそのために出ている支金を他の事に使えるようにするべきだ。 島内の道路は噴火前の状況が保たれば良いと思う。
	道路整備 (観光用道路の整備)	8	噴火災害一火口、中腹に至る観光ルートを1本作る(確保する)見学用 “ハチマキ道路”は、観光を考慮すれば整備が必要になる 雄山へのスカイラインを整備することが必要と考える。 海岸ぞいに島一周道路(サイクリング用)を作って欲しい。健康と観光を兼ねて、老人向アップダウンの少ないコースを是非作って欲しい。 完全舗装でなくても、人、自転車を通れば、観光上、役立つ道もつくれる。 景観の良い海岸線への新道新設 観光島として歩道付道路の整備
	道路整備 (環境に配慮した整備)	4	歩く道路、コンクリートなどでない自然を残した道路を希む 自然との共存を考えながら 普通の、アスファルトだと水を吸わない、溶岩で出来たアスファルトは、水をすうと聞いたので、舗装をするなら、そういったアスファルトをひいてもらいたい。
	バスの本数を増やす	21	路線バスの本数を増やして欲しい。 島内バスの小形バス回数多くしてほしい。 あんな大きなバスは必要ない。ハイエースの様なワン・ボックス車を5台、時刻を決めず、ぐるぐる走らせる。どこでも乗れてどこでも降りられる。(均一料金) 自家用車の台数を制限し村営バス等公共交通手段を活用する。 小型バスをもっと増便し、来島者や年寄りがもっと便利に利用出来る様考えるべきだと思う。 島内交通は小型バス9人乗りワゴンなどにして1時間30分に1本ぐらにし、利用施設(診療所、温泉など)に立寄る。途中乗降も可能に。大量輸送は乗下船や通勤、通学時としては。 村営バスは乗客も少ないので大きな車は必要ないもっと小型の車にして村の経費を少なくした方がよい おそらく車がダメになっていると思うので、バスの本数を増にしていただけたらありがたいです。 飛行機の利用とバスの連携を図る。
交通費・時間等への要望 (31)	島までの交通費を安くする。	25	飛行機・船など安く、交通費が高い。 飛行機の料金を安く。 船の料金が高過ぎる(片道一般料金(2等)4000円位で良い)飛行機料金が高過ぎる(片道6000円位で良い) 本州と島への交通するための交通費(飛行機代、船代)が高く、時間がかかりすぎるため、割安となってきた海外に立ち打ちできていない事を改善する必要がある。
	手続きの簡略化	6	航空の予約制度を改善して欲しい。無駄な予約が多く、その為、キャンセル待ちや、早朝からの乗券入取が、不便です。 予約が取りづらい時がある。 夏場、飛行機に乗りたくても前日から並んで席を取るなど今までしていた 船の全席予約制は大変 6枚綴りのチケットやめた方がよいいつも満席と言れ行ってみるとガラガラチケット使うのならキャンセル料を取べき
その他 (178)	今までと同じでよい (避難前の交通は確保)	155	今迄と同じ様に出来たら良いと思います 最低でも避難前の状態は確保してほしい。 少くとも避難前の航空路、船、バス等の確保をしてもらいたい
	早く復旧をしてほしい	20	早く復旧を回復させてほしい。 交通施設については、早く復旧をしてもらいたい。 ガスが少なくなった場合一刻も早く島への直航便の復活を望む
	防災対策	3	緊急用のヘリやセスナ等を増やしてほしい ヘリコプターが発着できる場所を避難施設に近い場所につくる事が出来ないか? ヘリポートを、島の何ヶ所かに作った方がいいのではないかと思います。

H問4-2 エネルギー施設について

大分類	中分類	件数	回答例
自然エネルギー (265)	風力発電	148	風力を利用した発電を考えるべきである。 将来的には風力発電を考慮すべきだ。 常に風の強い所ですので風力発電など考える必要があると思います。 風力発電等環境に配慮した施設 風力発電のように観光資源になる施設 燃料による発電でなく、風力発電を考えてもらいたい。
	地熱発電	63	火山利用の地熱発電。 これから火山島としての利を生かして地熱発電等考える時期に来ているのでわないだろうか 火山活動の観測体制強化にもつながる地熱発電を考える。 自然を使ったエネルギーのモデル地域みたいになるといい。(八丈が地熱をやっている)
	その他(太陽 発電等)	54	太陽光発電を利用する 波、太陽光等の利用 現状のままか、非常用にソーラと風力の組合せが考えられるか? 島の風土を利用したクリーンエネルギーの利用が可能な施設の整備 自家発電施設(ソーラーシステム)など 自然エネルギーを利用研究する施設、企業を誘致すれば観光資源にもなるのではないか? 八丈島のような、自然エネルギーを積極的にとり入れる 自然エネルギーの開発が重要。内燃エネルギーを減らしていく。
その他 (104)	今までと同じ でよい	67	現行で良い 従来程度は確保 風力・地熱・太陽光等を利用した発電施設が、最近注目されていますが三宅島の場合またいつ噴火するかわからない活火山島ですので新たに莫大な設備費をかけることはないと思います。 よくわからないが、火力発電が一番安定しているのでは。風力、波力、地熱発電などあるようですが採算性に問題があるのではないか。太陽光発電もまだ高価なもののように聞く。
	早く復旧を	12	帰島までに全家庭に通電が完了してほしい。 エネルギーは今から完全な準備をお願いしたい。 早く復旧してもらいたい。
	防災対策	9	災害、台風等による現在の発電所を安全な場所に移転した方が良い。 学校などの避難場所には、2KW程度の発電機が複数必要である。(その他TV、ライト…) 各避難所にエネルギーを単独で出来る装置を設置してほしい。(例:発電機) 発電施設が島の北にしかないが南にも作っては? 施設を1ヵ所ではなく、2ヵ所以上作る 発電所が大久保だけにしかないことが不安。(あそこは、台風による高波、津波、ガケくずれ等が考えられる。電気が完全に止ったら、どうにもならない)
	安定供給	8	24時間送電 安定した発電所は必要だと思う 帰島後停電事故の無い様にとします。商品を仕入れても、損失を出すと安定した仕入供給が出来なくなります。又、精神的にも安定しないと思います。 電力量を増してほしい。
	発電所の増 設・拡大	8	復興にともない発電は必要だと思いますので、エネルギー施設を増します。今回噴火に、エネルギー施設は2ヶ所にしてはと思います。 発電所もっと大型なものにしてほしい。 現在の状態で島の需要に応えうる発電量でできれば予備発電の設備があればなお可と思います

H問4-3 防災施設

大分類	中分類	件数	回答例
危険箇所の対策 (83)	砂防施設の充実	55	<p>砂防施設等を充実させ、人的被害を0にしなければ。</p> <p>火山灰の流出がおさまるまでは、ダムその他の施設は必要。</p> <p>砂防施設は必要ならばどんどん進めて欲しい</p> <p>砂防施設に付きまは三宅の八マキ道路周辺に建設してはどうか</p> <p>今まで以上に大幅な計画を立て砂防施設の増大をお願いしたい</p> <p>現在の砂防ダム等は一時的なもので雄山に堆積している土砂の量等からは梅雨～台風に於ける雨量によって必ず泥流が出ると思われる。恒久的なダムの施設を作成すべきだ。</p> <p>砂防施設について、神着の間川ダムクラスの砂防ダムを作ってはどうか。</p>
	道路・交通対策	9	<p>避難所への道路の整備が必用。</p> <p>交通の設備の建設が望ましい。</p> <p>緊急輸送用のヘリポート</p> <p>堆積された土砂を除去する道路設置が課題だと思います。</p> <p>避難路の標識設置</p> <p>緊急島外避難を迅速に行うため大型ヘリなどの就航。</p> <p>避難住民のための交通手段の確保</p>
環境への配慮		7	<p>砂防施設は土砂を海へ一気に流す構造ではいけない。三面ばり河川のように、海を汚染する。人家1軒も大切だが、海で生活している者の生活も考えるべき。</p> <p>観光の島なので景観との調和が必要</p> <p>積極的に植栽を行い、地表の固定、安定化を計るべき</p> <p>砂防ダムなどを作る場合、周囲の景観と調和するよう、なるべく島の熔岩などを使う。</p> <p>島中がコンクリート施設で埋めつくされるのには反対。大切な島の財産(=自然)と調和する形を追求してほしい。</p> <p>山中腹に積った火山灰は牧草がはいるようにして泥流を最小に防止する。</p>
住居の移転		6	<p>ゾーニングを行ない。ある地区には防災施設を集約し、住民もその地区に住む。危険な地域には手を入れず、人も住まない。</p> <p>集団移転を優先</p> <p>泥流、熔岩流等のことを考えると沢筋への住宅を避けるようにして、集落の形成を防災を基本にして考えなおす。</p> <p>島全体にふった灰の量が多量すぎるので、砂防ダム計画には限度があるので、危険箇所に居住する住宅は安全な地域へ移転することなどが必要!!</p> <p>村営住宅をつくり危険地域の住民の安全を確保すべきだと思う。</p>
復旧状況の情報公開		3	<p>砂防施設は作っているのでしょうか?土地の使用はどうなっているのでしょうか?全部連絡済みですか?</p> <p>今後の噴火活動がどうなるかにもよるが、砂防施設等の建設には、詳しい説明会等があると良い。</p> <p>防災施設がどこまで出来いつ完成か公开发表をもっとして欲しい。又、砂防工事がメインになるのは分るが住民が帰るのに必要な事があるのではと。</p>
危険箇所の対策 (その他)		3	<p>防災施設の実用展示会場として、観光の材料にならないか?</p> <p>砂防ダム1つを作るのには、1、2年はかかると思います。それを16も作るとなると人手も大変の事と思いますが、なるべく年令制限のない様に島民の人で動きたい人達をつかってほしいです。</p> <p>砂防施設は造って頂くのは良いのですがその後の保守等を検当して常に安全なものとして下さい。</p> <p>復興作業に携っておられる万々の安全確保や精神的なゆとり対策など</p>

H問4-3 防災施設

大分類	中分類	件数	回答例	
避難施設の充実 (187)	各地域に避難施設を設置する	50	1周道に点々に一時避難施設。 複数の防災拠点が必要ではないでしょうか。 帰島後は、島内避難をしなくてもいいように、いろいろな施設を完備し安心して生活が出来ればいいと思う 避難施設について現在公共施設(小中学校等)指定してあるようですが、公共施設のない集落に避難施設を設置することを望みます。 いつでも、どこでも逃げて、入れるような施設がほしい。 各地区に避難場所を設置してほしい 泥流とか土砂災害にもたえられる建物を各地区に作るべき。 避難施設は徒歩10分以内位で行ける位にしてほしい。 降雨時再三避難しなくてもすむ様な施設の集落に近い所に建設を	
			48	体育館等に避難所としての機能を備えてはどうか。 学校等公共施設を複合施設とし、避難所等として活用しやすくする。 学校を避難場所として使うのであるなら、それなりの設備、備品を整えるべきだ。 他の地域から視察にくる様な模範的な防災施設を考えてほしい。学校等の施設を災害時に避難施設として使えるような。 小中高校の体育館全てに脱硫エアコンを…。 学校や公民館を避難施設として充実させる。ガス対策、空調施設、発電装置、天水利用、シャワー等入浴設備、宿泊設備、乳児や病人のための部屋、食料備蓄とたき出し設備など、避難時に即対応できるように施設用具等を備える。また、すぐに収容できるよう、計画を立て、訓練する。 避難施設は各地の学校で充分であるが、炊事施設等の完備をする事。新しい施設を造って金をかける事はない。 改めての防災施設は必要と思わないが各公共施設(学校教室体育館公民住宅)を防災向けに改築した方がよい。 学校も避難所に指定されている。ところが20年毎に災害が起きる島にしては経験があるのに、あまりにも学校の施設が避難所として乏し過ぎる。
				43
16	大規模避難施設(ホテル兼用) 独自の発電設備を持った、大きな宿泊施設(シャワー、ベット(4人部屋くらい)、トイレ、台所)を各地区にあれば良いと思う。避難所として、海水を水に変える装置があると安心。使わない時などは、観光者も一部利用(有料低額で)できるようにする。 有毒ガスが出ない場内の島内の避難施設は必要。(1部落収容程度のもの安全地帯に作る。)ふだんは別の目的に使い、災害時に使う。 平時は宿泊施設として利用できる場所を使うのがいいのではないか。 新たに多機能を盛り込んだ多目的に活用出来る公共施設の整備を望む。 避難した時に最少限の生活ができるような施設の建設をお願いしたい。(例、便所 台所、洗面所等……) 避難所である程度の食事(湯)等が出来る様に、住民が参加して、食事の仕たく等もやっても良いと思う			
	43	伊豆地区にもクリーンハウスを。 より多くのクリーンハウスの建設。 島民を早く全員帰島させるためには191軒のガス被害の地区と泥流被害の家屋の方々のためにプレハブを建設し合せて住民のためのクリーンハウスを作れば災対委員と同じく島民を島に戻す事が出来るはずである。 安全宣言が出て帰島した後で、一時的に多量のガスが出る可能性もあるから、ガスマスクをすぐに使えるような所に保管したり、ガスから逃げられる施設や方法を考えていた方がよい。 火山ガスが放出し続けても帰島し、生活できるよう、公共避難施設等のクリーンルーム化も検討して欲しい。 ガスが流れて民家に来た場合すぐに避難できる施設が各部落にあったら安心して生活出来るシェルター付設備 体育館等緊急時に避難施設にも(シェルター)なり得るもの(大島にある) 各地区ごとにクリーンハウスの施設を設置		
		16	大規模避難施設(ホテル兼用) 独自の発電設備を持った、大きな宿泊施設(シャワー、ベット(4人部屋くらい)、トイレ、台所)を各地区にあれば良いと思う。避難所として、海水を水に変える装置があると安心。使わない時などは、観光者も一部利用(有料低額で)できるようにする。 有毒ガスが出ない場内の島内の避難施設は必要。(1部落収容程度のもの安全地帯に作る。)ふだんは別の目的に使い、災害時に使う。 平時は宿泊施設として利用できる場所を使うのがいいのではないか。 新たに多機能を盛り込んだ多目的に活用出来る公共施設の整備を望む。 避難した時に最少限の生活ができるような施設の建設をお願いしたい。(例、便所 台所、洗面所等……) 避難所である程度の食事(湯)等が出来る様に、住民が参加して、食事の仕たく等もやっても良いと思う	

H問4-3 防災施設

大分類	中分類	件数	回答例
	シェルター施設の建設	8	<p>避難シェルター設置。</p> <p>周辺道路各所に避難シェルター設置。</p> <p>林道、都道、村道問わず数人入れるコンクリート製の避難用シェルターを設置しては、特に観光客の多く集まる所には絶対に必要と思います。</p> <p>バス停と噴石から身を守る為のシェルター兼用にすべきだ。又いつか噴火するであろうから、間隔も丁度良いし、観光客にも雨、風をしのごくに都合が良いし災害の島らしくもある。</p> <p>各所にシェルターを設置する</p>
	大型避難施設の設置	8	<p>島民全員が避難できる場所がほしい</p> <p>全員が1ヶ月-2ヶ月位長期に避難できる施設を作るべきだ</p> <p>錆ヶ浜港や三池港に大型の避難施設(ガス)があったら安心だと思います。</p> <p>全島民が一カ所に避難できる、安全で安心な複合施設を建設してもらいたい。(長期化に向けての食料等の確保、緊急輸送用のヘリポート、入浴施設等)</p>
	弱者への配慮	8	<p>寝たきりやハンディキャップのある人が不自由なく過ごせる避難施設があると良い。</p> <p>体育館などよく避難していたが、子供、年よりに毛布やまくらが行くように。</p> <p>港の近くに高齢者でも避難できる施設</p> <p>老人、子供のためにエアコンの入った部屋。</p> <p>避難施設→バリアフリーで洋式トイレ設置。</p> <p>避難場所は学校体育館などだがコンクリートの上に毛布1枚で過すのは、老人などはどうでしょうか。その所が改善されると良いのではと思います</p>
	学校・公民館等以外の専用の避難施設を設置する	6	<p>学校は生徒の勉強に支障がある。常設の避難施設を設置する必要がある。</p> <p>学校とは別に避難施設を作るべきです。</p> <p>学校や公民館だけでなく、専門の施設がほしい</p> <p>何かあった場合により安全に避難できる施設が必要だと思う(学校以外)</p> <p>島内に安全地帯が有るなら、体育館以外の避難施設が有ってもと思う。</p> <p>避難施設は体育館でなく、今役場、支庁、勤福などでしているガス装置のついた施設を、別に作ってほしいと思う。今の体育館では、大噴火したとき大きな石などが飛んできたら危険です</p>
情報伝達方法の改善 (34)	防災無線の充実	14	<p>防災無線と防災用カメラを要所に設置する必要があると思う。</p> <p>災害が発生した場合、速く島民に知らせる為に有線放送をたくさん設けた方が良い。</p> <p>防災無線が聞えない時もあったので、それが確実に聞く事ができればいいと思う。</p> <p>災害が発生した場合、速く島民に知らせる為に有線放送をたくさん設けた方が良い。人家のない処でも聞ける様にしたいが良い。たとえば海辺や山仕事をしている人にも聞こえる様に。</p> <p>防災スピーカーでは、ききとれない地域もあるのでマスコミと一体となった(テレビ利用)ものを考える。</p> <p>現在の各戸の公報無線施設の強化</p> <p>同報無線については、三宅支庁でも放送できる様にすること。</p> <p>防災無線の確認</p>
	情報を早く・詳しく伝える	10	<p>もっと早く情報を伝えてほしい</p> <p>きめの細かい情報、連絡、指示</p> <p>災害時に、家から遠い場所にいる場合に迅速に安全に避難できる様に、住民への働きかけ。</p> <p>観光と防災を考えると島のどこに居ても連絡がつくようにしてほしい。特に携帯電話</p> <p>三宅島で避難した時、三宅中の体育館に神着地区の人々が避難した後に伊ヶ谷、伊豆地区にも避難勧告が出され神着地区は火山灰が降る中他へ避難したので、そのような事のないよう願う</p> <p>防災施設、避難施設、砂防施設などハード面はよく分らない。避難する時のシステムをもっとしっかりしたものにして欲しい。人間だけでなく動物についてももっと考えて欲しい。</p> <p>噴火の予知(きざし)は村が報道(テレビ)より大分遅れた事は納得がいけない。その為の整備が必要ではないか。</p> <p>外出している時でも、身の安全が確保できるよう所々に避難施設を作りどこに、どんな施設があるかきちんとした地図をつくる</p>

H問4-3 防災施設

大分類	中分類	件数	回答例
その他 (90世帯)	安全な施設を設置して欲しい	32	安心して暮らすことのできる施設にして欲しい 安全な避難場所 出来るだけ安全な施設を作ってほしい 住民の安全を一番考えて下さい。 全体的に被害が発生しない様、安全なる防災施設の整備を
	早く施設を建設してほしい	20	ガスがなくなり次第早く帰島出来る様早急に。 砂防施設の早期完成 砂防施設につきましては、早期実施が出来ますよう望みます。 早急に実施してほしい。 ガスがなくなり次第早く帰島出来る様早急に
	適切な対策を行う	11	いくら砂防施設をつくっても雄山の噴火は止められない。砂防施設に金をかけるより、被害にあった家に十分な保障を出し、すぐに再建できるようにした方が安上りではないか。 しっかりしたものを造ってもまた噴火する島だから程々のものでガマンすべきだと思う これから先灰が降らないのなら、砂防施設に金をかけないで、他の事に金を使った方が良いのでは。 ただ防災施設を作っても守るべき財産(動産)が人が入らない家屋の中で傷んでいくのでは意味がない。 大金をかけてそれらを作るなら定期的に行き来させるべき。それができないなら防災施設など作らずその金で財産移転をさせてほしい。 噴火と共存していかななくては、ならないので長い眼で無駄のない防災施設を考えて欲しい。
	過去の災害の経験を活かす	7	今回の噴火の経験を生かされるような防災対策を期待します 今回自然災害が島の危険な所を教えてくれた事に感謝し今後の施設造りに役立てたらと思います。(1つでも見過ごさなくして欲しい) 20年ごとにくりかえしているのになにもしていないように思う。 避難所については、今回の災害の経験に鑑み、火山ガス、噴石及び火砕流等にも耐え得る様検討して頂きたい。
	今までと同じでよい	7	現在村が実施しようとしている防災計画で良いと思う。無理な計画を出すとは実現出来ない場合がある 今計画されているものが施工されれば十分である。 今まで通りで良いと思う
	専門家の意見を聞く	3	知識がないので具体的に書くことは出来ないが1からの出発として知識人専門家、地域の経験者等で検討して、設備を考えて欲しい。 専門家の意見に依り実施してもらいたい。 これは、専門的見地から考えていただくことが大切だと思う。自然については、予測がつかないので… …。
	火山観測	2	火山、観測の充実を望みます。
	その他	8	駐車場の整備、非常食、其の他の備蓄。 「どこの地区に何をつくる」といった発想をなくしたい。地区のエゴでいいものができる前にできなくなるようなことをなくしたい。阿古にできても神着にできて島みんなのもの。そのような意識がもてるよう島全体のためのものをどどんとつくってほしい。(地域エゴがあってもあえてたててしまうぐらいの態度があってもいいと思う) 観光客等が聞いて安心できる避難施設の設置を考慮出来ないだろうか。 将来の災害を見据えた防災施設。 有事の場合島外避難出来るような体制作りが必要だと思う

H問4-4 観光事業

大分類	中分類	件数	回答例
観光事業 活性化の 提案 (225)	火山の見学・ 学習施設	107	<p>今回の噴火を生かして、火口見物等観光に力を入れた方が良いと思う。</p> <p>有珠山のように火山を観光のメインにし、専門的な火山知識を人に伝えられるような人材と育成と、宿泊施設の改善を考えるとよい。(サービスの向上、そのままの自然を生かす。)</p> <p>火山活動について体験学習できる場を整備して欲しい。</p> <p>火口の展望施設。</p> <p>ともかく見る所が少ないのが三宅島。噴火が収まったら世界でも珍しい噴火のため、噴火科学館を作る。</p> <p>観光資源は、噴火によって、逆に増えたのではないか。被害箇所でも旧阿古小中のように、残せるものは残して、どんどん活用するべきだ。</p> <p>雨でも観光客が見れるような施設も必要(火山博物館のような)</p>
	三宅島らしさ を出す(自然 をPR)	62	<p>島の生活を都会の観光客が体験できるエコツーリズムの推進。島の風情を探訪できる散歩道を作る。(自然だけでなく、集落のたたずまいを感じられるもの)</p> <p>もっともっとアピールを。特に、モイヤー氏については、活躍して欲しい。モイヤー氏は、昭和37年の噴火の時から島のために働いてくださっている。観光、(バードウォッチング)のためにもモイヤー氏に活躍を期待する。</p> <p>三宅の良い所をもっとアピールし、自信を持てる特色が必要だと思う。(郷土料理、宿、マリンレジャーなど)</p> <p>従来と同じく、自然を前面に出した観光を行なう。</p> <p>都会に住み、つくづく自然の魅力を改らためて知った。早く緑を取り戻して、だれもが“ふるさと”の如く、都会から実家へ遊びに帰ってくる…そんな奮意になれる三宅島を観光のモットーに出来ないだろうか。三宅全体をいこいの場としてつくりあげたいと思う。</p> <p>自然をアピールする観光。利便は必要ない。本当に自然と親しめ人々の島に。</p> <p>自然を完全に残したゾーンと、人が居住・生産するゾーンを分け、自然ゾーンには夜間の人工光を極力避け星のよく見える状態にし、それを目玉にする。</p> <p>郷土資料館、(200年噴火をきちんと伝える施設)火山資料館の整備、エコツーリズム拠点整備、をやること!←まず観光客は火山を見にくくと思います。</p> <p>火山島ゆえの景観、温泉、空気の良さ、人情の島、全国の方からご支援してもらったお返しにやすらぎの島みやけ島で身心をいやしてほしい。火山島をPRして誘致する積極性を培いたいです</p> <p>年間通して客が来るような、イベントや、キヌサヤ、あしたばのつみ取りをコースに入れるとか、キヌサヤ、あしたば栽培をオーナー制を設ける。村が主体となって空地利用</p>
	マリンレ ジャーの充実	30	<p>イルカウォッチングについて、しっかりとした団体の育成に取り組んで欲しい。地元の産物を必ず民宿で提供できるような、島の良さをもってアピールできるよう取り組んで欲しい。</p> <p>長大路池海水浴場の整備は必ずしてほしい。最低でも坪田港の整備は一番先にしてほしいと思います。山が当分おろなので、イルカウォッチングだけでも出来ればと思う</p> <p>従前の方法だけでなく水中探査船を作って未開発の海中景観を観光客に開放する事も一つの考え方である。発想の展換を計って新しい観光体制を対応して行く事を考えるべきである。</p> <p>一時的には、噴火関連の自然、被災状況も目玉にはなるが、やはり海の活用も。</p> <p>目的の遊びを持って島を訪れる人が多いので私の宿も釣宿を営んでいるが常連さんは30年来続いている。釣り人が必要とする事に耳を傾けてほしい。渡船、地磯、船代、エサ、イベントなど</p> <p>海岸のダイビングポイントにもダイバーに必要な設備をつける。・年間の観光は、ダイビングと自然(火山など)なので、それを中心に客を呼ぶ環境をつくる。</p> <p>海洋学校とかダイバー教習所とか、水中観察船などの導入も</p>
環境への配 慮	15	<p>ゴミのない、美しい島を再現させる。観光客は勿論だが特に島民にもポイ捨てが多く見受けられる。ゴミを捨てたら罰金を村として取る位の厳しさが必要。マナー改善を計れ!</p> <p>これほど美しい自然環境はない。特に海はきれいに!</p> <p>島中のゴミ(車の不法投棄や海岸等々)をなくし、電柱や送電山すそをはする電線等を地中に埋め景観を良くする。・エコツーリズムを基本としリピーターをつくる様に。</p> <p>衛生面(下水道設備、ゴミ、廃車etc)の設備を整え、1人1人が意識をもつ事からはじめた方がよいと思う。</p> <p>観光の目玉である自然環境を安易に改変して欲しくない。特に火山灰の処分は慎重に…。</p> <p>自然を保護しながら観光事業を行う</p> <p>森〜林〜道路〜海岸の樹林を造る。自然を守って、設備の過剰をしない。</p> <p>被害にあった雄山の自然を、観光スポットにしてほしい。自然をこわさず、利用してほしい。</p> <p>島内のゴミを無くして、植物や、花を増やして、島をキレイにする(特に、釣り場のゴミが多いので)海水から、自然塩を作って、販売してはどうでしょう</p>	
温泉開発	11	<p>温泉を各地区に一ヶ所以上設け、温泉めぐりができるように。</p> <p>島全体部落に温泉(共同)をつくってほしい</p> <p>海岸周辺に野天風呂(温泉)を設置してはと思う</p> <p>新しい温泉地を探し、設備作りと、ホテルの建設</p> <p>療養を兼ねた温泉保養システムをつくるなど</p> <p>温泉利用、何ヶ所も作らないで、遊び場の様な、体験学習の出来るような所を…。</p>	

H問4-4 観光事業

大分類	中分類	件数	回答例
観光事業 活性化の 提案 (20)	安全性の確保・PR	6	<p>万が一のためにも防災、避難を安全に、確実にしておく必要がある。</p> <p>安全なところであるとアピールしてほしい。</p> <p>自然相手のことだが、安全が第一で、それから考えた方がよい。</p> <p>帰島後すぐ観光客を島によべないのではないかと思う。客の安全面が確保できるのなら客を島によんでもいいと思う。</p>
	年間・全天候で集客できる施設	4	<p>全天候型の観光環境を建築する</p> <p>一年中天候に関係なく楽しく釣りが出来る施設作る。もっとも、之は言うまでもなく有料である</p> <p>夏だけでなく冬にも客を呼べるような(あるいは1年中)ものをつくりあげる。(釣りをのぞく)</p> <p>釣り、ダイビング以外で年間通して観光客がよべる様な体勢づくり。</p>
	その他(新しい観光事業の提案など)	10	<p>外部資本を導入し、目玉となるべき施設を整備する。(例:牧場+牛乳工場など、噴火記念施設など)</p> <p>観光事業は自然観光のみでは、繁栄は低い、これからの観光は適地地域には施設観光を計画され島の観光発展のため頑張して下さい。</p> <p>バリアフリーを追求し、障害者の人たちが多勢来島できるようにしたいと思う</p> <p>特に観光の目玉となる所が少い。緑だけでは客は来ない。入場料を取って家族連れで楽しめるような施設とが出来たら客も増えると思う。</p> <p>楽しい施設がない。もっと子供から大人まで遊べる場所がほしい。</p> <p>よくはわからないが年代にそっての観光事業を考えて、計画してほしい。</p> <p>今までにない。年1回できる行事をやってみては。(自転車のロードレースみたいな)都知事の言っている、カジノもできるのであれば。</p> <p>公衆トイレなどの充実、モダン化</p> <p>特産物をもっと作る</p>
観光復興 対策 (110)	島全体で観光を考える	29	<p>島は観光事業がなくなれば寂れてしまうので島民が協力して進行すべきであると思う</p> <p>島全体で観光事業についてしっかりした考えをもつことが大切だと思います</p> <p>島の経済キパンです 今までみたいに口先だけの観光ではダメです 今までの観光は方向がちがうのでそれは観光に関係のない人達も入っていたからではないでしょうか</p> <p>一般の人を入れた観光プロジェクトを作り、宿泊施設等を根本から考える必要がある。</p> <p>農林水産他観光商工すべての産業がいっしょになって取り組んだ方がよい</p> <p>たくさんの可能性を持っていると思うのでいろいろなアイデアを出し合せて島民が皆で力を合わせて観光事業を創っていったらと思う。(自然、温泉、農漁業商工、福祉、みんな観光に結びつく可能性をもつ。)</p> <p>もっと農、漁など協力して、陸、海と観光地の整備。</p> <p>観光事業従事者だけでなく住民全体で盛り上げていかなければいけない。</p>
	交通機関の充実	28	<p>交通特に飛行機の就航率が一番ネックである。冬期の欠航が何んでも問題がある。三宅島の自然の観光ルートの整備が出来ていない。先進地の観光ルートは良く整備されているのに三宅島は遅れている。</p> <p>飛行機、船の便をふやし観光客が来る事を楽しくして、三宅島を明るくしてほしい。</p> <p>空港や港の整備をして欠航を少くして観光客が安心して遊びに来られる島にしたいです。</p> <p>交通の便が確保されなければ、観光客の足も遠のいてしまう。</p> <p>現状程度の力の入れ具合では間違いなく他島に観光客がシフトする。例えば、どうして夏期だけでも村営バスを増発しないのか。最終バスがなぜあんなに早い時間なのか。</p> <p>村営遊覧船を運航する。</p> <p>村道雄山線を整備、有料化する。</p>
観光復興支援・協力	19	<p>国や都に力を借り、植物園などを作る。</p> <p>島の経済は、農林業、水産漁業、商工業、観光産業等一体化のなかで成立している。従ってこれらの産業を有機的に機能させ、島の産業経済の発展を図る行政の指導が欠かせない。</p> <p>今までの欠点を良く検討し、公的な資金をバラまくのでは無く将来的な内容を今検討しその為のプロジェクトを作っても良いと思う。ただ頭の中だけの講師はやめて地域性を良く知った人に!</p> <p>伊豆七島中三宅島が一番遅れていると考へられる。行政官の努力を要望する</p> <p>民宿が再開できるよう支援してほしい。</p> <p>行政がリーダーシップを発揮して、その時限りでない展望をもったプランを立てて行って下さい。行政と住民とでプロジェクトチームを作り進める!!しかし、金をかけなくても皆の意識改革でできることがまだまだたくさんあります。</p> <p>島の重要な産業、行政支援を最大限に</p> <p>御前島の様な村営の宿泊施設も必要と思う。併せて来島者への割引村からサービス出す。</p> <p>観光施設は村営のものを多くし、村民が安心して就労出来るようにしてほしい。</p> <p>民宿業を営んでいたが、帰島した場合、何軒の方が営業をするのか心配です。Uターン、Iターンについて考えていただきたい。※受け入れ施設がないと、お客様がきたくてもこれない。</p>	

H問4-4 観光事業

大分類	中分類	件数	回答例
	観光事業者の努力・連携	17	<p>噴火罹災前の観光事業は産業として、どの程度の経済力が有ったのだろうか。個々の観光事業者について、採算の取れていた経営者は、どのような事業推進を図っていたのか。逆に年々売上が低下し設備改善等出来ない状況となっていた原因はどこに有ったのでしょうか。これからは、実際に事業を営んでいる経営者 また、今後、事業開始を計画している本当の関係者を中心に復興計画を進めるべきと考えます。</p> <p>ビジョンをもってすすめるべき。ただ施設をつくってイベントを開くだけで、意味がまるっきりない。もっと研究すべき。</p> <p>今年の夏に八丈島に行って来ましたが、温泉も沢山あり空の便が多いのか皆リッチにレンタカー利用も多く民宿の島料理の充実さにびっくりしました。が、私は三宅の素朴な自然の方が大好きです。やはりそれを知ってもらいたいので又観光に力を入れる為、皆関係者はこの都会で沢山勉強をして帰りましょっと観光事業など従事している人たちに自覚を持って取りくんほしい。何んでも金になれば良いという考えを。</p> <p>全国の観光地の状況を見ると三宅島の観光業者の受入れサービス面抜本的な取り組みが必要だろう。設備待遇面を勉強すべきだ。</p> <p>今のままの観光では、ダメである 何か違った新しい観光の目玉が必要 三宅島にしかできない物新しい物がこれからは必要。村全体での活動がもっとあると良い。他の村、町観光場で、何を、行なっているのか、もう少し見て、勉強すべきでは</p> <p>他の島と比べると大変おくれをとってしまったので帰れる様になったら観光にたずさわっている人達が今まで以上になにか考えないと、いけないと思う</p> <p>補助金で今までやっていた事業をもう少し考え将来性のある物を作って欲しい。たとえばテニスコート、雄山建物、もっと伊豆の灯台の辺の皆さんがいきやすい場所に作った方が利用かちがあるのではないのでしょうか?作ってしまえば良いではなく、それを維持するお金が毎年かかるのを考えてほしい。ばらばらに建てないで一ヶ所まとめていくつか建てる。</p> <p>今迄のような民宿経営は成り立たない 根本から考え方を改めて島全体で観光と云うものを考え直し島全体で客の誘致に当るべきである</p> <p>保護ばかりでなく公平な競争を</p>
	人材確保・育成	7	<p>島を案内し、説明できる人材を確保。</p> <p>噴火後の降灰の儘の島自体を観光資源としてガイドの勉強に励んで居る方が有ると聞く。大賛成。村全体でBack upを。</p> <p>雄山火口への観光道路の整備と(火山観光ガイド者の育成)ボランティア活動について。(シルバー人材センターの活用)</p> <p>専門的な火山知識を人に伝えられるような人材と育成を。</p> <p>シルバーボランティアを使った観光ガイド</p> <p>三宅島の火山活動というものをきちんと研究し、説明できる専門家の常駐。</p>
	PRの努力	7	<p>今の所、これと言って観光事業はおこなわれていないと思う。自分が子供のころは、多くの観光客を見かけたが現在はイルカウォッチングの客だけではないのか?もっと島をアピールすべきだ。</p> <p>今こちら(東京)で多大な宣伝をしていると考え方を改めてみると、やり方ひとつで帰島できた時には、観光ブームを作り出せる可能性もあるのではと前向きに、良いイメージづくりを準備していく必要が有る。</p> <p>テレビなどでPRに力を入れる。</p> <p>三宅島の観光事業は他島より力が入っていない。東京に来てもセンデンの一つもなし</p> <p>三宅島という島がどこにあるのか知らない人もけっこういる。20年~10年前は行ったが…というのが最近行ってないという話も聞く。リピーターは少ないのかもしれないのでは…もっと島の良さをPRした方が良い 若い人がたくさん来る島になってほしい</p> <p>観光アピールをすべきだ。</p> <p>他の伊豆諸島との協力した客へのアピール。</p>
	島外事業者との協力	3	<p>島外の資本が入ってほしい</p> <p>外部資本を導入</p>

H問4-4 観光事業

大分類	中分類	件数	回答例
職泊施設の の対策 (55)	宿泊施設の サービス、料 理等の改善	33	<p>今までのサービスや料理では客は来ない←値が高い。地のものを使い工夫すべきでは？</p> <p>島内の宿泊施設のレベル向上。</p> <p>島内の宿泊施設のレベル向上。</p> <p>思い切った意識改革が必要、特に食べ物不味な所には人は集まらない</p> <p>旅館、民宿等においてもてなしの心を大事にし島の食材(農・水産物)を提供することが重要である。</p> <p>来島していただく迎え入れるという基本に戻って料理等もう少しもてなすという心がまえで観光事業をすすめていくべきだと思う。</p> <p>郷土料理の工夫。宿泊施設の改善。</p> <p>民宿等は島の漁貝類を生かした料理等の工夫には是非つとめてほしい(常々友人等より指摘されています)自然と料理が観光の目玉と思います</p> <p>民宿などの食材を考えた方が良いと思う。</p>
	ホテル、大型 リゾート施設 の建設	17	<p>民宿を縮小して、大規模リゾートホテルに改築しなければ、共倒れになると考えられます。</p> <p>年々宿泊施設の数が増えているように思いますがまず先に村営の大型施設を造り、いろいろな面でモデルとなるものを作る。特に食事、サービスには島へもう一度行って見たいと思わせる様な三宅でしか出来ない事を。</p> <p>宿泊施設が少ないので大型の施設があれば良いと思う(村営で作ってほしい)</p> <p>空き家等を利用し、車や自転車とセットにして(バスの本数が少ないので)1週間くらいの滞在型リゾート地とする。(お弁当を宅配するとか)</p> <p>たとえばモーテル(ビジネスホテルの様なもの)を作る。</p> <p>地区のエゴなくし 大々的な施設をつくる事</p> <p>現在に合った環境の整ったホテルを建設、営業。</p> <p>ホテル等の誘致が必要と思います。</p>
	宿泊施設の 早期整備	5	<p>帰島後は噴火の後を見たいと思う観光客が集中して来島してくると思われるが宿泊施設等の受け入れ体制が不足すると思われる。宿泊施設の整備を整えるべきである。又、その後の観光対策も計画すべきだ。</p> <p>観光客が三宅島にきても泊まる場所もない状態では来ないと思う。</p> <p>若い人が島に全部帰ってくれることをのぞみます。民宿の受け入れ態勢が心配</p>
その他 (7)	今までと同じ でよい	7	<p>もと通り昔の通りにしたい</p> <p>今迄通りで良い</p>

H問4-5 漁業

大分類	中分類	件数	回答例
漁業の活性化の提案 (201)	養殖	46	養殖漁業に力を注ぐべきだ
			少ない資源をとるだけでなく、育てる漁業に力を入れることだ。
			貝の養殖、今からやっていく必要あり。
			自然の漁獲だけを頼らず、養殖産業を考えるべきであると思う
			養殖出来る物は養殖して、通年食することが出来るようにしなければ今以上に遅れてしまう。
			トコブシ、伊勢エビの養殖(放流は無駄)
			漁業者は安定した経営を計るために、従来からの漁業から栽培漁業に切替える事が大切である
			トコブシ、天草はだめだから養殖出来る多種で実験して何が合うか選定するしかない
			従来の回遊漁対応の漁業でなく、栽培漁業を推進
			島内の魚介類の流通システムの改善
観光漁業	32	夏の飛び魚すくいなど観光漁業の開発 観光に結びつけた方法も考え出す。イルカウォッチングのみに限らず、栽培漁業とか 漁港は阿古だけにする、あとの漁港はレジャー用か囲って蓄養施設にする。 近々の入江に魚を集めて水族館のような物を作り観光にも良いと思う 定置網、おさかなセンターを観光スポットとして活用。 当面、レジャー面(ダイビング、イルカウォッチング等)が主流だろう。 漁業・農業に共通するが、他産業である、観光商工との協調が必要。 朝、夕、とれた魚と朝市、夕市を開いて島民や観光客に三宅島みやげとして売ってはどうか。 釣をたのしむ人達が多いと思います。観光業者もとも漁業者も釣人達の受入れにもっと力を入れて観光漁業のようなことを進めてもよいのではないか。 観光と結びつけた漁業を考えてほしい。伊豆に見本はたくさんある	
人材の確保・育成	32	若い人を育成する資金面や研修制度を確立する。 島民、島外民にかかわらず組合員にして漁のやる気のある人を島に定着させる。 高令化・後継者対策は官民一体となって推進する 他の島がやっている様に全国から漁師をやりたい人を募る。	
根付漁業の対策(伊勢エビ・トコブシ等の放流)	17	打撃のあった地域への伊勢海老放流トコブシ稚具の放流等全面復活 漁民が高齢の人が多から、投石等を行い、根付漁業で収入を得られるよう。 いろいろな物の放流事業をして欲しい。 とこぶし、伊勢エビ放流の推進。 予算投入が早い又根付業を	
加工品産業の育成	14	原材料を出荷するのではなく加工したものを。 三宅島の物産を利用した加工工場を建設。加熱処理、乾燥施設もあり、くん製お茶つくだ煮等出来ないだろうか。農産物と水産物の共用で使用出来る施設にする。 加工産業(大漁のときの魚を加工) 鮮魚の販売ばかりでなく、雑魚の加工特産化に取り組む	
乱獲の防止	9	まずは乱獲を止める処置を講ずる。 水産資源の確保と、観光客の乱獲が目立つので、規制をしっかりとやって欲しい。 島の資源を守り育て大切にしながら、島ならではの漁業が継続できればと思う。 海老やとこぶしを小さいのをとりすぎている 島の周辺で大会社の底引網漁法の禁止。	
漁業従事者の努力・努力が必要	9	個人的な漁業も必要だが、もっと大規模な漁業にして、まずは一人ひとりの漁業従事者が豊かになる様な漁業にしなければだめだ。 各地区の専用区をなくし共有区にした方がよい 他で行なってる漁業を勉強し新しい漁業を。 漁協が1つにまとまり、将来的な計画をたてる。若い人も参加できる方向性にする。 各地区の利益にこだわらず全体としての発展を優先して行なうこと。 しっかり仕事を出来る役員を希望したい。漁民の心を理解する人に。 漁協も一ヶ所にして、第一種、二種、三種の漁業権も一本化にして行き、定置網も今までの場所とは違うところに入れたら魚等も水揚げがあがってくると思う。	
特産物を考える	2	島の特産物を考えるべきである。 魚種の絞り込みと特産品化(関アジ、関サバのような)	

H問4-5 漁業

大分類	中分類	件数	回答例
漁業復興 対策 (54)	漁港・漁場の 整備	19	港が整備されれば魚は豊漁になると思う。
			漁港整備の拡大。各漁港毎に整備するのではなく、整備各所を確定し集中整備が必要と思われる。
			天草のほし場の灰の除去を早めにして欲しい。
			トコブシ、イセエビ、てんぐさ産業の為に、海岸流入の泥流除去が急務である。
			島の漁港を整備し、島に入れないにしても船を港につけられるようにしたり、坪田などの漁港など沈下した港の整備などしてほしい
	再建支援	17	土砂が海に流れこみ漁業の被害大きいと思いますので対策をお願い致します
			すぐに仕事が再開できる支援があればと思う。
			海の清掃や灰の除去作業が漁師の人たちの仕事として出来るといい
			泥流によって被害を受けている漁場の整備を漁協に補助の事業としてあたえる。
			噴火以前の漁協への融資や漁民への色々な融資が返済されず今回もそれが予想つく。返せないのだからとひらき直る人も居ると聞く、貸付にも返せる程の金額をくれるのではなく返さなければならぬ事も、教えて欲しい。
	早期復旧	13	三宅島の海が以前の海に戻り一日でも早く漁業の再建ができることを望みます。
			従来の生産体制に回復
	漁場の調査	5	近海の魚貝類の生態調査
			火山ガスが有害であることが、今の段階で世間に知れているので、それを含んだ火山灰が泥流となり海岸へ…。そこで取れた魚貝類が、はたして噴火前と同じような、取引ができるかどうか?徹底的な安全の確認を望む。
			魚貝物、天草等が生存出来るか、海中の被害を調査して欲しい。
その他 (10)	今までと同じ でよい	10	今まで通りの漁業で良いと思います。 噴火前の状態で

H問4-6 農業について

大分類	中分類	件数	回答例
農業活性化の提案 (152)	レザーファン、あしたば、里芋等、従来の特産物の充実・PR	51	火山灰大地で育成する、あしたば、里芋等のおいしさをおおいにRRしたいです。
			常春三宅ということで本土では出回らない時期に付加価値の高い農産物(キヌサヤ、花etc…)をもっと力を入れるべき。
			生産量が少ないなら更に高品質化して「こだわりの一品」を目指しては?
			直接スーパー等へ調理方法の売りこみ等、産直の郵送等 「三宅のアシタバ」を産直でスーパーなどと提携して大々的に売り出す。民宿は必ず、三宅の土産として提供(割安有料)。
人材確保・育成	29	帰島後の耕作でなく農業で生計する希望する者に対して、現地点で耕作地を貸与する等、技術保持と耕作物の確保に努める事が必要と考える。	
		経済団体の機能強化(特に人材面)	
		若い人達が花、野菜などいろいろ研究する事ができるような場所などあったらいいと思います。	
		噴火以前より地場産業のレザーファンは輸入物に押され収入が少く特に若い人が安ければ出荷せず別の仕事をしている方が多く、他事ながら心配していた。帰島後も若い後継者を優先してパイプハウス、レザー苗等配布するような事があれば専業農家の中高年者は救われない。今までのように生産者との話合、特に役場、支庁産業課がそっせんして働いてもらいたい。机の上の計画だけでは村の復興は望めない。年はとってでもまだこれから農業をやるといふ専業農家がいる事を忘れないでほしい。 後継者、新規就農者への支援策の充実。 三宅高校との連携を図り、生産者で本気になってやらないと若い人はなかなか投資しない。	
共同経営	24	年齢的にも個人でたちあげるのは困難と思う。共同で地にあつた生産物を考えて欲しい。	
		島全体で、何か作り出すようにみんながそこで働いて、お金をえるようになると良いと思う。(島全体の活動を)現在の、元気農場などは、良いことだと思う	
		一定の基準を満たした農家に集約化した農地で効率の良い農業を展開して行くのが基本だと思う	
		村営の農場等を作り、競争力のある生産を。 集団でハウス等を作り規模を大きくして行く。 小中学校を1つに統合し、廃校跡地に温室団地を建設する。中核農家は、これを借り受け、花芽観葉を栽培する。自給的農家は一軒一頭の豚を飼う畜農業を行う。 生産物の出荷体制の強化(市場への一般的な出荷。個人個人の出荷では、他との競争に対応出来ない。)	
流通システム	20	協同農業、温室などたくさん作り、商店などに安定をして品物を出せる。島の中で作る人、買う人、これなら安く品物も買うことができると思う。	
		商工業者とタイアップして島内需給体制、島内産島内販売消費を進めたい。農産加工の分野も視野に入れるべきだ。例えば学校、官公業も島内産のお茶でまかなう。島外から入れない等	
		島内で、安く早く流通させるしくみを作る。そうすれば、無駄なく、観光にも反映できる。(個人では限界があるので、三宅ブランドを確立させる。)	
		販売路の安定化	
新しい特産物	16	三宅島は沖縄と気候が以ているのでドラゴンフルーツなどの栽培をする	
		災害を機に新たな生産物の検討も必要ではないか。	
		島の気候等をいかし、更に単価的に高い物(例えばフルーツ、生花等)を作っていければ良いと思う。	
		観光と密着した島特有の新しい作物	
		三宅島ブランドの品物を開発してインターネットで産地直送といういろいろな可能性にチャレンジして欲しい。	
		漬物などの加工食品、保存食品について研究する。	
		畜産は誇るべき島の産業であった。狂牛病問題が起っている今、健康な牛作りを目指し、も一度島の畜産について、見なおすべきではなからうか。定年退職者の就農希望者の受入れを検討する余地はないか。 例えば、島全体の農産物が全て無農薬、有機栽培のものとするなど、三宅島の農産物は全てそういうものと位置づけると反響が今以上に高いのでは? 東京で売れている物、花や園芸類などに目を向けた方が良いと思う 1番早い作物は豆だと思う。豆は6ヶ月、アシタバも良いが物に良っては1ヶ月かかる。又観葉物も良いと思います。	

H問4-6 農業について

大分類	中分類	件数	回答例
	農業従事者の努力・協力	12	<p>島民の食卓、民宿の食卓は島でとれた野菜で一杯になるよう、農協で考えていくべきだ</p> <p>農業者にまとまりがない。農業で発展しようとするならば、その人達で協力してやるべきだ。農協が何をしていたか。ただの販売事業だけではなかったのか。</p> <p>技術者の意見を聞く会を設ける。</p> <p>農協役員は現に農業にたずさわっている人がなるべき。</p> <p>三宅島は農業関係の都の指導施設が有るが何にも考えていないのは残念である早急な対応を考えるべきである。</p> <p>各地区の利益にこだわらず全体としての発展を優先して行なう</p> <p>島全体としてのまとまりが必要。レザー等共撰で販売することが必須。</p>
農業活性化の提案(19)	ハウス栽培への転換	10	<p>ハウス産業を振興させるべきである</p> <p>熱エネルギーを使ったハウス栽培を考えないと今の島の土では作物は出来るかどうか?</p> <p>集団でハウス等を作り規模を大きくして行く。</p>
	観光農業	9	<p>観光農業……アシタバ摘みを目的とした、観光アシタバ園</p> <p>島外の人への農地の提供。(例、委託オーナー製=全国に多くの例がある)観光を兼ねた人の往來を促進する。</p> <p>観光客に島の魚介類、野菜、芋、野草を味よく提供すれば、すごく喜ばれると思う。</p> <p>農林水産業研究所(みたいなもの)をおき、島民と一体となって研究開発をすすめる。「農作物のオーナー仕組」の様に植付けや収穫等に本土のオーナーが来て島民といっしょに農業が出来る仕組みづくり</p> <p>観光に結びつけた農業も考え出す。イモの収穫体験とか、夏野菜収穫→とりたて料理(食事付)とか「元気農場」のような都会老人の田舎体験=健康増進ツアーとか</p>
農業復興対策(110)	農業再開のための支援(除灰処理等の援助)	72	<p>灰やハウス(ダメになったもの)撤去などを行政で行ってほしい。</p> <p>(2年くらい)収入の道がかかるので住宅等の事、島の状態が心配等で今の所なんとも云えないが産業課が主体となって農家の意見をきいて進めてもらいたい。</p> <p>私有のハウス助成事業のなかに建設費を含めることによる、農家所得の確保。</p> <p>降灰除去作業は大変な労力いると思うが公共事業として支援金を頂き、畑を耕作し準備している間、道路、公園、山、畑の降灰除去や復旧に従事出来る様な体制をとってもらいたい。</p> <p>帰島後の収穫期までの支援システムを作る必要がある。</p> <p>高令者、若者用農業経営に区分をし、高令者には資本はかけない方法で、若者には安定した農業経営が出来るため設備整備支援を</p> <p>泥流被害を受けた所はもちろんの事、火山灰が多少なりつもってる時除去作業やその後の灰をどこに処理するか自分達では大変すぎるので、行政に支援してもらいたい</p> <p>現在復興計画を作成中と思いますが、個々の農業経営者に対しての被害状況(損失額等の試算)の調査はどの程度すすんでいるのだろうか。今後自力で再建できる状況か又、どの程度、公的機関で支援すれば再建可能か個別の再建計画作成が三宅村の指導が必要かと思ひます。</p> <p>農業用水を早く設備しなければ農業は出来ない</p>
	火山灰・土砂への対応	20	<p>畑に積っています火山灰を取り捨てる作業が先決作業であります。除灰作業は長時間かかると思ひます。</p> <p>除灰作業が終りましてから、作物の栽培に入ります。</p> <p>帰ってから、畑の降灰をとっていかなくてはならないのでちょっと考えてしまう。</p> <p>農地の降下火山灰は土壌中への大量混入は好ましくないと云われているがこの対策はどうなるのか</p> <p>火山灰や泥流などがあつた農地がもとに戻るのか 災害前と同じ様に作物は育つのでしょうか</p> <p>降灰で土地も荒れて居ると思ひます。農地の土壌検査等詳しく知りたひです。</p>
	火山灰に強い(土壌にあつた)品種の研究	15	<p>従来の方法に火山灰でも出来る植物があるはず。そういうものを研究してはいかげでしょうか?</p> <p>作物の変更など専門家と一緒に研究してもらひたい。</p> <p>島に適した高級な作物の導入。調査、試作、研修などを、農事試験場と連携する。</p> <p>ガスの来ない所で、火山灰混入土壌と除去地での各種、栽培試験を早急に。</p> <p>適地、適作となる作物を村等が導入し島の特産物として全農家に作付けるよう指導すべきである。</p>
	早期帰島	3	<p>島にもどり農業をしたい人がいれば早目に帰し、土地の開拓をさせるべきである。</p> <p>帰りましたと言ってもすぐ収入が得る事が出来ないで今からでも定期的に帰してあげて耕作するなり、帰ったらすぐ畑が役に立つよう1つ1つ出来る事からやっていかないと農業をやる人がいなくなってしまう。</p>
その他(7)	今まで通り	7	<p>今まで通りでいい</p> <p>従来通りで無難である</p>

H問4-7 商工業

大分類	中分類	件数	回答例
商工業活性化の提案 (129)	流通システムの改善(島の物価が高い)	39	島の商工業者商店は物価が高いと思います。 物価を安くして欲しい。都の23区並みに。 サービス業が特に良くない 島で物が多く高価である。ガソリン代、共同仕入等を考えては。 都内の小売価格とあまりにも差がありすぎる。これは輸送費の問題だけではないと思う。 商工業者の育成、特に島民は都会生活の中で物価の安さと品の豊富さになって来た、過去の商売では事業が厳しいと思われるのでそれらに関する指導育成が必要では 流通経路を確保するシステムが必要 良いもの(気に入るもの)が無いので商工業者は通信販売形式的なものを取り入れて営業したらどうですか(会員制?)コストのかからない(少ない)産物の開発 安く販売する方法を模索する。個人での利益でなく、全体としての連携した利益を環元していけるようなシステムを作る。
	大型店等の誘致(共同経営)	18	商店の数を制限したり店の大形化(共同経営)を考えた方がいいのでは。 小売業を総合集約して、大型店(スーパー)を誘致するか。コンビニ方式を推進するか。いずれの方法しか経営定義する道はないと考えます。 集落の中は狭いので、もっと広い所に駐車場を設けてミニ都市型のスーパーを作った方が良い。 生活協同組合方式にして島内を一本化する。
	観光施設の整備	15	観光産業と密接に連携し、観光客の誘致に力を入れるべきである。 島の観光産業を発展させる為には共に商工業者の協力がなければならないので特に商業者は他の島より良い品を安く生産させることが必要条件となる。(特に避難中皆の者が物価の安い生活に馴れて来ている現況のため) 観光の振興には宿泊施設特に(民宿)の充実が急務高齢化が進んでいるなか、施設の借上げ整備、若い希望者を全国から募集しては。 民宿がどこにあるか知らない島外の人が多い。民宿のアドレスが全部分かるPR・周知用小冊子を大量に官、企業、団体に配るほか各民宿がホームページを作り、全国へPRを、多くの来島者を迎えるサービスをする。その時、必ずアンタバ料理(テンブラ中心に)を提供する。
	特産物の販売(農作物等)	14	島の商店は島の特産品を多く売るようにした方がよい。 三宅島でなければ買えない三宅島特産品、民芸品、お土産品などを奨励して製作 観光客を目標とした新しい三宅島の特産品を開発し、おみやげセンターのような場所で売ると良い。また、それらをインターネット等で通信販売することも良い 加工食品の生産にしても、くさやだけでは駄目。地酒を作らせ、地酒を島内消費にさせてなるべく島外からはいれないとか、島内産地酒消費を進めていくべき 明日葉、漁業の魚等村の特産品を売る。東京に店舗をつくり普及に村は力を入れる。私が事業にしようとする畜産品・村の観光宣伝もおこなう。イギリスでは農家が都会の人が自然に親しみ参加する農業民宿をやっている、これを勉強せよ。
	商工業者の努力・協力が必要	13	帰島後、すぐ営業可能なように、各部門ごとの、マニュアル作成、研修会、検討会を行ない、今から活性化へ向けて方向性への指導を商工会等で行なう。(今までどおりの再開に向けて) 「島だから…」と云う気持ちを捨て「島だって」と云う考えで切り開いて行かないと消費者は賢くなっている。商店主は連携して新しい商店作りをして頂きたい。 島民も東京で生活し三宅島の物価が高いと感じたと思う。東京で避難している間に仕入先や物品の品質管理など勉強して帰島後いかしてほしい。 正当な競争原理の導入、意識改革(売ってやる、やってやるの意識をなくす)
	特産物の販売(火山灰の利用)	10	火山灰を復興の足がかりにしようとするのが有効利用を深る研究を目指している、と新聞で知り三宅島の特産品になるよう願っている 灰を利用した産業をおこすべき(コンクリート他) 火山灰を有効利用する方法。ガラス、陶器等…研究すれば特産品として良い商品が開発できるように思っています。
	人材確保・育成	8	もっと、働く場所を増やし、誰にでも参加できるように 後継者の育成
	販売方法	5	島にコンビニほしい。需要がそれほどないかもしれないが、コピーをしたい時とか、夜やっていると助かる。 島は朝になれば東京のデパートとちがって開くけれど夜やってくれると安心しそう。 避難前に毎月開いていた朝市は是非続けてほしい。 商店など月に一度〇〇ディーとしその日一日だけでも活気づく日があれば少しは違うのでは…… 世の中、カード時代、もっとカード類を使いやすく出来ないものか 現金を持たない人が多くなっている 島に戻る時にまた新しい物品を購入することが増えると思うので、郵便物や宅配サービスの充実をしてほしい。
	他産業との協力	3	商店が部落の中になくなった場合、漁協とかJAが車で回って下さると良いのでは 農漁協と一体となった生活協同組合方法が良い 土建業も公共事業だけではなく、園芸観光、産業面においても進出して村の活性化に。
	新しい産業の導入	4	老人福祉産業など新たな産業誘致を。 基地や新しい産業の動入しなければ発展しないと思う。(人口の増加)

H問4-7 商工業

大分類	中分類	件数	回答例
商工業復興対策 (64)	再建支援	44	<p>農業、漁業と比べて、商工業者への支援は現行法の中ではとても弱いです。帰島が可能になった場合、行政は支援策を共に考えていって下さい。</p> <p>商工業者の復興は金融面で大変と思う。したがって現状の制度資金返還及び利子補給等の支援に従事者の意見を十分に聞いてあげて下さい。意欲をもって経営の再建に取り組めるような公的支援をお願いします。</p> <p>金融業への借入金や返済金の問題もあり、相談窓口の開設と充実を望む</p> <p>一般商工業者は、設備を含めて、大きな負担を強いられる。船賃を含め、行政援助を望む。</p>
	商工業者が話し合う機会を作る	10	<p>復興できるかどうか、きっと商工業者の団結力で決まると思うので、話し合いを通じて助け合う関係を創って欲しいと思う。又、公に対する援助の要請もまとめて一丸となって欲しい。</p> <p>今後商工会等指導で商工業者の個々の復興再建計画を事前作成して備えるべきと思います。</p> <p>復興の為に商工会等が中心になって商工業関係者をまとめて、行政との話し合いを続け、新しい三宅島を作る足がかりをつけていって欲しい。又話し合った内容を全島民(あるいは全関係者に)即、配布して情報を公開してほしい。</p> <p>同じような小売業が多く共倒れの傾向があったので、もっと全体で話し合うことが必要</p> <p>一部の人間の意見に左右されない。島のための商工会議を設立すべきだ。(島外者の意見も入れるべき)</p>
	早期帰島	10	<p>復旧工事を進めている今の時点から店を開けるべき</p> <p>帰島出来てすぐ商売(仕事)が出来ることは絶対に不可能だと思います。なるべく早やめに島に渡り片づけをしなくては、島民のくらしにも影響すると思います。</p> <p>早期に全島帰島を計らなければ若者は帰島を断念して生活の場を別の地域に求め始めている。</p>
その他 (18)	帰島者の減少への不安	18	<p>帰島する人口が最大の問題</p> <p>若い人がどれだけ帰島するか</p> <p>1人でも多くの人たちに帰ってほしい</p>

H問4-8 福祉施策

大分類	中分類	件数	回答例		
福祉施設の充実 (141)	福祉施設の増設	95	高齢者が増えるので福祉施設が充実していなければならない。このため社協の活動。特養ホームを活用し快適な老後を過させる施設が必要。 特に高齢化対策が必要デイサービスセンターの建設充実 老人ホームのベッド数を増すように努力してほしい。 現在老人ホーム等に入所されている方たちの受皿 三宅島の中心的な三宅島の特養老人ホームをもっと充実して行くべきだ。外部からの私的な施設は受入れてはならない。		
			「あじさいの里」のような施設の復旧・増設	26 あじさいの里は、よい施設だ。充分その機能が動き出せば高齢者の支援ができると思う。 あじさいの里のような施設は集落の中心に置いて歩いて行けるようにする。 あじさいの里の施設と復興後も以前と同じく機能できるように、行政全面に支援して欲しい。 あじさいの里の入所者数を増してほしい	
				高齢者向け集団住宅の建設	9 グループホームなどの設置に、村としても協力する。 グループホームが必要になって来ると考えられるので、今のうちからそれらの事については十分研究をしていく必要あり。 一人暮らしの老人達の共同生活等老人施設の充実 独居高齢者を共同生活することにより、より豊かな老後の生活ができるような施設
					既存の公共施設の利用する
福祉サービスの充実 (64)	老人が暮らしやすいようにする(在宅サービスの充実等)	35	食事の配達等どなたかやっていただけないものか。せめて夕食だけでも。 避難により、一層心のケアを考え、安心した老後を考える 帰島後逃げ回らない様に、安心して福祉を受けられる様にして欲しい。 高齢者単身世帯への援助を充実させてほしい。 施設の充実だけではなく、きめ細かい方法を検討してほしい。(例、高齢者の1人暮らしには民間の主婦などの協力を得て、訪問を増やす。→他県に好例有り、ご研究を。)		
			憩いの場の建設	16 温泉スパなどを作って欲しい。観光事業にも役に立つと思う。 福祉館はあるがそれを一つにして温泉とか、いいの場を充実して、それには、交通(バス)も充実しないとダメかも 温泉など憩いの場を作り、無料にすべき 村民のスポーツセンターとか温泉をふやしてほしい	
				障害者への対応	5 精神障害者用の集会場(作業場)を作ってほしい。あしたば生産花き類の生産等色々ある。働くよこび、他人との交際のし方等を通じ社会参加の機会を与え、自立出来る様にすべきだ。 障害者の人達が社会参加できるように、自立した生活ができるように。医療、福祉の体制を充実して。 1級障害者をもつ者には帰島後も避難また避難と家から避難所までつれ出す事が大変であるので障害者の住める施設がほしい
					介護保険
	島外の高齢者の受け入れ	4	島外高齢者も積極的に受け入れる体制作りを整える。 今後の島内産業が衰退するとしたら、老人ホームで島外から、今でいう定年後のハワイでなく、国内の三宅島へ、というのも1つの案かもしれない。 福祉施設(老人ホーム等)を、たくさん建て、都内のお年寄りの島にしてはどうでしょうか?		
			医療の充実 (30)	30 現状の中央診では不十分なので、もっと医療を充実させる。特に診療時間の拡大は必要である 病気の時、入院の看護が不自由です。 総合病院化 高齢化社会の人口増により、リハビリ専門の先生を常時配置可能な施設の整備を図って欲しい。 都立病院との連携を強くし、飛行機ヘリコプター等の便宜を計って欲しい。 ヘリポート付診療所の整備。 小児科、産婦人科がないのは、大変不便、せめて小児科医は常駐させてほしい。子供の病気などが心配で島に連れていくのを考えてしまう。	
					人材確保・育成 (20)
	6 ヘルパーや専門的な事がわかる人を増やし、体だけではなく心のケアも必要になってくる。 ケアマネージャー・ホームヘルパーの養成を。				

H問4-8 福祉施策

大分類	中分類	件数	回答例
福祉支援 (21)		21	福祉施設を拡大するための国への支援策、予算化
			島に帰って、元の生活に近い生活ができるよう、高令者のネットワークづくりを行政がする。
			バリアフリーにお金を出してほしい。
			長期に渡る避難により生活が苦しくなった人々が多いと思われる。帰島してもすぐ収入が得られるとは思えない。こんな不安を少しでも福祉の面で手助けがほしいと思う。
その他 (46)	今までと同じ でよい	20	今まで通りでよい
			8
	さらに対策を 希望	18	老人の為に温泉にいくシャトルバスの運行、病院にいくシャトルバスの運行
	その他		老人問題は行政のみに頼らず地域住民共助の体制の形を取って各自が可能ないろいろの面の協力体制 作れる事を目指したら良いと思う。 出来る事と出来ない事ははっきり住民に知らせるべきです。 サービス提供に対するコスト負担を住民に周知して、受益者負担の原則を徹底する 島に帰れない高齢者や障害者がいることを想定した上での施策展開も視野に入れるべき。帰島後の医 療、福祉体制の充実を見越して基金なども考えておかないと財政不足ということでその実現が難しくな ると思う。

H問4-9 その他の提案

大分類	中分類	件数	回答例
産業復興 の提案 (26)	観光対策	19	三宅島に寄附してくれた人は関心もっていると思うし、感謝の心を込めて帰島後寄附額の10%位還元する(大額寄附の人は三宅島招待券等。小額の人は三宅島の物産を送付する等の来島者装束キャンペーンをする。
			噴火前の三宅島と噴火後の写真を対比させたハガキ、カード等にして以前民宿にきてくれた方等に送付し、そのハガキを持って来島してくれたら割引等するなど。又島民が知りあい等にハガキを出し来島キャンペーンを全員でする。
			大島の「あじさいロード(?)」の様に三宅島中を花いっぱいにし観光資源にする・道路周辺を区分けし島民や本土の人に貸与し、責任をもって花を育てたりゴミをひろったりする。
			保養地として退職後来た人も居ましたが長期滞在形の施設も、避難生活の体験を生かして出来ないか。雄山の頂上に芝生の種をヘリコプターでまいて泥流対策としているようだが芝生でなく、ハーブの種をまき、一大ハーブ島をつくり観光に利用せよ。
			泥流の流れた沢や、泥に埋った所を、残せば残して、観光にも使えるのではないかな?
			島の観光でいえば三宅の一周道路に観光用の植物、造型物など、島独得のものを考え、三宅村と同時に各戸でもそのテーマにそって同じものを植えたり、おいたりする。
	民宿で出す料理に三宅独自のさしみ・野菜料理などをきめ、来る人全てにどの民宿に泊まっても最大限のもてなしができるようにする		
	火山灰を利用した産業の育成	5	多量の火山灰を利用した新しい産業を興す
			火山灰を産業として活用できる様に行政の方での指導を期待しています。
	専門家の参加	2	灰を利用し何か生めないだろうか(肥料、レンガ、ブロック?)
観光面で他の島と差別化する意味で自然保護の専門家の意見を入れるシステムを作るべき。その他火山関係、防災関係の専門家の意見も取り入れる。			
教育・福祉 対策 (16)	教育(学校の統合)	8	大学や学校などをつくってほしい。
			帰島後、小・中学校の統合を望む。何故ならば、学力の低下と現在秋川では合同で教育を行っている。空いた学校は他に利用する事が最も望ましい。例えば災害時の避難場所、コミュニティー施設等本格的に復興が初まると、両親とも三宅に滞在することになる家庭もある、その時の子どもの教育について深く考える必要がある。教育だけではなく、食事や健康面のケアなどの支援策も大切。
	福祉	8	老人と、その世話をしている家族が安心して帰って暮らしていくには、老人ホームの数を各地区につくり、医療を充実させることが大切だと思います。
			「福祉と観光の島」という案もあると思う。高齢率が高い事実を逆に産業に結びつける施策。元気農園、元気手工業、高齢者が元気に生活し続けられる環境を創ることによって観光もそういうことに関心を持つ人々が訪れることになるような、少し先を行く試みを準備していくのも楽しいと思う。
防災対策 (32)	住居移転対策	9	危険な地域の集落は移転する。
			集落の一場所を分散型から集中型にした方がよい。
			これを機会に村を区画整理して新生三宅島を
			家(自宅)の新築がむづかしい人達の為各地区に前もってアパート(5~6階立)をつくる。
	防災施設	7	島の半分を国に売却して、島民を集約する。村営住宅でよいのでは?
			泥流で、家を壊されたり、自宅に住めない人達が、たくさんいると思うが、その人達のために、仮設住宅を作ってほしい。
	道路整備	6	自宅を再建しない人達もいると思うので、村営住宅も、作ってほしい。
			交通アクセスの問題(高速船、ジェット化)
	防災対策(その他)	10	隣島への避難も含めた協力、防災対応も必要だと思う。
			一週道路及びその周辺の歩道等。整備
島の道路を作りなおして住みよい生活ができる様にしてほしい。(坪田の道はせませぎる)			
観光道を整備してほしい			
			今、三宅島で復旧作業してがんばっている人達の命と健康を守る対策をまず優先して欲しい。
			ライフラインの復興には努力されているのはわかるが、個人個人の家についても考えていってほしい。
			島の業者だけでなく島外の業者の応援を得て、早期に物事が処理できるように。(例えば島内の職工組合のみでなく)
			今進めている復旧作業はすぐやめた方が良い。ガスがとまってからすべて初めればよい。

H問4-9 その他の提案

大分類	中分類	件数	回答例
復興対策 (93)	全島民が協力する。(年代、性別をこえて話し合う機会を)	25	<p>5地区ではなく三宅島としてまとまった島になって欲しい。復興計画には、ぜひ、島民の声を聞いて欲しい。いろいろな部会(職種別とか、女性、子供の意見、先生の意見など)で話し合いが必要なのではないでしょうか</p> <p>若い人の考えも必要ですが、高令者の意見も充分考慮すべきだ。</p> <p>村民との対話が欠落している。後継者の青年層と三宅島の将来を話し合っていると聞いた。その後継者のメンバーは、話し合っている中味は?三宅島の村民が誰も知りません。不思議です。</p> <p>各階層の意見が充分反映できるような計画であってほしい</p> <p>住民自治がいかせるように個人の希望に耳を傾け話し合い交流の場を設けてほしいです。</p> <p>作成にあたって村長は、“若者の意見を”と発言しているのは一理あるが意見は広く聞き、アンケートでなく住民の声を「吸い上げる場所」を多くもって欲しい。(復興は住民の手で、多くの意見を聞き、あせらずに長期計画で)との声がある事を忘れずに。</p> <p>早急に各産業からの意見をまとめて三宅村独自の案を行政にぶつけて島民にすみやかに青写真を示すことが大事。これからはスピードが大事。</p> <p>専門家にお任せするしかないが計画は作成にあたっては住民の意見・了解を得つつやることも必要か?各地に住んでいる島民自治会の組織を活用すれば可能よいアイデアも出てくるのではないのでしょうか?</p>
	情報提供	24	<p>どの位復興が進んでいるかの情報だけは知らせて欲しいです。</p> <p>計画作成については作業中との事。その内容など知りたい。</p> <p>1.このアンケートを早急にまとめ、分析し、公表すること。2.アンケート結果について、どのような実行をするのか、行政を発表すること。3.帰島の見通し、現状の工事状況をきめ細く随時公表すること。</p> <p>新しく住宅を建てる方たちに、危険地区などのリストで知らせる。・噴火と自然を観光の目玉にして、早期復興の計画をたて島民を雇用する。</p> <p>復興計画案があるならばまずたたき台とし島民に提示すべきだと思います。それを元に、論議をすべきかと思えます。</p> <p>島民ふれあい集会にて復興委員の名前をとの事でしたがまだ実行されていない。</p> <p>砂防工事、道路工事が進められていくなかで誰にでもわかるように工事のことを住民に知らせてほしい。住民の意志を高めるために。</p> <p>三宅島の復興特別委員会を早急に立ち上げて、半年たったら一年経過した場合式は2年～3年と、分けて住民に復興のプランを提示すべきである。</p>
	行政と住民が協力する	22	<p>行政と島民が(農、漁業、観光、商工業者)が一体となった計画作りを進めてほしい。行政のおしつけで有ってはならないと思う。</p> <p>復興計画にあたっては、村民の意見も聞いて、行政と両方で進めた方が良い。(何十年も住んで居るからその人達の意見も聞いた方が良いと思う)</p> <p>特に直接に行政と住民とが話し合える場があまりにも少ない。懇話会、説明会など様々な形で行政と住民とが話し合える場をつくるのが大切。とくに密室のようなところで重要な問題が決定されてしまうということがないように。</p> <p>住民説明会を開いて住民の生の声を聴くべきである。</p> <p>島民の声を行政に届かせるシステムを作って欲しい。広域分散避難の上、島民は特に若い世代を中心に自身の生活におわれて、とても島民の側からその機会を充分につくることが出来ない。これだけの長期化なので、月1回、日を決めて、行政との意見交換会を開いてはいかがでしょうか。長期的な日程の発表もあれば、働いている人も都合がつけやすいと思う。</p> <p>受益者の意見(全体的に)を十分は握りて上のコンセンサスを得た事業確立を望む。</p> <p>復興計画を国や都に依存することのないよう島に、生まれ育った人たちが自立した島づくりのために智恵を出し合っていくことが望ましいと思う。</p> <p>復興のみ切り離して考えるのではなく、やはり復旧の上の復興と思う。又、計画段階から住民も参加出来る体制を作って頂きたい。</p> <p>広く復興計画を公募したらどうか。</p> <p>復興計画は、島民全体で考えるべきもの。各地区幅広く意見を聞くべきと思う。「委員会が設立」と聞くがどんなメンバーでどんなことが話されているのか公表してもらいたい。</p>
復興計画(全般)	22	<p>復旧、復興に合せこの機会時点で振興計画を樹立が先決です。振興計画の策定確定が急務です。</p> <p>帰島者減少→公共事業費、地方交付税減少→教育関係者、支庁職員、行政職員施設の縮少→人口減少この図式での計画を!出来得る限り多数の島民が希望をもって帰島できる計画を!</p> <p>大きな計画はやめてほしい。</p> <p>島に帰れなくなったらという想定プランも考えているのか?帰島にあたっては、若い世代(子供も含む)に帰ってもらえるように、努力しなと島の復興はありえないので、その辺を十分に考えていただきたい。(今の職員皆で!!)</p> <p>早く元の島に戻るように優先順位を決め、復興に力を入れるべきか</p> <p>1年後、2年後…予想されることとその対策を明確にするような骨子が欲しい</p> <p>当面の災害復旧、村民環境の整備等短期計画と将来方向的長期復興計画と2段階計画による実施計画</p> <p>住民の考え、意見を充分に取り入れた復興計画を。特にハード面と並行してソフト面(借り入れ金生活等、低辺生活者(老人、子供、債務者等)の引き上げ)を。</p>	

H問4-9 その他の提案

大分類	中分類	件数	回答例
復興対策 (38)	帰島後の支援	19	帰ってからも、税金や、いろいろな費用の免除をして欲しい。
			灰の除去とか、家の修理などの補助
			公共土木工事に頼り過ぎないこと。産業復興、育成に重点を置くこと。経済団体の基礎体力育成のため、噴火災害損失は、公共でカバーすること。
			解除帰島後島民は生鮮食品の入手が困難と成るものと思はれます。業者だけに任せる事なく1ヶ月～2ヶ月ぐらいの間は役場で仕入れて費用は個人負担でも配給してほしいと思います。
			自動車修理の班の確立(現在放置されている自動車の修理、ゴミ対策として)
			帰島したときにまず、各家庭から大量の「ゴミ」が発生すると思うので、それらを廃棄できるシステムを作してほしい。
	専門家の参加	6	以前の噴火のように個々で家を建て、借金に負われないよう、村での団地造りを望みます。
			泥流でこわれた家の人は帰っても住む所がありませんできれば皆さん一緒に帰島したいので住宅の確保を考えて下さい。
			専門家の能力を活用する必要があると思います。従来通りの手法で「コンサル」にまかせるのではなくコンサル会社の社員より島の人達が「上」になって専門家の能力を引き出す方法で復興計画の作成をするのが一番良いのではないかと私は思います。
			島民のみでの計画作成だけでなく、第三者として民間の企画会社などの意見を求め、今後の発展の望める復興計画をしては？
			若い世代といっても、三宅の狭い視野で育った人には、無理ではないか。もっと先見性と、専門性を持った人を入れるべき。大胆な発想ができること、今の様な地域の利益ばかり考えて計画されても、魅力はゼロです。
			他県の経験者や、有識者の意見をうまく取り入れてほしい。
			シンクタンクのかも借りて欲しい。復興委員会の人選は慎重に。島民の意見+外部の人の力で、全国から夢を求めて人が集まる案を願っている
復興対策(その他)	13	復旧を急ぐものは当然としても、復興に値いするものは時限立法の期間枠をこえて、長期の事業年度を 使える用に考えていただきたい。より確実な復興につながると思う。	
		仕事以外の人間関係を広げる場として、社会教育を充実させてほしい。 都や村におんぶにだっこ者が多く、三宅島の本当の復興に希待することが出来ないと思う 短時間の一時帰島では状況の把握は不可能です 島外にいる島の出身者に対してもう少し積極的に復興への呼びかけをする。	
その他 (36)	多くの島民が帰島するような対策	19	島民がこれなら安心して帰れると思える施策を。
			若い世代が進んで住めるような魅力がなければ、島が老人化してしまいそうだ。
			若い島の人が島にのこって生活していけるような仕事場が必要
	早期帰島	8	1日も早く帰れる様をお願いします
			早く島の人が帰れるように、非害の少ない所から島に帰えしていく。 2ヶ月又は3ヶ月に1度は三宅に帰宅して、自宅の管理(そうじや換気など)をさせてほしい。
	環境に配慮した復興	5	三宅島の良さである静かでおだやかな風土を壊さないような形での復興をすべきではないか 自然が豊かに残っている環境は、破壊しないで守ってほしい 個人の土地を都、村が買い上げて、人のたち入ることができない聖域(自然そのもの)のエリアを作って、自然のある島作りを目指して欲しい。
			復興計画については、この際、NLP誘致ということも考えにいれ国の支援を仰ぐのも一案ではないだろうか？
	米軍基地	4	横田基地の三宅島への移転
復興にあたって米軍の訓練施設建設や訓練受け入れなどが絶対ないように行政としても態度を明らかにしてほしい。			

気持ちや考え(P.14の自由回答)

大分類	中分類	件数	回答例
一時帰島 (143)	定期的に一時帰島を行う	81	<p>一時帰島を少なくとも月1回実施を即実現されたい。今回は時間的、人数も厳しく制限を受け、セレモニ一的に終わってしまった。</p> <p>もう一回一時帰島をして、よく家の状態を見て来たい。</p> <p>避難中であっても月に最低1回は家屋の管理のため、三宅島へ家族で帰りたい。</p> <p>避難生活が長びくことが予想されるのであればこれからも一時帰島を実現させて下さい。3ヶ月に一度無理なら6ヶ月に一度自宅に風を入れたりして家の被害を最少限にしたい。</p>
	自己負担・自己責任による一時帰島	27	<p>帰島の旅費は自己負担とし、防毒マスク、カートリッジは、必要数を貸出して頂き、島民の滞在は自己管理、自己責任の原則を推進されたい。</p> <p>何ヶ月に1回とか交通費、実費で帰島させられないものでしょうか。</p> <p>もう一度、帰島させてもらいたい。個人負担で(前回の帰島には、色々問題があるが、)3~4時間では家屋を2~3件もっている人など、掃除ひとつとっても、なにもできなかった。ネズミの被害が、増えない内に駆除したいので薬などいれたり対策を考えたいので。</p>
	1世帯の帰島人数を増やす	14	<p>再度一時帰島が出来るのなら、短時間であるため、一世帯の人数を増やして、全体の状況を見ることができるようしてほしい。</p> <p>今度一時帰島の時には一世帯2人をお願いします</p> <p>せめて2名で行ければ家の中、外で手わけして出来ると思う。</p>
	持ち出し品を多くしたい	12	<p>家にある家財道具類のある程度の搬出方法の検討をお願いしたい。</p> <p>島に残してきた商品は、まだ使えるものも多数あるので取りに帰りたい。</p> <p>車を東京へ持ち出す事はできないだろうか。商工会などでは持ち出す物などのアンケートが廻っているとか。その中で車と考えている人もいるとか…普通の人達でもなんとか必要なもの1点でもいいから車など持ち出せないかどうか考えていただきたい</p> <p>一時帰島の際に、大きい荷物も持ち出した。</p>
	宿泊を伴う一時帰島を行う	9	<p>宿泊を伴う一時帰島の実現を望みたい。</p> <p>できれば島内滞在を4日間程して、財産を守り、復興を始めたい。</p>
避難生活支援 (56)	生活費支援	23	<p>避難生活も長期化すると生活費等の支援も考えてほしい。</p> <p>正月前後にかけて、生活費の支援をお願いしたい。</p> <p>今の状態では、金銭的にも、精神的にも追いつめられてしまいます。行政の支援がなければ、これからの生活は、成り立っていきません。帰島後は、もちろんですが、今現在の生活の支援をお願い致します。</p> <p>高齢で国民年金だけで生活している人は、生活が苦しそうです。一日も早い生活支援を。</p>
	就労支援(避難時)	11	<p>現在島で工事に関係の大手ゼネコンの労働者ほとんどが北海道又は東北の出稼ぎだそうです。出来る事なら地元の土建屋さんに仕事をしてもらい地元島民の若い方々の働く場を作ってあげたいとお思います。よろしくお願いします。</p> <p>都会には高齢者向けの仕事がない。通勤に遠いし体力的に無理。</p> <p>行政で年齢に合ったアルバイト有りましたらおしえて下さい。</p>
	住居の移転	10	<p>府中南町団地に入れるなら入りたい。</p> <p>遠く離れて暮らしている人が、皆が集まっている団地に行きたいと希望する場合は、それが叶えられるようにしてほしい。とくに階が上の方になってしまうという理由でそれが叶わない場合は島民間で調整するなどして、若い世代が上層階に移るなどしてもいいのではと思う。</p> <p>阿古の人達が多数住んでいるアパート等に行きたい。(住みたい)</p>
	交通費・医療費等の支援	8	<p>半身不自由なので色々費用がかかる。急病で入院した時は余分な費用が掛る。東京のかかりつけの病院に行く時などタクシーを利用致します。そのために余分な費用が掛ります。</p> <p>高齢者からの介護保険の値上げは国の施策とはいえ、避難中は何とかならないか。</p>
地方避難者への支援	4	<p>行政に話をしてもなかなか聞き入れてくれないからと言われ一年過ぎました。(全く変わらない)本音を教えて頂きたいです。たとえ、地方だからと言っても島民である以上、配慮があって良いのではないのでしょうか。</p> <p>東京以外に住んでいるので東京の支援(ガス、水道の免除)がない。島民と話を電話すると西日本から東日本の通話になるので電話代がかかりすぎてしまう(行政への電話も同じ)。東京以外に住んでいる県、道に支援をたのむのではなく東京都として生活支援してほしい(静岡県は下水道料金がかかる)。東京以外に住んでいる人(家賃を払っている人)に、東京に住んでいる人との格差を少なくしてほしい。</p> <p>静岡に住む為には、援助できないと断られたのですが、私の知人、友人は、東京都以外に、移り住んだのに、家賃等、援助して頂いていると聞いております。避難後から仕事を静岡でやっている為今後とも静岡で生活するつもりですが住宅、特に家賃等について、東京都以外で生活している人も援助して致してるそうなのでご検討下さい。</p>	

気持ちや考え(P.14の自由回答)

大分類	中分類	件数	回答例
教育・福祉 (34)	福祉支援(避難時)	19	<p>老人ホームへ入居申請して2ヶ月、入れるのか入れないのか毎日返事を待って居りますが何の返答もなく2ヶ月が過ぎようとして居ります。今老健ホームに入院して居りますが、入院費が高く年金生活の身では医療費の支払が困難です。少しでも安い方に移りたいのですが1日も早い回答をお願いしたいのです。宜しくお願い致します。年金は医療費でなくなり生活が苦しくなって来ます。一日も早く入所出来る事を希望します。どこへお願いに行っても良いのか動きがとれず迷って居ります。</p> <p>三宅島のあじさいの里の方々にも少し顔も出して頂いて言葉をかけて頂きたいです。</p> <p>年寄いた両親を施設(ホーム)へお願いしたいと思ひます。</p> <p>避難後は娘夫婦に食事を世話して貰っています。この先、今からでも老人ホームでお世話になりますようお願いいたします。</p> <p>出来れば東京の老人ホームに入居したい。子供達も皆んな東京に住んでいるので度々会えるから…</p> <p>高齢者への介護保険料の免除</p>
	教育環境をよくする	15	<p>子供達も同じ避難が長期化になりせめて家族単位での生活はできないのだろうか。今でも秋川に子供達を預けている家庭があるようだが、私は秋川はもうやめた方がいいと思う。預けなければ生活できない家庭があるなら別の形で支援し、閉鎖すれば親も子供も選択できない形で答えを出せるのでは。</p> <p>学校は保・小・中・高各々1校ずつで良いのでは?子供を通して、親の交流も始まり、島の将来について話し合えるし、行動も起きやすくなるのではないだろうか。</p> <p>避難生活が長期化する中で、未就学児の支援が手薄すぎる。</p>
帰島後の支援 (115)	住宅補修費用支援	48	<p>家屋の修繕等の賃金、物価等が高くなると思われるので行政で指導をお願いします。</p> <p>高齢者、年金生活者にとって今回の屋根の自費修理は大きな負担であり経済的に対処できない人は帰島を諦めることにもなりかねない。応急的処置でもあり、復旧事業に含めることはできないのだろうか。</p> <p>屋根修理代、家の中の修理代など不安でいっぱいです。一日も早く島に帰りたいがお金のことで不安になります。</p> <p>泥流被害にあった民家の泥流を取りのぞくのは出来れば国や都にお願いして(家の中に入ったのも含めて)取りのぞく様お願いしたい。</p>
	産業復興支援	20	<p>一次産業のみに従事してきました。これからの農業を考える時、今までのようなパイプ施設では、若者の農家は育てて行けないと思ひます。国と都と村の補助事業で、しっかりした鉄骨ハウスで、40m~50m以上の風(台風時)が吹いても、だいじょうぶなような施設が、是非とも必要と思ひれます。</p> <p>三宅島への帰島したとき事業の再建資金の支援制度を考えてもらいたい。</p> <p>農業や漁業・観光業等の復興、例えば、田畑の土の入れ替えや漁港の整備などを行い、帰島したらすぐに就労できるようにする必要もあるのでは。</p> <p>農業をやっていたものとしては、帰島後、農業を復興させるまで3~5年の年月がかかるので、その間収入がとだえる為、長期に渡る行政の支援を望む。</p>
	福祉支援(帰島後)	17	<p>これからも、高齢者率は上がっていく事を考えると、高齢者に対しての施策を考えていかなければいけないと思う。</p> <p>一日も早くあじさいの里に帰りたい</p> <p>万全な医療や介護の体制が整備されないと介護が必要な者は島には帰れないのではないか。</p>
車等の廃棄・降灰除去費用支援	車等の廃棄・降灰除去費用支援	11	<p>車など、乗れそうもないので、村か都で廃車の車をどうにかして欲しい。</p> <p>そごみの処分について行政の見通</p> <p>島へ帰った時破損したものの補償を考えてほしい。お墓の灰とりを村でやって欲しい。</p>
	就労支援(帰島後)	10	<p>若い人のUターンやIターン等、それに対応できる娯楽施設や働く施設の確保</p> <p>島では、土木作業に就いて居りましたが、年齢的に再び、採用されるかどうか心配です。復興計画の際、高齢者も採用される様な作業分担を考えて欲しいと思ひます。</p> <p>以前のように、支庁の仕事、シルバーの仕事はあるのか</p>
村営住宅(仮設住宅)の建設	村営住宅(仮設住宅)の建設	9	<p>島内の噴火時の安全な場所に村営住宅を建設し村民に今後考えられる大規模噴火にそなえることが必要だ。</p> <p>屋根など被害が拡大すれば、借金をして自宅再建をする経済的余裕はない。村営住宅を建設して、入居させてもらえるか、このまま都営住宅に入居し続させて頂くかしてほしい。</p> <p>被害により住む家がない人もいるので公営の住宅を完備して、全員が帰えられること</p>

気持ちや考え(P.14の自由回答)

大分類	中分類	件数	回答例
防災対策 (20)	防災施設の充実	9	ガス対策のある避難場所を作ってもらい、帰島の希望を持たせていただきたい。帰島が長びくほど島に帰らない人が多くなるのではないのでしょうか？ 脱硫装置を増設してもらいたい。
	適切な復旧作業を希望	11	砂防施設の流路工は、流れ出る雨水によるイセエビ、トコブシ等の磯根漁場への影響がないものを検討して欲しい。 帰島の見通しが立っていないならば、復旧作業を中止して引き上げて欲しい。ある程度の見通しが立ってから作業を始めても遅くはないのではないかと思う。 砂防施設(ダム)など島内の危険箇所には造るのは良いけど、自然や環境に優しい施設を造るべきだ
情報公開 (74)	今後の見通しを示す	24	村(議会を含む)として都あるいは国に対して具体的にどの様な支援申請(陳情)をして頂いているのでしょうか。六月の噴火の降灰除去に始ってライフラインの維持管理砂防ダムの建設島民の一時帰島等に至るまでどれ位の資金が掛っているのでしょうか 帰島の見通しを早く伝えて欲しい。どの程度の段階でと発表して欲しい。 早い時期ではいつくらいに帰島できるのか、早くわかると良いのだがどのくらいのガスの濃度になったら帰れるのかももう少し、くわしく教えてほしい。
	復興計画	24	帰島を前提として、その方法、時期について早急に検討し、帰島計画を作成して頂きたい。 早期に復興計画をまとめて早いうちに島民に説明するべきだと思う。 復興計画、もっとオープンに知らせてください。島の人の声もと入れて。 復興計画の成否が島の将来を決めます。その人選と外部の専門家の知恵を借りて下さい。そのことを島民によく理解してもらい協力が必要。途中経過も次々発表して、改善策を。また島民協力の具体的内容も発表して欲しい。
	長期化の場合の計画の提示	10	避難が長期化した際の役場等、村そのものの在続については、どの様な対策をとられているのでしょうか?国からの支援を受けられなくなっていく部分も、出てくるでしょうし、早期に噴火が終れば良いのですが3年、5年と続いていった場合の、対策等、村の考えが知りたいと思います。 長期化(避難生活が)するような場合の行政の方針を(どうあるべきかについて)を是非指示して欲しい。 島へ帰ってからの生活設計を立てるにしても、何時帰島できるのか。1年後だとしたら、3年後だったら、と村が主体的に示してくれなければ、どうすべきかわからない。
	島の状況を詳細に公表する	10	現在、ガスが多量に発生しているとの事ですが、正確な情報を知らせて欲しい 避難生活も一年をすぎますが島の現状、情報が少ないので不安です。テレビ等での放送もあまりにも少なく簡単であるので島の現状を最優先して放送して欲しい 今現在、三宅島がどれだけ危険であるのかを具体的に島民に知らせる必要があると思う。(現地作業員、防災機関関係者が、島に常駐しているからと言っても、決して安全であるはずのない事を、周知徹底させる意味も含めて…)安易に島が安全だと思わせる(思われる)のは良くないと思う。
火山活動の状況	6	本当の三宅島の状態を公表すべき。山にどれだけ灰があるのか、ガスの安全値や今の状況、体への影響、帰ることのできる基準についても明確ではない。 帰島が可能となる(ガスの濃度)とはどの位ですか %でお知らせ下さい 火山活動の様子を詳しく知りたい 今後はどうなってゆくのかしばらくは噴火はないのかどうか、三宅島に住む事ができる様になるのか ガスの濃度がひくくなって島に帰れる状態になった時、今まで程度の期間年数 噴火はないのか 調査の状況 このまま避難の状態がいつまで続くのか、これまでの島独自の施策をしりたい。	
住民と行政の協力 (25)	行政と住民の話し合いの場	25	行政依存型から脱皮し、真に自立した島を目指して、島民の人たちが智恵を出し合って復興のためがんばってほしいと思う。 行政と住民が、ペーパーを通してではなく、意見を出し合える場の実現を是非お願いしたい 住民説明会は、大変でも定期的に開催して欲しい。前回のような方法で良いと思う。ビデオ視聴は行かない。行政の説明と住民からの質疑の時間を多くして欲しい。 「復興検討委員会」があるが、名ばかりでなく実のある物としてほしい又、そこで話しあわれた事を皆に開示して、メンバーに入っていない人は、その業界の代表を通して、村長以下行政に発言する機会を得ようとする。そして最低月1回は開く。又メンバーもこの先ずっと固定ではなく少しづつでも入れかえるとかして、本当に復興を島民全員で考えてく。 住民との意見交換(復興についてや現状)を積極的に行ってほしい。様々な課題に対して、一緒に考えていける場を設けてほしいです。

気持ちや考え(P.14の自由回答)

大分類	中分類	件数	回答例
行政対応 (67)	村、都、ボランティア等に対する感謝 行政の対応に対する苦情	32	多くの方々の温かい心づかいに感謝しています。 行政の人は大変だと思いますが頑張ってください。色々ありがとうございました。 八王子の地域の皆さんに大変お世話になり感謝致しております。
		28	村民は対話を求めています。何故に村民に村の考え方を示さない。村民の意見を聞かない。誰が見ても三宅村民は不幸です。避難中の村民から多くの要望が三宅村に寄せられている。その窓口能力が欠落している。泥流災害を受けた住民の一人として不思議な事が多い。担当課の対応が前向きでない。反応がない。使命感、責任感が見えない。誰が決定権者かが見えない。村民の為に、村長、議会が力を合せて課題を解決する確実な体制が見えない。村を支える色々な部門の責任者(その道のエキスパート)がいる。何故その人達を尊重しないのか。 すべての面で行政の対応が遅かったと思う。すべてのことに言えるが、住民よりも公的な対応を優先させすぎたと思う。 本当の現実の姿を直接聞いてみて、事務的でなく対応される事を望みます 中央にばかりいないで、どんな事を望んでいるか直接考えを聞いて下さい。
	7	議員も12人もいるが島の住人の事を心がけているのかもう少し一言で良いから元気でいるのかと声位かけても良いと思う。 議会の議員活動はどのようなことをしているのでしょうか。議会議員の行動が何も見えない。 村と村議、特に議員活動が都や国に対して必しも充分とは云い難い。住民の意見を集約して、陳情、請願を何回でも繰返すべきではないのか。	
		その他	
(221)	島で生活したい	88	一日も早く島に帰りたいです。 土建業だけでは三宅の復興はできないと思います。道路や砂防施設ばかりが復興ではないと思います。まずは帰れる場所から返していただきたい。
	将来への不安	43	帰島できる日が全くわからないので、中途はんばな状態 島に住むことをあきらめるにも、はっきりしないので、生活の基盤を決める事もできない。 一日も早く三宅にもどりたいが、もどってまた避難、避難では生活が出来ません。本当に絶対大丈夫。という事にならないともどれません。とても、つらい気持ちでいっぱいです。 このまま何年も三宅島に帰れなかったら、どうやって生活したらいいのか考えてしまう。
	アンケートについて	33	アンケートはたびたび作ってほしい。でも名前を書いたのでは本心を書くのがためらう。 通院、入院、死亡など耳にしているが、今回の実態調査にこの設問がないことに失望した。 このアンケートに子どもの教育問題について触れられていないのが残念です。 調査項目CとDについては、プライバシーにかかわるとの思いが強く、とても抵抗を感じました。こうした項目について真の実態を把握するには、別紙にして、無記名の方がよかったのではないのでしょうか。 アンケートでは本当のことは、わからないのではないのか。生の声を聞く必要があると思う。管理職の人が直接訪問して、みたほうが良いと思う。
	新しい三宅村	12	今後帰島見通しが付かない場合、国や都に島全体を買っていただき都内に三宅村を。 全島民を永久的に安全な土地に移転させることだと思います。もしも、避難生活が後1~2年とつづく状態であるとしたら、今こそ行政が決断すべき時だと考えます。 今後避難が続く場合は、都内等において村の行政区を作り安定した住居基盤を置き各自安心した生活を送れるようにする。
	健康に対する不安	10	年令のこともあり、足が不自由なので、それが心配です。 足腰がよわり、健康を保つのがむずかしい。
	米軍基地問題	9	NLP新空港案を持ち出してまた島を割るような事態になるのは避けてもらいたい。軍用ジェット機のごう音響く島になってしまったら少なくとも観光客は激減してしまう。 島の復興との名目でNLP基地が島に出来るということには絶対に反対である。この点は行政として明確に立場を堅持してほしい。 NLPに関するはっきりとした結論を出してほしいです。それによっては、帰島するかしないかが変わってくる人も居ると考えられます。
	観光事業の提案	4	三宅島は土地より海の方が広いですから海を利用し、東京の人に泳げるように整備して、海の底に水族館を造って、内地の観光客見物する呼びよせたら島の発展につながると思います。 火山口を見るため道路、ケーブルカーなどを作っておきます。または大きな花の公園を作ります。季節の花だけでなく、その中に運動場、レストランなども作ると思います。
	交通の確保	4	三宅もこれから常駐する人が増えるので、週一度だけでもストレッチャー丸が寄れば良い。 三宅島への直行便はいつ頃から可能になるか?神津島経由だとロスが多いので考えてしまう。 帰島後の島と東京を結ぶ東海(船)エアニッポン(飛行機)の確保を。
	その他	18	結婚式など行事が多くてお手あげです。お世話になっているので仕方がないけど避難している現在でも多いんです。月10万ぐらい出費があったりして友人知人が多いのも考えものです。 義援金の配布について 大人も子供も同じ額で配布しているけど、子供のいる家の生活は裕福である。大人が子供を食わしているのに子供のいる家こそ大人が遊んでいる。義援金、支援金の配布方法がまちがいである。 帰島しなかった場合、今の住宅には居られなくなるのか。

資料3（調査票）

三宅島火山活動災害 第2回避難生活実態調査



平成13年10月
三宅村

本年3月の第1回アンケート調査からすでに半年が過ぎており、皆さまには、生活の状況などにもさまざまな変化があるものと思われま。そこで今回、一時帰宅の体験も踏まえた第2回の実態調査を実施することといたしました。今回の調査は、今後の各世帯の個別支援も視野に入れており記名方式で実施致します。現段階での皆様の生活実態のほか、復興に対する要望などについてもお聞きします。

つきましては、**島民の皆様の支援策や今後の防災対策のための貴重な資料になりますので、必ずご記入の上、ご返送下さい。**

なお、本調査の回答はすべて統計的に処理し、個人名で公表されるようなことはありません。どうぞ率直なご意見をお寄せ下さい。

【ご記入にあたってのお願い】

この調査票は、平成13年10月1日現在の住民基本台帳などに基づく避難先の世帯主（宛名の方）に送付しております。（ただし、平成12年9月4日以降の転入者は除いております。）

- ①調査票の記入は、世帯主の方をお願いいたします。
- ②避難先に複数の世帯主がいる場合は、それぞれ世帯ごとに別の調査票にご回答下さい。
- ③世帯主の方がお仕事等でご不在の場合、世帯主に準ずる方がご回答下さい。
- ④回答は、特に指定がない限り、各設問ごとあてはまる番号を1つだけ選んで○印をつけるか、（ ）、内および下線部に記入して下さい。
- ⑤回答が「その他」にあてはまる場合は、（ ）内になるべく具体的にその内容をご記入下さい。

【問い合わせ先・調査の回収について】

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒にて、

11月2日（金）までにご投函下さい。

なお、本調査についてのお問い合わせは下記までお願い致します。

三宅村 総務課 電話：03-5320-7824

まずお名前とご住所をお書き下さい。

世帯主（宛名の方）のお名前
〒
避難先の住所
避難先の電話番号

A ご家族について、お伺いします

問1 世帯主の方の年齢はいくつですか。

満 _____ 歳

問2 家族数は全員で何人ですか。生計を共にしている人の人数（別々に生活している家族も含む）をお答え下さい。

_____ 人

問3 問2でのご家族のなかに（世帯主を含む）次に該当する人はいますか。該当するもの全てに○をつけ、（ ）内に人数を記入して下さい。

- | |
|--------------------------------|
| 1 未就学の子供（ _____ 人） |
| 2 小、中、高、大学などに行っている子供（ _____ 人） |
| 3 老人ホームに入っている人（ _____ 人） |
| 4 入院中の人（ _____ 人） |

問4 三宅島では、どの地区にお住まいでしたか。

- | | | | | |
|------|------|-------|------|------|
| 1 神着 | 2 伊豆 | 3 伊ヶ谷 | 4 阿古 | 5 坪田 |
|------|------|-------|------|------|

問5 あなたの三宅島での住宅についてお聞きします。

- | | | | |
|-------------|--------------------|------|---------|
| 1 持ち家 | 2 村営住宅 | 3 社宅 | 4 公務員住宅 |
| 5 借家・民間アパート | 6 その他（具体的に： _____） | | |

問6 避難前のあなたの世帯の最も大きな収入源になっていた職業に1つ○をつけて下さい。

- | | | | | | |
|-----------|---------------------|---------|-------|--------|--------|
| 1 農業 | 2 漁業・水産加工業 | 3 建設業 | 4 林業 | 5 運輸業 | |
| 6 公務員 | 7 民宿業 | 8 サービス業 | 9 飲食業 | 10 小売業 | 11 金融業 |
| 12 電気・通信業 | 13 その他（具体的に： _____） | | | | |
| 14 年金 | 15 無職 | | | | |

(問6で1～13とお答えの方にお聞きします)

問7 その就業の形態は何ですか。

- | | |
|---|-------------------------------------|
| 1 | 会社・団体・個人などに雇われている（常時雇用されている） |
| 2 | 会社・団体・個人などに雇われている（アルバイト・パート等の臨時的雇用） |
| 3 | 自営業 |
| 4 | その他（具体的に： _____） |

問8 **避難後**のあなたの世帯の**最も大きな収入源**になっている職業に**1つ**○をつけて下さい。

- | | | | | | | | | | | | |
|----|--------|----|------------------|---|-------|---|-----|----|-----|----|-----|
| 1 | 農業 | 2 | 漁業・水産加工業 | 3 | 建設業 | 4 | 林業 | 5 | 運輸業 | | |
| 6 | 公務員 | 7 | 民宿業 | 8 | サービス業 | 9 | 飲食業 | 10 | 小売業 | 11 | 金融業 |
| 12 | 電気・通信業 | 13 | その他（具体的に： _____） | | | | | | | | |
| 14 | 年金 | 15 | 無職 | | | | | | | | |

(問8で1～13とお答えの方にお聞きします)

問9 その就業の形態は何ですか。

- | | |
|---|-------------------------------------|
| 1 | 会社・団体・個人などに雇われている（常時雇用されている） |
| 2 | 会社・団体・個人などに雇われている（アルバイト・パート等の臨時的雇用） |
| 3 | 自営業 |
| 4 | その他（具体的に： _____） |

B 一時帰宅について、お伺いします

問1 ご自宅の被害状況はいかがでしたか（○はいくつでも）。

- | | |
|----|-----------------------------|
| 1 | 泥流で、補修できないほど家が壊れていた |
| 2 | 床下に泥流が堆積していた |
| 3 | 泥流は畳や床の上まで堆積していた |
| 4 | 家の中に大きな石や流木が流れ込んでいた |
| 5 | 敷地内に泥流がたい積していた |
| 6 | 敷地内に大きな石や流木が流れ込んでいた |
| 7 | ドアの鍵穴、ベランダなど金属製の部分が腐食していた |
| 8 | 畳や壁などにカビが出ていた |
| 9 | 屋根に穴があいていて、室内に雨水が入っていた |
| 10 | 白アリが出始めていた |
| 11 | 室内にネズミなどの小動物が入って荒らされていた |
| 12 | 窓のガラスが壊れていた |
| 13 | その他（被害の具体的な内容： _____） |
| 14 | 特に目立った被害はなかった |
| 15 | 帰島していないので、分からない → 問3へお進み下さい |

(問1で1～14とお答えの方にお聞きします)

問2 一時帰宅してご自宅をご覧になった結果で、被害はどの程度でしたか。

- | |
|-------------------------|
| 1 補修だけではとても住むことができない被害だ |
| 2 補修すれば住むことができる程度の被害である |
| 3 補修するほどの被害ではない |
| 4 その他 () |

問3 自己所有の住宅にお住まいしていた方に質問します。ご自宅の再建について、どのように考えていますか。

- | |
|-----------------------------|
| 1 軽微な被害であるため、補修して住み続ける |
| 2 大きな被害を受けたが、今の場所で再建したい |
| 3 大きな被害を受けたが、同一地区内で住宅を再建したい |
| 4 三宅村の別の地区で住宅を再建したい |
| 5 再建せずに村営住宅に入りたい |
| 6 被害がないので再建の必要がない |
| 7 帰島するかどうかわからない |
| 8 帰島しない |
| 9 その他 () |

問4 借家（社宅・村営住宅も含む）にお住まいしていた方に質問します。帰島後の住まいについて、どのように考えていますか。

- | |
|-----------------------|
| 1 離島前のもとの借家に住み続けたい |
| 2 島の同一地区内の別の借家に住み替えたい |
| 3 島の別地区の借家に住み替えたい |
| 4 帰島するかどうかわからない |
| 5 帰島しない |
| 6 その他 () |

問5 今後、ご自宅について特に心配される被害は何ですか（○は3つ以内）。

- | |
|----------------------|
| 1 泥流による被害 |
| 2 ドアの鍵穴などの腐食 |
| 3 畳や壁などのカビ |
| 4 屋根に穴があいて、室内への雨水の浸入 |
| 5 白アリによる被害 |
| 6 ネズミやイタチなどによる被害 |
| 7 窓のガラスやドアの破損 |
| 8 あまり心配はしていない |
| 9 その他（被害の具体的な内容：) |

C あなたの世帯の生計について、お伺いします

問1 現在、1ヶ月あたりの生活費はどの程度ですか（9月分を参考に回答して下さい）。

約	万円
---	----

問2 問1の1ヶ月あたりの生活費のおおよその支出内訳を全項目についてご記入下さい。
（支払っていない時は、0^{ゼロ}とご記入下さい）。

費目	金額
1 家賃（管理費含む）	1ヶ月あたり約 円
2 電気代	1ヶ月あたり約 円
3 ガス代	1ヶ月あたり約 円
4 水道代	1ヶ月あたり約 円
5 電話代	1ヶ月あたり約 円
6 自動車や住宅ローンなどの返済	1ヶ月あたり約 円
7 事業のための借入金の返済	1ヶ月あたり約 円
8 公的年金（国民年金・厚生年金など）	1ヶ月あたり約 円
9 健康保険	1ヶ月あたり約 円
10 その他の民間生命保険・損害保険	1ヶ月あたり約 円
11 医療費（交通費含む）	1ヶ月あたり約 円
12 食費	1ヶ月あたり約 円
13 その他（1-12以外の衣料費など）	1ヶ月あたり約 円
以上の合計は、問1の金額	

問3 問1の生活費をどのような方法で得ていますか。全項目についてご記入下さい（9月のご家庭での合計収入を参考に回答して下さい。また、収入のない項目については、0^{ゼロ}とご記入下さい）。

項目	人数	金額
1 給料として	人分	1ヶ月あたり約 円
2 アルバイト代として	人分	1ヶ月あたり約 円
3 年金	人分	1ヶ月あたり約 円
4 子供からの支援		1ヶ月あたり約 円
5 義援金・生活再建支援金から		1ヶ月あたり約 円
6 保険の解約や預貯金の取り崩し		1ヶ月あたり約 円
7 避難後の新規借入金		1ヶ月あたり約 円
8 その他 (具体的に：)	人分	1ヶ月あたり約 円
		以上の合計は、問1の金額

問4 避難前と比べて今の収入（世帯の合計収入）はどうになりましたか。

1 収入がまったくなくなった 2 月額で2～3割くらい減った 3 月額で5割くらい減った 4 月額で5割以上減った 5 あまり変わらない 6 収入が増えた 7 その他 ()

問5 現在の収入で、あなたの世帯の暮らしむきはどのような状態ですか。

1 切り詰めた生活をしているが、非常に苦しい 2 切り詰めた生活をしているが、苦しい 3 切り詰めた生活をして、何とか暮らせている 4 避難前とほぼ同程度の暮らしである 5 その他（具体的に：)
--

問6 今後の生計の見通しはどうですか。

1 非常に苦しくなりそうだ 2 少し、苦しくなりそうだ 3 苦しいが、何とか暮らせそうだ 4 避難前とほぼ同程度の暮しができそうだ 5 その他（具体的に：)

問7 経済面で考えたとき、今のこのような状態をあとどれくらいの期間続けられると思いますか。

1 1年未満 2 1年ぐらい 3 2年ぐらい 4 3年ぐらい 5 4年以上

問8 お宅の毎月の不足額はいくらぐらいですか。

1 ()万円くらい必要	2 不足額はない
--------------	----------

↓

(問8で1とお答えの方にお聞きします)

問9 もし、それだけのお金を得られれば、今のような避難生活をあとどれくらいの期間続けられると思いますか。

1 1年未満	2 1年ぐらい	3 2年ぐらい	4 3年ぐらい	5 4年以上
--------	---------	---------	---------	--------

現在、生活に困窮した場合、生活保護制度があります。生活保護制度とは、働いて賃金等を得ていても、また、年金、貯金等、あるいは親族の援助などを活用しても、なお生活に困るときに保護を受けられるものです。

三宅島から避難された島民の方々へ支給された義援金や見舞金等については一定の条件の基に収入と認定しないで、保護の受給が可能となります。

※ 生活保護制度について詳しく知りたい場合は、

三宅支庁福祉係（電話03-5320-7855）までご連絡ください。

問10 上記の生活保護制度について、今のあなたのお考えをお聞きします。

1 困っているので、早い時期に相談したい
2 困っているが、相談するつもりはない。(その理由は)
3 今は相談しないが、今後困ったときに相談したい
4 今は必要としないし、今後とも相談するつもりはない
5 すでに受給している

問11 あなたは、生活に困っている世帯に対し、行政が取り組むべき支援策としてどのようなものが必要だと思いますか(○は3つ以内)。

1 就労に対する支援
2 事業に対する支援
3 子供の教育費に対する支援
4 健康保険や年金などの保険料免除の支援
5 電気、ガスなどの基本料金免除の支援
6 住宅ローンの利子補給
7 税の減免
8 医療費への補助
9 不足する生活費に対する直接支援
10 その他 ()

E 就労について、お伺いします

問1 あなたのご家族の中で現在就労している人は何人ですか。

_____人

問2 ご家族の中で今現在仕事を探している人（今仕事をしている人でも別の就労の希望がある方も含みます）は何人いますか。

1 いない	2 1人	3 2人	4 3人	5 4人以上
-------	------	------	------	--------

問3 就労について希望する支援策があれば自由に意見をご記入下さい。

----- -----

F 住宅について、お伺いします

問1 現在、ご家族のみなさんが生活されている住宅の種類は何ですか（数カ所にわかれている場合は、当てはまるもの全てに○をつけて下さい）。

1 公営住宅	2 民間賃貸住宅	3 親・兄弟の家	4 知人宅
5 子供の家	6 社宅	7 老人ホーム	8 その他（ ）

問2 避難されている住宅についてお聞きします。ご不満がある方はその理由もご記入下さい。

1 今の住宅でほぼ満足している	→ 問4へお進み下さい
2 不満がある→（その理由は	）



（問2で2とお答えの方にお聞きします）

問3 住宅の住み替えを希望しますか。

1 希望する	2 希望しない
--------	---------

問4 **東京都以外にお住まいの方にお聞きします。** 役場の斡旋により東京都内への居住を希望しますか。

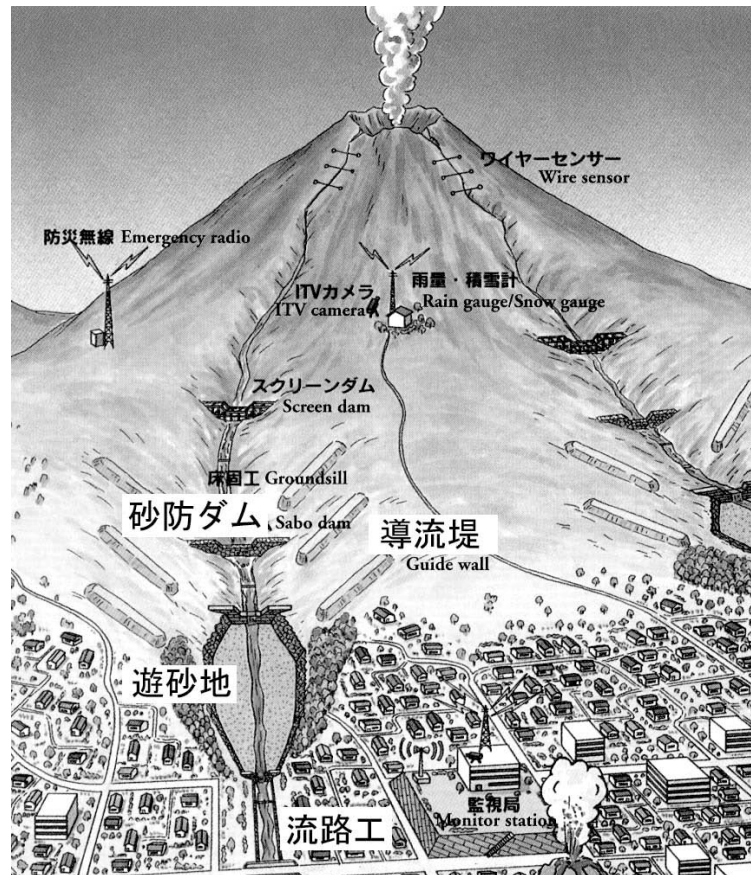
1 希望する	2 希望しない
--------	---------

問5 長期化に備え、今後島民の住まいをある程度集約化した方がいいと思いますか。

1 都内の数カ所の地域に希望者だけでも島民が集まって生活できるようにして欲しい
2 必要はない
3 分からない

G 砂防施設・防災対策について、お伺いします

砂防施設とは、火山噴火や降雨に伴って発生する泥流などの災害から、人家や農地、公共施設などを守ることを目的に、溪流などに設置される施設です。主なものとして、砂防ダム、遊砂地、導流堤及び流路工などがあります。



〔出典：「日本の活火山と砂防」砂防広報センター，2000年3月〕

問1 あなたは上記のような砂防施設の果たす役割を知っていましたか。

- 1 良く知っている
- 2 少し知っている
- 3 知らない

問2 あなたは三宅島の中に、災害避難前より砂防施設があったことを知っていましたか。

- 1 実際に見たことがある
- 2 見たことはないが、あることは知っている
- 3 知らなかった

問3 砂防施設を建設するため、お宅の土地の買い上げを求められた場合に、どのように考えられますか。

- 1 全面的に協力する
- 2 自宅の土地以外は協力する
- 3 代替地があれば協力する
- 4 買い上げには応じられない
(その理由は)
- 5 土地を所有していない (借地も含む)
- 6 わからない
- 7 その他 ()

問4 現在三宅島で砂防事業を進めています。すべての溪流で安全が確保できるようにするには、長い時間がかかります。今後の砂防事業の進め方について、あなたのお考えに近いものに**1つ**○をつけて下さい。

- 1 人家の多い場所などの溪流を優先的に選定し、順位を決めて整備を進めるべきである
- 2 島全体をまんべんなく同時並行的に整備を進めるべきである
- 3 わからない

問5 もしも、あなたのご自宅が大雨時に泥流が発生する溪流の近くに建っており、泥流被害を受けるおそれがあるとした場合、どのようにしたい (またはしてほしい) ですか。今のお気持ちに近いものに**1つ**○をつけて下さい。

- 1 自分の家が危険であるならば、安全な地区へ移転したい
- 2 近所の人たちが移転するなら一緒に、安全な地区へ集団移転したい
- 3 住み続けたいので、早期に砂防施設を整備して安全を確保してほしい
- 4 わからない

問6 砂防施設について、どのようなことに特に配慮してほしいと思いますか (○は3つ以内)。

- 1 できるだけ集落のコミュニティを壊さないようにしてほしい
- 2 できるだけ自宅が残るようにしてほしい
- 3 危険な農地や自宅を移転しても、しっかりした砂防施設をつくり泥流被害を最小限にほしい
- 4 できるだけ自然を残すようにしてほしい
- 5 できるだけ景観に気をつけてほしい
- 6 その他 ()

問7 帰島した後、避難が必要な大雨時に、あなたはどのような情報を伝えてほしいですか (○は3つ以内)。

- 1 役所等からの避難勧告や自主避難の呼び掛け
- 2 現在の雨量や予測雨量
- 3 気象台の発表する大雨注意報・警報
- 4 泥流発生の情報
- 5 周辺地域 (近所) の避難状況や災害状況
- 6 避難場所や避難路などの情報
- 7 その他 ()

問3 三宅村の将来像について、あなたのお考えに一番近いものに**1つ**○をつけて下さい。

- | | | |
|---|-------------------------------------|---|
| 1 | 今まで通り、農林水産業と観光の島にすべきだ | |
| 2 | 今まで以上に、農林水産業の島にすべきだ | |
| 3 | 今まで以上に、観光の島にすべきだ | |
| 4 | 農林水産業と観光を除く、新しい産業を誘致すべきだ
(具体的に：) |) |
| 5 | 噴火が短い周期で起きることから、なるべく人は住まない方がよい | |
| 6 | その他 (|) |

問4 以下の質問は、今後村の復興計画を作成するうえで、皆さんの提案を聞くためのものです。日頃、考えていることやご提案についてご自由にお書き下さい。

1 島の交通施設（飛行機、船、道路など）について。

2 島のエネルギー施設（発電など）について。

3 島の防災施設（避難施設や砂防施設など）について。

4 島の観光事業について。

5 島の漁業について。

<hr/> <hr/>

6 島の農業について。

<hr/> <hr/>

7 島の商工業について。

<hr/> <hr/>

8 福祉施策について。

<hr/> <hr/>

9 復興計画作成にあたって、その他提案があればお書き下さい。

<hr/> <hr/>
